

令和2年度省エネルギー促進に向けた広報事業

(次世代層向けの省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテストの実施)

第2回省エネ政策提案型 パブリック・ディベートコンテスト 事業成果報告書

令和3年 3 月

東北経済産業局

もくじ

■大会概要関係	ページ
第2回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト 大会概要	3
大会スケジュール	4
大会趣意	5
会場	6
ルーム振り分け	6
試合組み合わせ表（中校生の部）	7
試合組み合わせ表（高校生の部）	8
大会結果	9
■開催記録	
会場の様子	12
主催者挨拶	14
試合組合せ抽選・大会ルール説明	16
第1試合・第2試合	22
中校生の部 決勝戦	24
高校生の部 決勝戦	34
エネルギーの専門家との省エネワークショップ	42
決勝戦解説・結果発表	51
表彰式	57
閉会挨拶	60
■アンケートの集計結果	
出場チームのアンケート集計結果	62
審判員のアンケート集計結果	67
事前登録者のアンケート集計結果	70
■報道	
新聞報道記事	72

《資料集》 もくじ

■大会ルール関係	ページ
政策提案型パブリック・ディベート・ルール	75
政策提案型パブリック・ディベート・ガイドライン	77
政策提案型パブリック・ディベート・ワークシート	81
よくあるご質問への回答	85
■出場校募集関係	
出場校募集要項・大会趣意	87
参加申込書	89
個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて	91
■事前学習資料関係	
事前学習資料について	92
エネルギー関連サイト一覧	93
■大会広報関係	
大会広報用チラシ	94
公式 Facebook ページ	96
■大会のしおり	98
■大会当日の配布物関係	
大会プログラム	111
決勝戦投票フォーム	115
決勝戦投票事前登録者向けアンケートフォーム	116
出場チーム生徒及び引率者向けアンケートフォーム	119

第2回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト 大会概要

名 称	第2回政策提案型パブリック・ディベートコンテスト
日 時	令和3年1月10日（日）9：00～16：30
テーマ	with コロナのための「新しい生活様式」を实践し、 命と健康を守りながら持続可能な社会を目指すためには、 どのような省エネ政策が効果的か。
会 場	オンライン開催 [大会本部] TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口 7C、7D カンファレンスルーム
主 催	東北経済産業局、東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会
協 力	特定非営利活動法人全国教室ディベート連盟東北支部、 一般財団法人省エネルギーセンター東北支部
後 援	青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・仙台市 各教育委員会、 河北新報社、朝日新聞仙台総局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、 日本経済新聞社仙台支局、産経新聞社東北総局、東奥日報社、 デーリー東北新聞社、岩手日報社、秋田魁新報社、山形新聞・山形放送、 福島民報社、福島民友新聞社、日刊工業新聞社東北・北海道総局、 NHK 仙台放送局、tbc 東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB 東日本放送
出場チーム	[中学生の部] 八戸工業大学第二高等学校附属中学校 学校法人青森山田学園 青森山田中学高等学校Aチーム 学校法人青森山田学園 青森山田中学高等学校Bチーム 学校法人龍澤学園 盛岡中央高等学校附属中学校 東北学院中学校 学校法人古川学園 古川学園中学校 秋田大学教育文化学部附属中学校 福島県立ふたば未来学園中学校 [高校生の部] 八戸聖ウルスラ学院高等学校 岩手県立盛岡第三高等学校 学校法人古川学園 古川学園高等学校 秋田県立秋田西高等学校 秋田県立秋田高等学校 山形県立山形東高等学校 福島県立福島西高等学校 福島県立平工業高等学校
事務局	省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事務局（株式会社ピーツ ーカンパニー）

大会スケジュール

時間	内容	
8:30	オンライン接続・受付開始	
9:00	開会式	◎主催者挨拶 ◎試合組合せ抽選、大会ルール説明
10:05	第 1 試合 （9 : 50 接続開始）	◎中学生の部 ◎高校生の部
11:15	昼食	
12:10	第 2 試合（12 : 05 接続開始）	◎中学生の部 ◎高校生の部
13:40	決勝戦 （13 : 35 接続開始）	◎中学生の部 ◎高校生の部 ◎YouTube ライブ配信 ◎オンライン投票
14:50	エネルギーの専門家との省エネワークショップ（14 : 40 接続開始）	参加した中学生・高校生が各自の端末から接続し、本日のディベートについて、省エネルギーの専門家と一緒に振り返りを行います。
15:50	閉会式	◎決勝解説・結果発表 ◎表彰式 ◎閉会挨拶
16:30	閉会	

大会趣意

with コロナで省エネルギー提案！！

～持続可能な社会を目指すための省エネ政策～

2020 年春、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため学校が休校となってからのステイホーム、そして緊急事態宣言。今まで当たり前だと思っていたことが当たり前でない時代になりました。

日本は、1970 年度の石油危機以降、省エネルギーを推進し、1973 年から 2018 年までに GDP は 2.6 倍に伸ばしましたが、エネルギー消費は 1.2 倍の増加に留めています。また、東日本大震災が発生した 2011 年以降は節電意識の高まりなどで全体のエネルギー消費の減少が更に進みました。

一方、家庭部門においては、快適・利便性を求めるライフスタイルの変化等により、1973 年から 2018 年までにエネルギー消費は 1.9 倍に増加しており、省エネルギーの推進が喫緊の課題となっています。2015 年 7 月に策定された「長期エネルギー需給見通し(エネルギーミックス)」では、徹底した省エネルギー対策により、2030 年度までに、2013 年度の最終エネルギー消費(原油換算 3.6 億 kl)から原油換算 5,030 万 kl 程度(13%程度)ものエネルギーを削減することとしています。

2030 年度に向けて省エネしていこう、そんなときに起きたのが、今回の新型コロナウイルス感染症の世界的大流行でした。日本では、4 月から 5 月まで緊急事態宣言が発令され、外出や営業の自粛の要請なども行われました。交通量が激減し、工場の稼働が停止・縮小されました。その結果、大気汚染などは一時的に劇的に改善された地域もあります。

しかし、このように強制的に我慢してエネルギー消費を少なくすることは、「省エネルギー」ではありません。省エネルギーとは、「エネルギーを効率よく使うこと」なのです。

このステイホームの期間に、新しい生活様式が提案され、企業の在宅勤務が進んだり、持ち帰り食品用のプラスチック容器の利用が増えたりしました。日本全体のエネルギー消費は減少したものの家庭部門は増加した、という調査結果などを耳にしたこともあるのではないのでしょうか。3 月から 5 月の都市ガス消費をみると、日本全体では前年同期比 7.3%減少しましたが、家庭部門では前年同期比 4.6%増加しました。ステイホームした皆さんも電気やガスなどのエネルギーをいつもより多く使っていたのかもしれませんが。

with コロナの時代、限りある資源を効率よく使い、省エネルギーを進めることで、持続可能な社会の実現に一步近づくことができるのです。

政策を求める問い

そこで、今回は、with コロナのための「新しい生活様式」を実践し、命と健康を守りながら持続可能な社会を目指すためには、どのような省エネ政策が効果的か、と問います。ステイホームしたときの自分自身の行動や社会の状況を振り返り、第一に、新しい生活様式を実践しながら持続可能な社会の実現につながる、省エネな「ありたいライフスタイル」を自由に想像・提案し、第二に、その「ライフスタイル」の普及を支援するために日本政府や地方自治体等が採用すべき「ユニークな政策」を提案してください。

みなさん、with コロナの社会の今後を、根拠をもって見通しつつ、新しい生活様式に対応した省エネを一層促進するために効果的な政策について、ディベートで検討しましょう。

会場

第2回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト オンラインイベント会場

受付・開会式会場 (08:30~) クリックして入場	ルーム1 クリックして入場	ルーム2 クリックして入場	ルーム3 クリックして入場	ルーム4 クリックして入場
決勝戦会場（高校生の部） (13:35~) クリックして入場	ルーム5 クリックして入場	ルーム6 クリックして入場	ルーム7 クリックして入場	ルーム8 クリックして入場
決勝戦会場（中学生の部） (13:35~) クリックして入場	トーナメント表 (中学・高校共通)			
決勝戦視聴（高校生の部） (13:35~) クリックして視聴	決勝戦視聴（中学生の部） (13:35~) クリックして視聴	決勝戦投票 (決勝戦視聴終了後投票してください)		
ワークショップ会場 (14:40~) クリックして入場	表彰式・閉会式会場 (15:50~) クリックして入場	WEBアンケート (大会終了後アンケートにお答えください)		
ワークショップ用各チームの提案一覧	ワークショップ用各チームの部屋割り	遅延・障害等大会運営状況		

オンライン開催につき Cisco Webex Meeting を使用しルームを 8 つ開設。

「第 2 回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテストオンラインイベント会場」より試合用ルームに接続。

COPYRIGHT © TOHOKU BUREAU OF ECONOMY, TRADE AND INDUSTRY. ALL RIGHTS RESERVED.

ルーム振り分け

ルーム 1	ルーム 2	ルーム 3	ルーム 4
中学	中学	中学	中学
ルーム 5	ルーム 6	ルーム 7	ルーム 8
高校	高校	高校	高校

試合組み合わせ表（中学生の部）

中学生の部

トーナメント表

優勝

13:40～決勝戦

12:10～第2試合

10:05～第1試合

12:10～第2試合
(交流試合)

(交流試合)

(交流試合)

参加チーム

青森

八戸工業大学第二高等学校附属中学校

青森

学校法人青森山田学園 青森山田中学高等学校
Aチーム

青森

学校法人青森山田学園 青森山田中学高等学校
Bチーム

岩手

学校法人龍澤学園 盛岡中央高等学校附属中学校

宮城

東北学院中学校

宮城

学校法人古川学園 古川学園中学校

秋田

秋田大学教育文化学部附属中学校

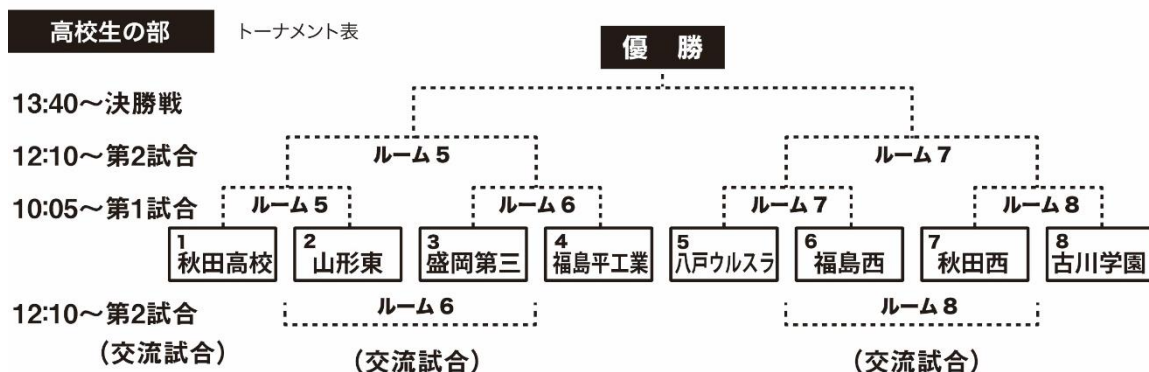
福島

福島県立ふたば未来学園中学校

予選		第 1 試合		第 2 試合	
接続時間		9 : 50～10 : 05		12 : 05～12 : 10	
準備時間		10 : 05～10 : 15		12 : 10～12 : 20	
試合時間 (*)		10 : 15～11 : 15		12 : 20～13 : 20	
中学生	ルーム 1	八戸工業大付属中	東北学院中	東北学院中	青森山田中 A
	ルーム 2	盛岡中央付属中	青森山田中 A	八戸工業大付属中	盛岡中央付属中
	ルーム 3	秋田大付属中	古川学園中	古川学園中	ふたば未来中
	ルーム 4	ふたば未来中	青森山田中 B	秋田大付属中	青森山田中 B

*試合時間（スピーチ 35 分、予備時間 5 分、判定協議 10 分、講評判定 10 分）

試合組み合わせ表（高校生の部）



参加チーム

青森

八戸聖ウルスラ学院高等学校

岩手

岩手県立盛岡第三高等学校

宮城

学校法人古川学園 古川学園高等学校

秋田

秋田県立秋田西高等学校

秋田

秋田県立秋田高等学校

山形

山形県立山形東高等学校

福島

福島県立福島西高等学校

福島

福島県立平工業高等学校

予選		第 1 試合		第 2 試合	
接続時間		9 : 50～10 : 05		12 : 05～12 : 10	
準備時間		10 : 05～10 : 15		12 : 10～12 : 20	
試合時間 (*)		10 : 15～11 : 15		12 : 20～13 : 20	
高校生	ルーム 5	秋田高	山形東高	秋田高	福島平工業高
	ルーム 6	盛岡第三高	福島平工業高	山形東高	盛岡第三高
	ルーム 7	八戸聖ウルスラ高	福島西高	八戸聖ウルスラ高	古川学園高
	ルーム 8	秋田西高	古川学園高	福島西高	秋田西高

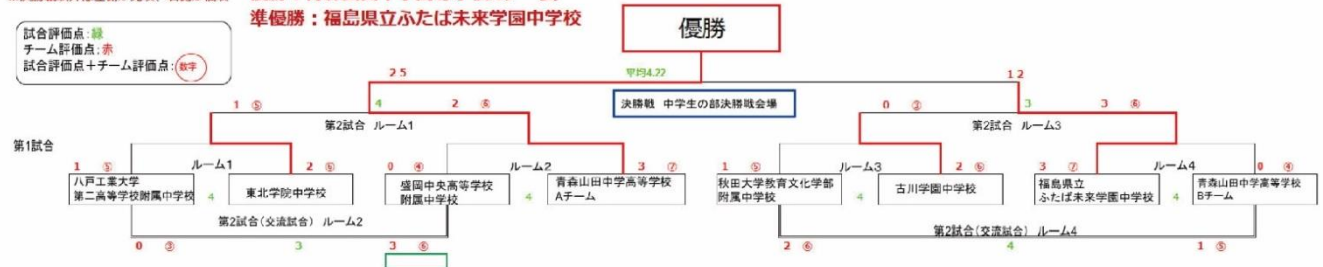
*試合時間（スピーチ 35 分、予備時間 5 分、判定協議 10 分、講評判定 10 分）

大会結果

中学生の部トーナメント表

※決勝戦以外は左側が先攻、右側が後攻
 試合評価点: 緑
 チーム評価点: 赤
 試合評価点+チーム評価点: 数字

優勝: 青森山田中学高等学校Aチーム
 準優勝: 福島県立ふたば未来学園中学校



ワークショップ用各チームの提案一覧（中学生の部） ※順不同・校名は略名表示

中学校名	政策提案の概要
青森山田中学校Aチーム 【優勝】	ウィズコロナで選ぶホントにカッコいいエシカルファッション政策
青森山田中学校Bチーム	家庭でできるウィズコロナでのエコライフ
八戸工大第二高等学校附属中学校	T P G ～家庭内および公共の場における省エネ～
盛岡中央高等学校附属中学校	とても使いやすい能率的なキックボード really useful efficient kickboard 略称: RUEK
秋田大教育文化学部附属中学校	感染症対策におけるエネルギーロス削減システムの導入
古川学園中学校	3つのFREE～FREEライフスタイルでムダFREE&ストレスFREE～
東北学院中学校	エネルギーの地産地消
ふたば未来学園中学校 【準優勝】	竹木容器の導入による、容プラ削減と森林資源の有効利用

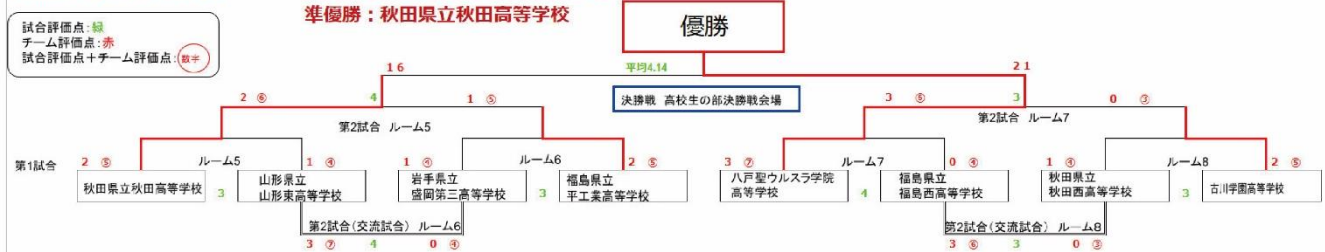
大会結果

高校生の部トーナメント表

※決勝戦以外左側が先攻、右側が後攻

試合評価点:緑
チーム評価点:赤
試合評価点+チーム評価点:数字

優勝：八戸聖ウルスラ学院高等学校
準優勝：秋田県立秋田高等学校



ワークショップ用各チームの提案一覧（高校生の部）

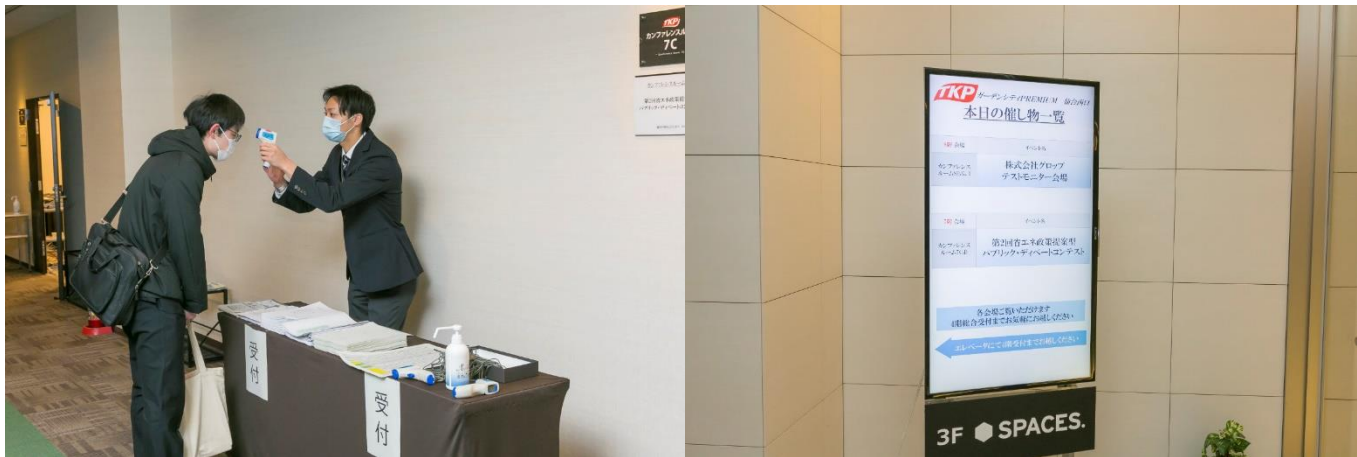
※順不同・校名は略名表示

高等学校名	政策提案の概要
秋田西高等学校	あつまれ!! 生活のゴミ 政策
秋田高等学校 【準優勝】	ゴミ発電でまるとエコシティ
八戸聖ウルスラ学院高校 【優勝】	みんなで『かえる』クリーンハウス政策
盛岡第三高等学校	(第一試合) 渋滞税のススメ (第二試合) 分散型エネルギーが支える未来
古川学園高等学校	農家と個人・企業との仲介サービス — 農作地増加と緑地化
山形東高等学校	テイクアウト用プラスチック容器の型を全てのテイクアウト店で統一
平工業高等学校	電気の自給自足の確立を目指す社会
福島西高等学校	ZEHを超えるPEHの推進

開催記録

会場の様子

■本部会場入口など



■本部会場の様子



本部 7C

本部 7D

■本部審判席



■審判席揭示



主催者挨拶

■開会式 9:00～

●主催者挨拶



経済産業省 東北経済産業局
資源エネルギー環境部長 奥村 浩信

東北経済産業局、資源エネルギー環境部長の奥村でございます。

本日は、政策提案型パブリック・ディベートコンテストにご参加いただきまして、誠に有り難うございます。

第2回目となった今大会は、中学生の部、高校生の部あわせて25チームから参加申込をいただき、そのうち申込の早い順から各8チームに参加していただくことになりました。この日のために授業の合間を縫って、また冬休み返上で省エネ政策を考えてきていただき、本当にありがとうございます。

また、各チームの引率の先生方におかれましては、コロナ感染症の影響により授業や学校行事にも支障が来ているなか、生徒の皆さんの新たなチャレンジを応援して下さったことを心より感謝申し上げます。

現在、コロナ感染症が世界を覆い、日本を含めて国際社会は根本的な変化を迫られています。これから10年後、皆さんが20代になって社会を支える立場になったとき、世界はどのように変わっているでしょうか。私がこの正月に読んだ本にはこのように書いてありました。情報の蓄積量と活用方法が根本から変化し、それにつれて人々の価値観・感覚も早い速度で変化していく、そうした中、従来のトレンドに基づいた予測が成り立たない、誰もが先を見通しにくい時代になる。そんな時代に向かって我々はどんな備えをしていけばいいのか。それは「目標から考える」ことであると。つまり、まず始めに「望ましいゴール」を設定し、その高い目標を実現するにはどうしたらよいかを考えることで、これまでの知識や経験を積み上げていったのでは思いつかない発想がでてくる、その発想こそが社会の変革・飛躍につながるということです。

いま、世界は2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするというカーボンニュートラルに向けて動き出しています。日本でも昨年10月に宣言しました。並大抵の努力では達成できないその高い目標に向かって、世界中の国や企業が挑戦を始めています。その過程で様々なイノベーションが生まれることが期待されています。そのイノベーションは社会の変革・飛躍につながります。今、地球温暖化について考えることは、気温の上昇をどう抑えるかということではなく、我々がこれからどういう社会を築いていくのか、どう生きていくのかを考えることにつながっています。

昨年 12 月 25 日に政府が発表した「2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」では、2050 年の電力需要は、産業・運輸・家庭で電化が進み、現状より 30～50%増加するとしています。二酸化炭素を排出せずに、その電力を賄うために再エネの主力電源化、水素社会の実現、ガソリン車の廃止などいろいろな対策を行っていきませんが、大前提になるのが社会全体の省エネです。省エネといっても、照明を消して、暑さ寒さに耐えてステイホームしようということではなく、コンピュータやロボットなど新しい技術をどんどん導入して、より快適で便利で安全な生活を築いていくことが当然で、このことと地球温暖化、エネルギーの安定供給をどう両立させるかが、今回のテーマです。出発点は、皆さんはどのようなライフスタイルを送ってきたいのかということ。今日は皆でアイデアを持ち寄って、その実現の方法を磨き合っていくなかで、飛躍のヒントになる発想が生まれることを期待しています。

エネルギー政策をはじめ国の政策を正しい方向に進めるには、国民一人ひとりに関心を持っていただくことが必要だと思っています。今日のディベートコンテストを通じて、次世代を担う中学生、高校生の皆さんに、省エネルギーはもちろん、その背景にある地球規模の環境問題や日本のエネルギー政策について関心を寄せていただくこと、何より、今日のコンテストに参加して良かった、いい思い出になったと、思っただけなのが、主催者一同の願いです。

最後になりましたが、本大会を開催するにあたり、多大なるご協力をいただきました全国教室ディベート連盟東北支部、省エネルギーセンター東北支部、ご後援をいただきました東北各県と仙台市の教育委員会、報道各社の皆様方に感謝を申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。皆様のご協力、本当にありがとうございました。

●試合組合せ抽選・大会ルール説明



大会実行委員長
山形大学大学院 教育実践研究科
教授 江間 史明

こんにちは、実行委員長を務めております、山形大学の江間と申します。今大会に向けて準備を重ねて参加された選手の皆さんを、心から歓迎したいと思います。

今大会は2回目を迎えます。今日の大会の日程についてはすでに参加校にお送りさせていただいている大会のしおりをご覧ください。午前中はこの開会式の後に第1試合を行います。昼休み休憩の後、第2試合、決勝戦、そしてその後に省エネルギーの専門家の方を交えたワークショップを行い、本日のイベントの振り返りをしたいと考えております。

本大会を進めるにあたって、各試合会場に入るときや試合進行に伴うトーナメント表につきましては、大会のトップページから確認できます。なお、オンライン大会ということで万全の準備をして臨んでおりますけれども、通信障害等が起きた場合や大会運営に支障が生じた場合には、トップページの方からお知らせできるようにしてありますので、そちらの方をご確認ください。

この大会の開催にあたりまして、実行委員会としては、参加された選手の皆さんが来年も是非この大会に参加してみたいという、そういう思いを持っていただけるように準備を進めてまいりました。

1日良い大会にしたいと思います。開会式はこの後、中学・高校のトーナメント表についての試合の抽選組み合わせを行います。そのあと、パブリック・ディベートについてのルールや試合の留意点について江間の方から説明させていただきます。それでは、まず試合の組み合わせ抽選の方から始めさせていただきます。よろしくお願いします。

●試合組合せ抽選



- ・全8チームによるトーナメント形式で実施します。
第1試合の敗者は、第2試合で交流試合を行います。
- ・第1試合での同校同県対決を回避する形で試合組合せ抽選を行います。
- ・各チームは事務局の指示に従い、提示されたカードを選び、事務局に伝えてください。

【中学生の部】

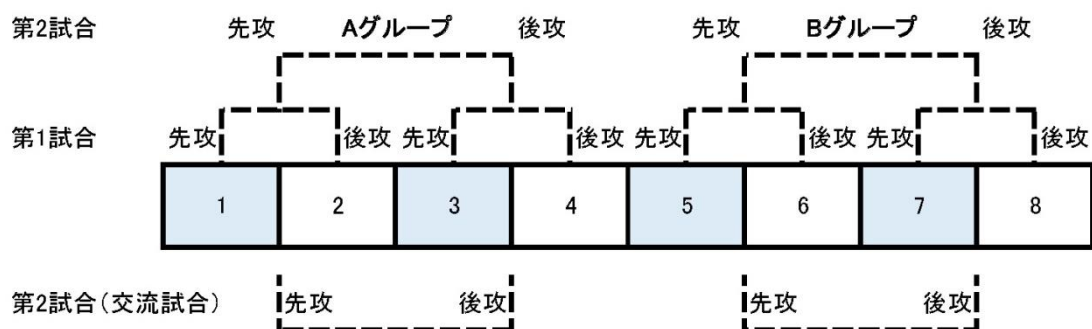
- ①青森山田のAチームとBチームがカードを引く
 - ・Aグループ(1, 2, 3, 4)から1枚、Bグループ(5, 6, 7, 8)から1枚引く。
- ②宮城県2校が申込み順にカードを引く。(東北学院中、古川学園中の順)
 - ・東北学院中がカード(A, B)から1枚引く。
 - ・東北学院中は選んだグループ側のカード(数字)から1枚、古川学園中はもう一方のグループ側からカード(数字)を1枚引く。
- ③残り4枚のカード(数字)をシャッフル →八戸工大第二高校附属中が1枚引く。
※青森山田チームと対戦になったら、再度引く(その場合、前に引いたカードはよけておく)。
- ④残り3枚(数字)をシャッフル →岩手、秋田、福島 of 各校が申込み順に1枚引く。
(盛岡中央高附属中、ふたば未来学園中、秋田大附属中の順)



【高校生の部】

- ①秋田県 2 校が申込み順にカードを引く。(秋田西高、秋田高の順)
 - ・ A グループ (1, 2, 3, 4) から 1 枚、B グループ (5, 6, 7, 8) から 1 枚引く。
- ②福島県 2 校が申込み順にカードを引く。(福島西高、平工業高の順)
 - ・ 福島西高がカード (A, B) から 1 枚引く。
 - ・ 福島西高は選んだグループ側のカード (数字) から 1 枚、平工業高はもう一方のグループ側からカード (数字) を 1 枚引く。
- ③残り 4 枚 (数字) をシャッフル → 青森、岩手、宮城、山形の各校が申込み順に 1 枚引く。
(山形東高、古川学園高、八戸聖ウルスラ高、盛岡三高の順)

※左側が先攻、右側が後攻



●大会ルール説明

それでは試合組み合わせも決まりましたので、実行委員会から政策提案型パブリック・ディベートについてルールと試合上の留意点について説明を申し上げます。パワーポイントの方をご覧くださいと思います。「政策提案型パブリック・ディベートとは？」ということで、ご説明申し上げます。最初にこのディベートの目的を確認しておきたいと思います。

(ルール1目的)の所に記載がありますが、政策提案型パブリック・ディベートとは、一般市民にも聞き取りやすく、理解が容易なスピーチを展開し、社会の問題を解決するための政策について討論するゲームです。

そこでは、各チームは政策を求める問いに応じて、日本政府や地方自治体等が採用すべき公共のための政策を提案し、互いに政策の質を高めあうように議論してください。

本大会が政策を求める問いは次の通りです。

with コロナのための「新しい生活様式」を実践し、命と健康を守りながら、持続可能な社会を目指すためには、どのような省エネ政策が効果的か。

with コロナの中で在宅勤務が増えたり、あるいは自宅でのテイクアウトのようなものが増えたりしていると思います。そういう中で強制的にエネルギーの使用を削減するのではなく、効率的にエネルギーを使って我々の持続可能な社会を目指すための方策を考えてください。

次に試合の形式と時間についてです。

それぞれルールに記載してありますが、ステージ1からステージ6まであります。前回、第1回大会参加校からのご要望がありましたので、実行委員会で検討し、ステージ1とステージ2の間に準備時間を設けています。もう一つ、ステージ3とステージ4の間に準備時間を設けています。

全体の時間を少し調整させていただき、このような形で試合の形式と時間を決めています。ご確認ください。

ディベートを進める上での留意点を申し上げます。何より大事なのは、相手の議論をよく聞き、かみ合わせることです。二つのことに注意してみてください。

政策提案型パブリック・ディベートとは？

- 政策提案型パブリック・ディベートとは、一般市民にも聞き取りやすく、理解が容易なスピーチを展開し、社会の問題を解決するための政策について討論するゲームである。(ルール1目的)
- そこでは、各チームは政策を求める問いに応じて、日本政府や地方自治体等が採用すべき公共のための政策を提案し、互いに政策の質を高め合うように議論する。(ルール3の(1))
- 本大会の「政策を求める問い」:
with コロナのための「新しい生活様式」を実践し、命と健康を守りながら持続可能な社会を目指すためには、どのような省エネ政策が効果的か

試合の形式と時間

- ステージ1 先攻チームによる政策提案 4分間
- 後攻チームのための準備時間 2分間
- ステージ2 先攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換 5分間
- ステージ3 後攻チームによる政策提案 4分間
- 先攻チームのための準備時間 2分間
- ステージ4 後攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換 5分間
- 準備時間 5分間
- ステージ5 後攻チームによる論点明示と政策の再提案 4分間
- ステージ6 先攻チームによる論点明示と政策の再提案 4分間

一つ目は、相手チームの政策が行われた社会の姿に思いを巡らせ想像してみてください。

提案された政策をよく見て、自分がその生活をしたらどうなるか。本当にそうなるのか、どこからそう言えるのか。考えてみてください。

二つ目です。相手の議論を丁寧に引用して、議論を進めてください。

現状分析で〇〇とおっしゃいました。それについて意見を申し上げます。政策効果について△△とおっしゃいました。それについて意見を申し上げます。ゆっくりで結構です、相手の議論を丁寧に引用して、かみ合わせてディベートをするようにしてください。

試合のステージについて留意点を申し上げます。

政策提案のあと、政策についての質疑と意見交換のステージがあります。ここがかみ合った議論のやり取りが最も現れるステージになります。

ここでは、一つ目、相手の政策が実現した暮らしを想像し、政策で疑問に思ったことを質問してみてください。

二つ目、相手の政策が実現する道筋や政策効果について「本当にそうなの？」と、検証してみてください。

三つ目、こうしたら相手の政策がもっとよくなるのではないかという、改善意見を述べてください。

議論に必要な論点を増やして、議論を豊かにすることを考えてみていただければと思います。相手の議論を否定してやりこめるのでありません。お互いの政策をよく聞き、議論を豊かにすることを試みてください。

相手の議論をよく聞き、かみあわせること

- (1) 相手チームの**政策が行われた社会の姿**に思いをめぐらせ、**想像してみる**こと。

「自分がその生活(ライフスタイル)をしたらどうなる？」

「本当にそうなの？」

「どこからそう言えるの？」

- (2) 相手の**議論を丁寧に引用**すること。引用後に意見を言う。

「現状分析で、〇〇とおっしゃいました」

「政策の効果について、△△とおっしゃいました」

政策についての質疑と意見交換

- かみあった議論のやりとりが、最も現れるステージ。

- (1) 相手の政策が実現した暮らしを想像し、政策で疑問に思ったことを**質問する**。

- (2) 相手の政策が実現する道筋や政策効果について、「本当にそうなの？」と**検証する**。

- (3) こうしたら相手の政策がもっと良くなるのではないかと、**改善意見を述べる**。

⇒ 議論に必要な論点を増やして、議論を豊かにする。

相手の議論を否定して、やりこめるのではない。

論点の明示と政策の再提案

- 試合を踏まえて自分のチームの政策を磨き上げ、重要性を示すステージ。

- (1) 意見の違いや対立点を**論点として明示**する。

- (2) 論点の重要さに応じて、当初の政策を**改善して(磨き上げて)再び提案**する。

- (3) 両チームの現状分析に立ち戻り、再提案した政策が**相手チームの政策より重要であることの理由**を示す。

その後、論点の明示と政策の再提案の提示があります。

ここは試合を踏まえて、自分のチームの政策を磨き上げ、重要性を示すことになります。試合の中で出た意

見の違いや対立点を論点として明示してください。

その次に論点の重要性に応じて、当初、自分たちの提案した政策を改善して磨き上げて、再び提案してください。

最後に、両チームの現状分析に立ち戻り、再提案した政策が相手チームの政策より重要であることの理由を示すようにしてください。

繰り返しになりますが、相手チームとの試合を通じて論点を増やして豊かな議論にしていきたい。その上で自分たちの政策を磨き上げてその重要性を説明し、審判を説得していきたいと考えています。

最後にオンラインでの試合での留意点を確認させていただきます。 三つあります。

一つ目は審判と相手チームに伝わるように、対面の試合以上に適切なスピードで、明瞭にスピーチするようにお願いします。ディベートは相手に伝わってこそ意味があります。発表会ではありません、相手に適切に伝わるように工夫をしてください。

二つ目、通信トラブルで相手チームのスピーチが聞こえない場合です。担当されて

いる先生がミュートを解除して「聞こえません」と、声をかけてください。同時に生徒さんはカメラに向かって手をクロスしてバッテン（×）を示していただければと思います。通信トラブルで、スピーチが聞こえない場合の対処はその試合の主審が指示をしますので、主審の指示に従って試合を進めるようにお願いします。

三点目です。通信トラブルが改善せず、大会運営に支障が生じる場合には、大会本部で協議の上、抽選等により勝敗を決定する場合があります。

以上で、オンラインの試合での留意点を申し上げました。それでは、第一試合の準備を、すすめてください。実行委員会からの説明は以上です。ありがとうございました。

オンラインの試合での留意点

(1) 審判と相手チームに伝わるように、対面の試合以上に、適切なスピードで明瞭にスピーチするようにお願いします。

(2) **通信トラブル**で相手チームのスピーチが聞こえない場合
担当教員が、ミュートを解除して、「聞こえません」と声をかけてください。生徒さんは、カメラに向かって手をクロスして×点(バッテン)を示してください。

(3) 通信トラブルが改善せず、大会運営に支障が生じる場合には、大会本部で協議の上、抽選等により勝敗を決定する場合があります。

第1試合・第2試合

●第1試合 10:15～11:15



判定協議の様子



講評・判定の様子



●昼休憩 11 : 15～12 : 05



●第2試合 12 : 20～13 : 20



中学生の部 決勝戦

●中学生の部 決勝戦 13：40～



《先攻チーム》青森山田中学校 A チーム
《後攻チーム》ふたば未来学園中学校

ステージ①／先攻チームによる政策提案 《先攻／青森山田中学校 A チーム》（4 分間）

青森山田中学校 A チームさん

先攻チームとして政策提案を行います。よろしくお願いします。では、政策を求めるといった問いを受けて取り上げる社会問題の現状分析と問題を解決する政策を支える理想的な社会像を述べます。

私たちが二酸化炭素の排出を削減するために注目したのは早く安く流行のスタイルを提供しているファストファッションを見直すことです。カッコいい洋服を安く手軽に買えることは確かに便利です。

しかし、排出される二酸化炭素は全体の 10 パーセントを占めます。しかもその 80 パーセントはゴミとして焼却埋め立てされます。よって洋服を買うときに国民全体が少しでも省エネを意識すること、エシカルファッションを考えて服を買う社会を理想とします。

第二に具体的に政策を主張します。その政策を名付けて言うならば「ウィズコロナで選ぶホントにカッコいいエシカルファッション政策」です。繰り返しますが政策は「ウィズコロナで選ぶホントにカッコいいエシカルファッション政策」です。では、その内容と理由を具体的に説明します。

一つ目は、現在、流行に向けて洋服を大量に生産する服を購入する方式からネットを使ったセミオーダーのファッションを行う企業への助成を行います。ウィズコロナでの新しい生活様式では手に取って洋服を選んだり、店員さんや友人、家族と洋服を選ぶのは密になるためネットでの買い物が増えます。

そこで、服を販売する店や企業はネットにセミオーダーの服をアップします。買う人は洋服の形、デザインからサイズ、服を選んで注文します。組み合わせによって自分だけのアイテムを選べます。企業側も生産コストを減らしデザインや色などを豊富にすることで買う側も満足できるような物をセミオーダーエシカルファッションの商品として認定します。この商品を販売する企業や店の法人税などの税金を安くします。これにより注文を受けてから作るため無駄な生産、在庫管理、廃棄を大幅に減らすことができます。

二つ目はセミオーダーエシカルファッションの販売専門アプリを開発する企業を支援します。買う側はこの商品専門アプリを利用して自分のスマホで撮影した画像で組み合わせで試着し、ウェブ上で発注し、受け取る希望

日に時間帯を指定します。ウェブはラインなどの SNS を通じて家族や友達とつなぎ、ウェブ会議のようにわいわいしながら選んだり、企業や店の人とオンラインでアドバイスをもらえるシステムのアプリを使うものとして開発します。ウィズコロナでの買い物を使つての省エネになり、受け取る時間を指定することで宅配便の無駄な訪問を防ぎ、買い物に自家用車を使わないため、省エネに貢献できます。この商品専門アプリを開発運営する企業の税金を安くし、アプリを利用して購入する人には「GoTo ウエア」として 20 パーセント分助成をします。

同時に三つ目の政策として大量生産して安く販売している洋服を購入する場合は環境税を 5 パーセント増税し、この税金は木を植える基金として使います。これらの一連の取り組みによって割高なセミオーダーと安いファストファッションとの価格の差を縮めることによってエシカルファッションが普及しやすいようにするのが狙いです。

第四にこの政策を実行することで生まれる効果について述べます。セミオーダーエシカルファッションにすることに 4 割の人が興味を持ち、その半分の 2 割の人が洋服の買い方を変えることで無駄な二酸化炭素の排出を 20 パーセント削減することになります。企業に取っても在庫や廃棄が減りコストダウンにつながり、オンラインを使った買い物はウィズコロナの新しい生活様式で省エネを考えるきっかけになると考えます。以上、問題の現状分析、基本的な立場の政策の具体と効果について述べました。

後攻チームのための準備時間（2 分間）

ステージ②／先攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換（5 分間）

ふたば未来学園中学校さん

お願いします。まず政策のところに質問していくんですけど、要するに政策の 1 で言っていたのは洋服の受注生産ということですか。

青森山田中学校 A チームさん

合ってます。

ふたば未来学園中学校さん

受注生産ってなるとやっぱり、そして自分でデザインを選んで発注するってなるとそれを作る側っていうのは大量生産っていうよりは手間がすごい掛かってしまうと思うんですが、そしてその分洋服はお客さんのもとの届く時間っていうのがすごく長くなってしまうと思うんですが、そこはどう考えていますか。

青森山田中学校 A チームさん

それについてお答えします。まず、製作する時間を抑えるためにフルオーダーではなくセミオーダーという形の方法を採りました。セミオーダーにすることによって、もちろんネットで注文している以上客に届くまでの時間は少し掛かってしましますが、セミオーダーにすることによって製作の手間を少し省いた感じになります。

ふたば未来学園中学校さん

はい、ありがとうございます。すいません、セミオーダーっていうのがどういったものなのか教えてもらっていいですか。

青森山田中学校 A チームさん

はい、セミオーダーというのはフルオーダーと違って、フルオーダーは全てを一からオーダーすることになります。セミオーダーというのはもともとあったスタイルの物に柄を付け足したり、もしくはデザインを少し変えたりして行うオーダーになります。

ふたば未来学園中学校さん

ありがとうございます。次に洋服が今すぐほしいっていうふうになってしまったとき、例えば急に明日用事ができてしまって、そのためにはこういった服が必要っていうときに受注生産っていう形を取ってしまうと間に合わないと思うんですが、そこについては何か考えていますか。

青森山田中学校 A チームさん

そのことに関してはファストファッションを残してそこからセミオーダーを使ったファッションに移すっていう形なので、ファストファッションは残っているはずなので、すぐほしいという方がたにはそのファストファッションを利用いただき、店舗に行って買ってもらえればいいと考えております。

ふたば未来学園中学校さん

はい、ありがとうございます。この政策上の洋服っていうのは全て配達で届ける、受注生産を売っている服に課税するという部分以外では全て配達という形でお客さんのもとに届けるっていうことですか。

青森山田中学校 A チームさん

セミオーダーを行った服に関しては全て配達という形になります。

ふたば未来学園中学校さん

ありがとうございます。そこで少し提案したいんですけど、配達っていう形になってしまうと先ほど時間指定ということがありましたが、いつ家にいるかっていうのが分からない状況っていうのもあると思うので、例えば近くの支店に何日後には洋服を届けます、そしたらそのお店に予約して自分の好きな時間で、例えば何時間後に取りに行きますとか、そういうふうに電話をして取るというふうにすればいいんじゃないかなと思ったんですけど、どうでしょう。

青森山田中学校 A チームさん

はい、その政策につきましては時間の指定もできるようにしてありますが、もし本当に都合が合わなかった場合、そういうことも応用して取り入れたいと思うので参考にさせていただきます。ありがとうございます。

ふたば未来学園中学校さん

ありがとうございます。ハロウィーンとかのイベントデーで注文が殺到したときの対応ってどうされるんですか。

青森山田中学校 A チームさん

それにつきましては、お客さんが買いに来る頻度が違うわけですし、専門の方がいますから、注文が殺到した場合につきましては時間が少しオーバーしてしまうかもしれません。それにつきましては深く考えてはいませんでしたので再提案のときにもう一度述べさせていただきたいと思います。

ふたば未来学園中学校さん

はい、ありがとうございます。次に政策提案上で大量生産で環境税を付けるっておっしゃってたんですけど、それはなぜ残すんでしょうか。

青森山田中学校 A チームさん

はい、ファストファッションを残す意味としてはファストファッションから、今、無理にセミオーダーを全て活用するという事は不可能なことなので、ファストファッションを徐々に減らしていくという形の施策がわれわれが先ほど述べたものになります。大切なのはファストファッションが減っていくことで、大量生産を防ぐということになります。

ふたば未来学園中学校さん

はい、ありがとうございます。服とかって流行とかでモデルさんとか影響力が高い人と同じ物がほしいっていう人がいると思うんですけど、それについてはどうお考えですか。

青森山田中学校 A チームさん

それにつきましてはモデルさん、もしくはその影響力の高い方。＜タイマーの音＝制限時間終了＞

ふたば未来学園中学校さん

ありがとうございました。

ステージ③／後攻チームによる政策提案 《後攻／ふたば未来学園中学校》（4分間）

ふたば未来学園中学校さん

お願いします。これから後攻チームとしての政策提案を行います。第一に現状分析を三つ述べます。

1、容器包装プラスチック、略して容プラのゴミ増加、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、店で買って帰る人はもちろん、テイクアウトやデリバリーなどを利用する人が増え、容プラゴミが増えています。例えば昨年

の調査によると大阪市では前年と比べ3月では6.8パーセント、4月では8.4パーセント、5月では7パーセント増えました。これらは他市でも同じです。

2、無駄な石油消費。容プラを生産するために年間約70万トンの石油を使います。容プラの多くは使い捨てのため、たった一度のために70万トンもの量の石油を消費していることになります。

3、放置される山林。一方、日本には1,020万ヘクタールの人工林、16万ヘクタールの竹林があるのにも関わらずその多くが放置されてしまっています。放置され、本来使われるべき資源を無駄にしています。せっかく繰り返し使える資源があふれているというのにもったいないと思いませんか。

第二に私たちが理想とする社会像について説明します。最近コロナで傷ついた経済を環境に優しい形で回復させるグリーンリカバリーが注目されています。同じ発想でコロナで増えた、無駄な石油の消費を減らし、代わりに現在使われていない隠れた資源を有効に使うことで経済も省エネもコロナ前より進んだ社会を目指します。

第三に具体的な政策を五つ提案します。

1、現在使い捨てにされている食品用の容プラを木や竹で作る容器に変えます。これは現状分析3で述べた放置されている森林や竹林を利用するものとします。

2、容器にはマイクロチップを埋め込み、データを読み込めるようにします。

3、使用した容器を各店に返却し、繰り返し使えるようにします。直接店で購入した場合はその店に、デリバリーの場合は次回デリバリーを使用する際に、きれいに洗ってから返却するようにします。なお、店での返却は現在のペットボトル回収機のようにします。返却された容器は衛生面を考慮し、再度使用する前に洗浄、殺菌します。

4、容器の返却を促すため返却した店だけで使えるポイントを押せます。客は、店がテイクアウト先に容器を返却すればポイントがたまりますから、容器を返却します。また、店側も木や竹の容器にすれば、客がポイントのため繰り返し店を使うという、大きなメリットが生まれますから積極的に導入するでしょう。容器一つあたりのポイントなど詳しい方法は国と経済の段階で協議して決めます。また、このポイントはポイントカードと専用アプリどちらからでも使用可能にします。

5、この1から4の導入には国が補助します。

第四に効果です。効果は二つです。

1、資源の有効利用、A、B二つに分けます。A、石油。容プラが木や竹になることでこれまでの生産、処分に掛かっていた石油の消費がなくなり、石油の省エネになります。ポイント制で継続的に広い範囲で効果が得られますから、かなりの効果が見込めます。B、木や竹。放置されていた木や竹という貴重な資源が有効利用できます。人工林は手入れすることで持続可能な資源になります。結果、私たちの理想の社会像に近づきます。さらに木材需要が増えれば林業の後継者不足が改善し、林業の再生にもつながるでしょう。

2、飲食店への経済的なメリット。客が容器を返却するため繰り返し店に訪れ、その店のリピーターとなることで容器を導入した店側に利益が生まれます。さらにテイクアウトやデリバリーで容器を使うたびポイントを押せることで人々の利用が増え、コロナで落ち込んでしまった飲食店の売り上げにもプラスです。以上のように、このプランは資源を無駄にせず、経済も回復できる一石二鳥の政策なのです。この政策について意見交換よろしくをお願いします。以上で終わります。ありがとうございました。

先攻チームのための準備時間（2分間）

ステージ④／後攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換（5分間）

青森山田中学校 A チームさん

お願いします。

ふたば未来学園中学校さん

お願いします。

青森山田中学校 A チームさん

まず、プラスチックの容器を使わずに木もしくは竹などのものに替えて行うと言っていましたが、それは二酸化炭素を酸素に変える役割を果たす植物の減量につながるのではないのでしょうか。

ふたば未来学園中学校さん

はい、まず実際に今放置されてしまっている山林から材料を取ります。その後にしっかりと植林をして、林業が回っていくようにします。結果的に放置されてしまっていた場所がしっかりと管理されている山林に変わっていきます。なので、そこで二酸化炭素の吸収量が減るってことはありません。もう一度育てるので。

青森山田中学校 A チームさん

はい、ありがとうございます。では、その植林とは一体誰がどのように具体的に行っていく予定でしょうか。

ふたば未来学園中学校さん

はい、ありがとうございます。再提案でもう一度提示させていただきます。

青森山田中学校 A チームさん

はい、続きまして、プラスチックなどの容器ではなく、ウーバーイーツなどのように宅配で頼むものを洗って返却するという意見につきまして、このような意見についてもう少し詳しく説明をお願いできますか。

ふたば未来学園中学校さん

はい、それは具体的な政策の、3点目のところですね。実際にデリバリーで配達してもらいます。配達して、消費者が使って、次デリバリーで頼んで配達してもらうときに洗ったものを返して届けてもらいます。

青森山田中学校 A チームさん

ありがとうございます。コロナ対策のために使う、殺菌をするための消毒液とかはどういうところから徴収するつもりですか。

ふたば未来学園中学校さん

これは政策の5点目で述べた通り国が補助をします。

青森山田中学校 A チームさん

プラスチックの容器を木や竹に変えるという意見が、少し話は戻りますが、あったと思います。それにつきまして、木はプラスチックを燃やすよりも二酸化炭素の排出量が増えてしまいます。それにつきましてはどう思いますか。

ふたば未来学園中学校さん

そうですね、単純に燃やすっていうだけでは木材とかにすると増えてしまうかもしれないんですけど、実際プラスチックなどは使い捨てにされていて、一度使えば使うほど二酸化炭素などを放出してしまいます。しかし、今回私たちが言っている容器は何度も使うことを想定しているので、結果的に見て長続きするのでCO₂などの排出量は減ると考えています。

青森山田中学校 A チームさん

ありがとうございます。では、それにつきまして提案を少しさせていただきたいと思います。プラスチックを木に替えるのではなくて、プラスチックの使用量、もしくはプラスチックの生産量を減らすべきだと自分たちは思います。今の時代、現在の技術では寒天からプラスチックを作る、もしくはトウモロコシからプラスチックを作る、もしくはプラスチックがゴミにならず、そのまま元の形に戻るといったものもございます。そうすれば、木を使って物が増えていく、もしくは、増えてどのみち使わなくなってしまったっていうことがなくなると思うんですが、どう思いますか。

ふたば未来学園中学校さん

貴重なご意見ありがとうございます。再提案でまた述べさせていただきます。

青森山田中学校 A チームさん

はい、ありがとうございます。では、続きまして木を減らす、もしくは植林をするときに国から助成をするとさっきおっしゃってたと思うんですが、合っていますか。

ふたば未来学園中学校さん

はい。

青森山田中学校 A チームさん

その助成について詳しく説明をお願いしますか。

ふたば未来学園中学校さん

今、やっぱり日本ってコロナ禍だから、コロナの対策とかに使ってる費用とかがあると思うんですけども、そういったものを充てていくって形、そのような感じで省エネに対しても実際にお金を出していくということです。

青森山田中学校 A チームさん

それはコロナ対策に出すお金を減らして木に出すお金を出すということですか。

ふたば未来学園中学校さん

伝え方が悪かったと思うんですけど、それとは別の考え方でそのような感じで国を良くしていくためのお金として出します。

青森山田中学校 A チームさん

ありがとうございます。そのお金は国民から徴収したりとか、何かそういうものを考えてたりしますか。

ふたば未来学園中学校さん

再提案で話します。

青森山田中学校 A チームさん

ありがとうございました。

ふたば未来学園中学校さん

ありがとうございました。

準備時間（5 分間）

ステージ⑤／後攻チームによる論点明示と政策の再提案（4 分間）

ふたば未来学園中学校さん

はい、お願いします。まず、私たちの政策提案の内容とその部分に対して先攻さんからいただいたご意見とかを振り返っていきたいと思います。

まず、先攻さんの質疑の内容から主に振り返るんですけど、そもそも管理するのは誰なのか、植林とかを新たに行うとき誰がやるのかみたいな話があったんですけど、それは効果のところなどでも出てきてるんですけど、林業の再生にもつながる、後継者不足が深刻である、それはつまり林業の人っていうのが新たな職種として出てくる人材になるので、林業を続ける人たちが管理していくものになるんだっていうことを確認してください。

また、バイオプラスチック、いわゆるトウモロコシなどを使って作る物や、繰り返し使えるプラスチックなど

を取り入れてみたらどうかという提案がありました。ありがとうございます。その部分なんですけれど、これだと補う部分としてなのか、使い方にちょっと疑問はあったんですけど、トウモロコシとか、新たにこのために植える必要があるかもしれないじゃないですか。でも、私たちが考えてるのは今ある隠れた資源を有効に使うということです。放置されている山林は今ある資源ですよ。その部分のものを使うことで無駄がなくなる。そういう話がしたいです。新たに植林っていうところで疑問が生まれていると思うんですけども、新たに植えるっていうのも、この放置された山林を再生させていくっていう形なんですね。その部分を確認してもらいたと思います。

また、同じように意見とかでもらったものを振り返っていくんですけど、木とかの取り入れではなく、プラを減らすっていうことにしたらみたいなの、少し捉え方が違ったかもしれないですけど、内容をいただきました。私たちがやろうとしていることから確認していくんですけど、私たちは使い捨てである容器プラスチックというものを減らしていく。そのために木とか竹の容器で繰り返す仕組みを作りたいって話です。

そうすると結局プラスチック、特に容プラというものが減っていきますよね。それなのでプラスチックを減らしてみたらどうかという質問に対しては私たちの考えでうまくいくことができます。

また、国民から費用を集める必要があるかという論点に対してなんですけれど、これについては集めません。国から出すということにはなっています。売り上げとかにも飲食店のためにもつながる部分がありますし、最終的にはこの仕組みが長く続くものとなります。また、省エネの効果の他にも経済的な効果が飲食店の話のようにあるということです。

ここから比較に入ります。ではまず先攻の皆さんの話を振り返っていきます。先攻の皆さんの政策提案はCO₂の削減などを目指してファストファッションを受注生産っぽくしていこうっていうお話でした。その上で工夫としてフルにオーダーするんじゃなくてセミオーダーにすることでちょっと効率的なより良い形にしようとか、そういういろんな工夫がされていたと思います。そこで省エネもしながらコロナ対策もできるようになっていうような絡め方だったと思います。

後攻チームの政策提案を振り返るんですけども、私たちは今資源を無駄にしまっているんだ、一方で放置されてしまってもったいない資源があるんだっていうことをお話しました。それを政策によって隠された資源を有効に活用して無駄をなくして、さらには経済にとってもいいことがあるっていうお話をしました。

比較すると私たちはメリットが一つではなく複数ある、一石二鳥の政策です。さらに。

<タイマーの音＝制限時間終了>ありがとうございました。

ステージ⑥／先攻チームによる論点明示と政策の再提案（4分間）

青森山田中学校 A チームさん

はい、先攻チームとして相手チームとの質疑、意見交換を生かして重要な論点の明示と政策の再提案を行います。先ほどの政策提案についての質疑と意見について振り返ります。一つ目、手間がかかってしまい、お客さんに届くまで時間がかかるのではないかと。二つ目、今すぐほしいという人には。三つ目、なぜファストファッションを残すのか。四つ目、モデルさんなどの着ている服を着たいという場合。五つ目、イベントなどで注文が殺到した場合どうすべきか。六つ目、時間指定だといつ家に着くか分からないから店に取りに行ってはどうかという

ものでした。一つ目からひとつひとつ答えていきたいと思います。

1、手間がかかってしまい、お客さんに届くまで時間が掛かるのではないかという意見がありました。これにつきましてはフルオーダーではなくセミオーダーを行うというものになっているので、時間を少しでも減らしてお客さんに届くという政策を提案しています。あくまでもファストファッションをなくしていこうという意見になっているので、これは少し仕方ないことなのかなと思います。

二つ目、今すぐほしいという人には。これにつきましては店舗がそれぞれ展開されていますので、そのファストファッションをしている店舗に買いに行ってもらう形になります。ファストファッションを減らしていくというのが目的ですので、店に買いに行ってもらうしかないと思います。

三つ目、なぜファストファッションを残すのか。これにつきましては少しでもファストファッションの意識を減らしてセミオーダーという意識に変えていくのが大切だからだと思います。ファストファッションを残さずにセミオーダーに完全に変えてしまう、これは現時点の段階では不可能ということになりますので、少しずつでも皆さんの意識が変わっていくことが大切だと思っています。

四つ目、モデルさんなどが着ている服が着たいという場合。これにつきましてはエシカルファッションを推進しているモデルの方もいます。エシカルファッションというのはエコに優しいファッションということです。エシカルファッションを推進してるモデルさんを政府から薦めていただき、モデルさんがエシカルファッションに興味を持っていただけることによって少しでも変わっていくのかなと思います。

五つ目、イベントなどで注文が殺到した場合にどうすべきか。これにつきましてはそういう時期、おおよそハロウィーンなど、そういうことで予想がつかますのでふたば未来さんの意見を参考にさせていただき、その時期アルバイトを多く雇う、もしくはスタッフを増やすことによって、生産もしくは対応を追いつかせるという形になります。ウィズコロナ、コロナと共に生きていく、今、コロナで職を失っている方も多くいるわけですから、そういう方にも協力になるかなと思います。

六つ目、時間指定してるといつ家に着くか分からない。これにつきましては店に取りに行けばいいのでは、店に着くようにして取りに行く形にすればいいのではという意見がありました。これは参考にさせていただき、これを実行したいと思います。それにプラスして店でパソコンを扱うようにし、スマホを持っていない方、もしくはスマホが壊れている方でもパソコンを利用してお店でセミオーダーができるという方式もプラスしたいと思います。そうすることによって個人での対応になりますから、コロナ対策は完全にできるわけですから、これは良い意見になるかなと思います。

大手ユニクロなどの物を買う人が20パーセントセミオーダーにするだけで日本の排出量全体の2パーセントもの量を減らすことができるので、この数字を示して再提案させていただきます。ありがとうございました。

高校生の部 決勝戦

●高校生の部 決勝戦 13：40～



《先攻チーム》秋田高等学校

《後攻チーム》八戸聖ウルスラ学院高等学校

ステージ①／先攻チームによる政策提案 《先攻／秋田高等学校》（4分間）

秋田高等学校さん

先攻チームとして政策提案を行います。よろしくお願いします。第一に政策を求める問いを受けて取り上げる社会問題の現状分析を述べます。コロナ禍の影響で在宅時間が増加し、家庭ごみが増えてきています。例えば東京では2～5月の家庭ごみ回収率は前年より4.9パーセント増加し、さいたま市では15パーセント、札幌市では13パーセント増加しています。第二に理想の社会像を述べます。SDGsの目標7番である、エネルギーをみんなに、そしてクリーンに、というものがあります。この目標を実現させるために、私たちは排出されるCO₂やエネルギーを無駄なく利用する取り組みが必要だと考えました。第三に、政策を主張します。その政策を名付けて言うのであれば、「ゴミ発電でまるとエコシティ」です。

コロナ禍で生み出された大量のごみを利用します。各市町村にあるゴミ処理施設に、CHP発電システムを取り入れ、そこで生み出された熱、CO₂、電気を地域のさまざまな施設で利用します。CHP発電とは、ゴミ発電で出た廃熱を従来のように、そのまま排出するのではなく、温水や冷暖房にも利用することによって、エネルギーの無駄を省くシステムです。CHP発電は従来の発電に比べ、エネルギー効率が大幅に上昇します。燃料の消費を抑えて、環境や人体に影響を及ぼす炭酸ガス、窒素酸化物などの発生量を少なくすることもできます。日本ではこのCHP発電のシェアが2013年時点で5パーセントと低い状況です。より効率的な発電のためには、このシステムを各地のゴミ処理施設に普及させていく必要があると考えております。

ここで、生み出されたエネルギーの利用方法として次の三つを考えました。一つ目は町の住宅や施設に電力と熱を送るというものです。住宅においては、家庭からのゴミで作られたエネルギーを家庭で消費することになり、省エネにつながります。住宅以外の公共施設や工場などはエネルギー消費が大きいので、ゴミ発電のエネルギーを使うことで、より環境への負担軽減が見込まれます。二つ目は、街の融雪システムに電気を送るというものです。三つ目はビニールハウスに熱とCO₂を送るというものです。

まず、熱の輸送についてです。発電時の廃熱を温水に変えてハウスの加熱に利用します。それによって冬のハ

ウスの暖房負荷が大きいという問題を解決できます。通常は石油を使った暖房機を利用しているため、地球温暖化を進めてしまう原因となります。このシステムを利用することにより、温暖化の抑制につながります。次に CO₂ の輸送についてです。排出された CO₂ を圧縮してパイプラインでハウスまで送ります。CO₂ 濃度を上げると農作物の収穫量が増えるため、さらに効率的に生産できるといえます。圧縮に利用するエネルギーは、ゴミ発電で生み出されたクリーンなエネルギーを使う形にします。以上、問題の現状分析、理想の社会像、政策の具体と効果について述べました。これらの内容についてご質問、ご意見をお願いします。

後攻チームのための準備時間（2 分間）

ステージ②／先攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換（5 分間）

八戸聖ウルスラ学院さん

一つ目のところで全国的にというか、東京、埼玉、札幌などではゴミの量が増えているというのがあったんですけども、全国的にいうとどれくらい平均で増えているのかを詳しく教えてください。

秋田高等学校さん

全国の合計のデータは調べてもわからなかったのですが、主要都市どれをとっても、5 パーセントから 6 パーセント以上は、ゴミが前年比で増加していて、多いところでは 13 パーセントなどもあったので全体的に増加していると判断しました。

八戸聖ウルスラ学院さん

先ほどの政策において、ゴミの回収にかかる負担が増えることで、ゴミ処理は自治体や国などで行われているため、過疎化が進んでいる地域などではできないのではないのでしょうか。

秋田高等学校さん

すみませんもう一度、質問をしていただいてもいいですか。

八戸聖ウルスラ学院さん

先ほどの政策提案において、ゴミ処理は自治体や国などで行われているため、ゴミの回収にかかる負担が増えてしまうので、過疎化が進んでいるところなどの地域は、それらがあまりうまく回らないのではないのでしょうか。

秋田高等学校さん

お答えします。私たちの政策では、ゴミを回収するところについてではなく、既存のゴミ処理施設に発電の設備をつけて発電するということですので、ゴミ処理が適切に、すみません、以上です。すみません。ゴミ処理施設は、既存のゴミ処理施設に対して CHP 発電の設備を付け足すということなので、今までの、ゴミの収集に対して、ゴミの収集の手間が増えるということはありません。

八戸聖ウルスラ学院さん

はい、その CHP 発電はどのくらいかかりますか。費用はどのくらいかかりますか。

秋田高等学校さん

CHP 発電は一般のゴミ処理施設を建設するのが、最大の規模で 53 億であるのに対して、CHP の機能だけを付属するのには 18 億円かかります。私たちは機能だけを付属するということを計画しているので 18 億円かかるということになります。

八戸聖ウルスラ学院さん

はい、それは自治体によって負担が大きくなるのではないのでしょうか。

秋田高等学校さん

私たちの政策では、家の暖房費が浮くということになっているので、その浮いた暖房費を用いて、その CHP 発電の費用を賄えばよいと考えています。具体的な数値としては、資源エネルギー庁のデータによると、1 年の冷暖房費が国内で 1.9 億円なので、CHP の 18 億円を賄うのに 10 年強ほどで元が取れるということになります。

八戸聖ウルスラ学院さん

ありがとうございます。この発電方法などはとても素晴らしい意見だと思うんですけど、これをするによって消費者側のゴミを出してもいいという考えにつながるのではないのでしょうか。

秋田高等学校さん

コロナ禍でゴミの量が増えて、それをもとにその増えた、ゴミを使おうという政策なので、増えたゴミは資源に生かせるのでそこに問題はないと思います。

八戸聖ウルスラ学院さん

増えたゴミについての意見だったんですけど。増えたゴミを燃やすわけじゃないですか、ゴミを、一回、ゴミ処理場で。そうするとエネルギーを有効活用できるのはわかるんですけど、そのものを燃やした後の燃えかすとかっていうのができると思うんですよ。その処理方法についてはどのような考えがありますか。

秋田高等学校さん

その処理方法については、現在行われているゴミ処理方法と同様にしたいと考えております。

ステージ③／後攻チームによる政策提案 《後攻／八戸聖ウルスラ学院高等学校》（4 分間）

八戸聖ウルスラ学院さん

八戸聖ウルスラ学院高等学校です。よろしくお願いします。新型コロナウイルスの流行に伴い、さまざまな問題が発生しました。その中でも私たちが特に注目したのはステイホームが呼びかけられたことによる在宅率の増加です。

私たちはコロナ禍において、強制的に在宅で仕事や勉強に取り組むことになりました。しかしそのことによって、働き方改革や育児と介護の両立などの観点からも、リモートワークを推進するメリットに気が付く人や企業は多いと思います。また、省エネを取り組めば環境にやさしい企業として企業自体のイメージアップにもつながるということもあり、多くの企業は家庭よりもすんなりと省エネ対策に取り組む傾向にあります。加えて、都会の企業に勤務しながらもリモートワークで働くことが広まれば、過疎化に悩む地方にとってもメリットとなります。

つまり家庭におけるエネルギー使用量は、コロナ禍が終息した後にも継続して増加すると予測できます。しかし、企業に比べて家庭の省エネに対する強制力は低く、意識もまだ十分とは言えません。また経済産業省のデータによると、産業部門のエネルギー使用量は1973年から2018年にかけて0.8倍とやや減少しているにもかかわらず、家庭部門は1.9倍までに増加しています。そのため、家庭のエネルギー使用量に着目し、家庭向けの省エネ対策を大胆に実施していく必要があるのではないのでしょうか。

そこで私たちが提案するのは、「みんなで『かえる』クリーンハウス政策」です。私たちはこの政策を通して四つの社会改革を起こしていきたいと考えています。今から画面に提示する表をもとに説明させていただきます。

まず一つ目は、意識を変えるです。家庭の電力使用量にリミットを設け、達成した際にはポイントをゲットすることができます。ゲーム感覚で省エネに無理なく取り組むことができ、意識を変えるきっかけとなります。二つ目は、ものに変えるです。ためたポイントを使ってフリマアプリで買い物をすることができます。フリマアプリでの使用に特価した理由としては、ものを捨てるのではなく、リサイクルして使用するという持続可能な循環型社会の実現に貢献できると考えたからです。その他にもコロナの影響で在宅勤務やリモート事業などインターネットを使う機会が増えたことから、Wi-Fiを通常より安く整備してもらえるサービスなど、ポイントをためることで多くの利益を得ることができます。三つ目は、自然にかえるです。ためたポイントで太陽光パネルの設置を可能にします。電力の源を、自然の力である太陽光に頼る、という自然エネルギーの使用を今から強化することにより、未来の世代の負担を軽減させることもできます。最後は、すてきな家に帰るです。これらの意識を変える、ものに変える。自然にかえるが達成されることで生活の質がぐっと上がり快適に過ごすことができます。職場だけでなく、自宅でも気軽にできる省エネ対策です。持続可能な開発に向けての世界的目標である、SDGsの実現にも貢献することができ、コロナ禍でも気軽に取り組むことができる一石二鳥の政策です。ありがとうございました。

先攻チームのための準備時間（2分間）

ステージ④／後攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換（5分間）

秋田高等学校さん

まず電力消費リミット等を設けるというお話でしたが、そのリミットの基準について教えていただきたいです。

過疎や田舎などで各家庭によって例えばオール電化にしている家もありますし、あまり電化製品を使わずに生活している地域が多いところもあります。そこで、基準を一定に定めているとポイントがもらいやすい人、もらいにくい人という不平等が生まれると思うので、そこをどう考えているか教えていただきたいです。

八戸聖ウルスラ学院さん

はい、お答えします。月ごとに各家庭の電力使用量をマイナス 10 パーセントにすることを目標に、その家庭の状況などを考えながら各家庭ごとで計算をしていきたいと考えています。

秋田高等学校さん

その電力の消費の状況ってのはどうやって測るのですか。

八戸聖ウルスラ学院さん

はい、お答えします。電力消費量は毎月届く検針票というものに記載されています。また、WEB などでも電力使用量を調べることができるので、そこで確認できると考えています。

秋田高等学校さん

先ほど、すみません、音声が微妙に聞こえづらかったのですが。ポイントをためて使う先としてフリーマーケットのサイトと言っていたような気がするのですが、恐らく社名、メルカリって言ったと思うんですけど合ってますか。メルカリとかにすると、政策を提案するっていう場なので、政府が特定の企業に利益が大きくなるようなことをするのは問題だと思うので、ポイントを使えるようにするっていうのはいいと思うんですけど、もっとより広く使える形にしたほうが政策として良いのではないかなと思いました。

八戸聖ウルスラ学院さん

はい、お答えします。フリーマーケットアプリというのは、今世の中にあるもの一社に限ったものではありませんので、この政策にさまざまなフリーマーケットアプリの方に賛同していただき、その政策の中でそれぞれのフリーマーケットアプリが新たな競争ができるような場を提供していきたいと私たちも考えております。

秋田高等学校さん

ある程度、業種によつての差っていうのはなくなったと思うんですけど、それでもやっぱりある特定の、が、反映するようにするっていうのはやっぱりちょっと、個人的な意見ではあるんですけども、政策という点に置くとフリーマーケットアプリという限定の形にするのは良くないのではないかなと。広く使えるポイントにしたほうが、フェアという点ではいいのではないかなと思いました。

八戸聖ウルスラ学院さん

ありがとうございます。参考にさせていただきます。私たち、政策提案のほうでもお話ししましたが、ポイントの使い道フリマだけではなく、太陽光パネルであつたり Wi-Fi の設置にも使えるので、そちらの業者の方にも

ポイント使ったり、お金が回るような感じに私たちは配慮しております。

秋田高等学校さん

政策提案の中でリサイクル製品とのつながりをおっしゃっていたと思うんですけども。すみません、そこについて、もう少し政策とのつながりをもう一度教えていただけないでしょうか。

八戸聖ウルスラ学院さん

はい、お答えします。フリマアプリを利用することによって、自分が使わなくなった物を売る、それを必要な人が買うというように物の循環が行われる。つまりリサイクルがされるということになると考えています。

秋田高等学校さん

わかりました。リユースという認識で間違いないでしょうか。

八戸聖ウルスラ学院さん

はい、そういうことになります。

秋田高等学校さん

太陽光パネルの設置も使えると言っていたんですけども、太陽光パネルにすることによっても、排出とかが抑えられていいとおっしゃっていましたが、太陽光パネルっていうのはかなり費用がかかるもので、なかなか太陽光パネルまでつながる人がいないと、難しいと思うんですね。それを、いっぱいCO₂排出が減るって盛り込むのはちょっと難しいのではないかと思います。

八戸聖ウルスラ学院さん

小型のものもあるので、費用については大丈夫だと思います。

準備時間（5分間）

ステージ⑤／後攻チームによる論点明示と政策の再提案（4分間）

八戸聖ウルスラ学院さん

後攻チームとして、相手チーム先攻チームとの質疑と意見交換を生かして重要な論点の明示と政策の再提案を行います。よろしくお願いします。

第一に先ほどの政策提案についての質疑と意見交換について、五つほど振り返ります。一つ目はリミットを設けるということは、あまり電力を使用していない人にとっては不平等なのではないか。二つ目は電力の消費状況はどうやって確認するのか。三つ目は、一つの企業に肩入れすることにつながるのではないか。四つ目はフリマアプリを使用するということは政策提案としてどうなのか。五つ目は太陽光パネルを設置するのに費用は高いの

ではないかという点です。

第二に、それについて重要な論点を明らかにします。先ほどの質疑と意見交換における内容からすれば、ポイントを利用するとフリマアプリとして、例えばメルカリなどと限定してしまうことで、政府が一つの企業に肩入れすることになってしまうのではないかという懸念を克服することが論点になっています。

第三にこの重要な論点に応じて、当初提案した政策を見直し再提案します。ポイントを利用する会社を一社に限らず、多くのフリマ会社、また、そういった品物を輸送する会社などと提携を結ぶことで、この政策の中で新たな経済競争を生み出すことができると私たちは考えました。さらに、既にあるマイナンバーポイントなど広く使われているポイントでも連動したいと考えました。

第四に両チームの現状分析に戻り、再提案した政策が相手チームの政策より重要であることの理由を三つ述べます。まず秋田高校さんの政策でとても良いと感じたのは、クリーンエネルギーを目指すということが非常に大切だと考えました。しかし、意識改革ということがあまり進んでいないようなので、ゴミを減らそうとは思わず、ゴミの増加が進み、逆にフードロスの促進が懸念されるのではないかと思います。

私たちの政策では意識改革をベースにしているため、より社会に直接的に影響を及ぼすことができると思います。また省エネへの貢献度もわかりやすいのではないでしょう、失礼しました。私たちの政策は意識改革をベースにしているため、より社会に直接的に影響を及ぼすことができるのではないかと考えました。また私たちの政策は、省エネに貢献度がわかりやすいという点が非常に大切だと考えました。私たちの政策ではリミットを設けているので、そのリミットを通し、目で見ても自分がどれだけ省エネに貢献できているのかわかります。また、私たちの政策は身近という点もポイントになってくると思います。私たちの政策では幅広い年代の人が、省エネに関われると感じました。1人暮らしをしている若い人や、ゲーム感覚でこの政策に取り組むことができるため、小さいお子さんも省エネの意識が身につくのではないかと思います。よってさまざまな観点から考えましても、私たちの政策のほうが、より with コロナの時代に合った提案だと思います。最後に対戦相手チームの皆さん、審判、聴衆の方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

ステージ⑥／先攻チームによる論点明示と政策の再提案（4分間）

秋田高等学校さん

まず先ほどの質疑応答と意見交換について振り返ります。先ほど主に5点の質問をいただきました。1点目に全国的にも家庭ゴミの量は増えているのかという質問をいただいたので、私たちはどの主要都市をとっても5パーセント、6パーセント以上は増えているので、全国的にも増えていると判断しましたとお伝えしました。

2点目に CHP を作るのにどれくらいの費用がかかるのかという質問をいただいたので、新しいゴミ処理施設を造るのに53億かかりますが、CHPをつけるだけであれば18億で済ませることができるとお答えしました。

3点目に、自治体の負担が増えるのではないかと質問をいただきましたが、暖房費が浮くので、その自治体の負担が増えるのではなく、浮いた暖房費で10年強すれば賄えるというお答えをしました。

それから、ゴミ収集やゴミ処理方法についての質問を多くいただいたのですが、この政策はこれまでのゴミ収集方法は変わらず、その後の処理の段階で CHP 発電を利用して発電するものなので、それは変わらないとお答えしました。

4 点目に CHP 発電が普及することで、ゴミが増えてもいいという意識につながるのではないかとのご指摘をいただきましたので、それは再提案に盛り込みたいと思います。

次に私たちの政策の確認と再提案をします。私たちの政策はSDGsの目標の7番、エネルギーをみんなに、そしてクリーンに、を達成するためのものでした。私たちは廃棄物発電によってゴミを燃やしながら発電するだけでなく、CHP発電のシステムを取り入れ、生み出された熱や電気、CO₂を使うエネルギーとして、住宅や融雪、ビニールハウスなどに無駄なく利用する低炭素社会に貢献する未来システムを考えました。

相手チームからのCHP発電が広まることによって、ゴミを出してもいいという考えにつながるのではないかとのご指摘を受けて、コロナ禍で増加したゴミを利用するため、決してゴミを増やしてもいいというわけではないということを、地域の人々に発信するという形で再提案をします。これらのことを踏まえて私たちの政策が相手チームより重要であるという点を述べます。

一つ目は、相手チームはポイント制という興味のある人しか参加できない政策に対して、私たちは社会全体を巻き込める政策になっています。二つ目は地域の人々とエネルギーのシェアをすることにより、誰もが安心して暮らせる、持続可能な街の未来が実現できることです。そしてエネルギーの地産地消により自然災害に強いまちをつくることもできます。二つ目はエネルギーを融雪や住宅、ビニールハウスに利用するということがエコであると身近に感じることによって、今まで他人事だった環境問題を自分ごととして考えるようになることです。三つ目は、その県がエコシティという魅力を持つことによって、他県からの移住者も増えると予想でき、少子高齢化や地方経済の低迷などの課題解決、さらなる地域の活性化を目指すことができます。ありがとうございました。

エネルギーの専門家との省エネワークショップ

■エネルギーの専門家との省エネワークショップ 14:50～



《司会進行》

大会実行委員長 江間 史明氏

《講師》

一般財団法人省エネルギーセンター

エネルギー使用合理化専門員

宇羽野エネルギー管理事務所 代表 宇羽野 浩 氏

家庭の省エネエキスパート

地球温暖化防止コミュニケーター

宮城県地球温暖化防止活動推進員

宮城県環境教育リーダー 千葉 智恵 氏

東北経済産業局 資源エネルギー環境部長 奥村 浩信

江間実行委員長

ここからは、エネルギーの専門家の方と一緒に本日のディベートを振り返る時間となります。試合を経て言いたいことや聞きたいこと、さらに知りたいことなど、他の学校の選手や専門家の方と一緒に振り返りつつ、情報交換や交流をしていただければと思います。続いて、本ワークショップの進め方について説明します。

全体は四つパートに分かれています。

まず最初のパートでは、「エネルギーの専門家から見た本日の試合の感想」ということで、宇羽野様と千葉様からコメントをいただきます。

続いて「交流タイム」を行います。これはそこに説明を書いておきましたが、まず各チームの生徒さんから1名を選んで、その生徒さんは第2試合をしたルームに入ってくださいようお願いします。そしてそのルームに来た生徒さんに自分たちの政策や試合で考えたことを説明したり、質問に答えたりしてください。ルームに入る生徒さんは途中で交代しても構いません。それ以外の生徒さんは、自分のスマホなどのデバイスでルームを自由に行き来して交流してください。花の間を飛び回るミツバチのイメージです。各校の政策や部屋割りはトップページのシートを参考にいただければと思います。この交流タイムの終

本ワークショップのねらい

- ・試合、お疲れ様でした。
- ・withコロナの「新しい生活様式」のもとで、命と健康を守りながら、持続可能な社会を目指すためには、どのような省エネ政策が効果的か。各参加校から、政策の提案と議論がありました。
- ・ここからは、エネルギーの専門家の方と一緒に、本日のディベートを振り返る時間となります。
- ・言いたいこと、聞きたいこと、知りたいことなど、選手や専門家と一緒に振り返りつつ、情報交換、交流していただければと思います。

本ワークショップの進め方①

- 1 エネルギーの専門家から見た本日の試合の感想 約10分
 - 2 交流タイム（オンラインでのワールド・カフェ） 約20分
- ・各チームの生徒さんから1～2名を選んで、その生徒さんは、第2試合をしたルームに入ってください。そのルームに来た生徒さんに、自分たちの政策や試合で考えたことを説明したり、質問に答えください。（ルームに入る生徒さんは途中で交代してもかまいません。）
 - ・それ以外の生徒さんは、自分のデバイスでルームを自由に行き来して、交流してください。花の間を飛び回るミツバチのイメージです。各校の政策や部屋割りは、トップページのシートを参考にしてください。
 - ・交流時間は、15時29分までです。15時29分になったら、各ルームから退出して、トップページから「ワークショップ会場」に入ってください。

了時間は 15 時 29 分を予定しています。

15 時 29 分になったら各ルームから退出して、トップページからワークショップ会場に再び入ってくるようにしてください。戻ってきた時から「全体での交流時間」になります。約 10 分間を予定しています。この時間帯ではまず、今交流して考えたことやみんなと一緒に考えてみたいこと、今日の試合の感想などについてそれぞれの皆さんからチャットに書き込んでみてください。その時間を 3 分間ほど取ることにします。みんなで考えてみたい意見について、司会の江間から発言をしてもらうことがあります。

全体での交流時間の後、最後にエネルギーの専門家の方からそれぞれ一言をいただいて、この本ワークショップを終わりにしたいと考えております。

それでは最初に「エネルギーの専門家から見た本日の試合の感想」ということでコメントをいただければと思います。始めに省エネルギーの専門家から見た、ということで宇羽野様よろしくお願いします。

宇羽野氏

宇羽野でございます。よろしくお願いします。私は先ほどご紹介していただきましたが、エネルギー管理というもののサポート、主に企業や自治体などで省エネルギーを推進する方のお手伝いをさせていただいております。省エネルギーとは何かということをつけ加えさせていただきますと、ストレスになるような、例えば快適さを損ねるとか我慢をするとか、そういうことは省エネルギーではないと思っています。省エネルギーを楽しみながら続けるお手伝いをさせていただいております。もう一つは、省エネルギーのお手伝い自体ですね、論理的な側面だけではなくて、直感的な側面からのアプローチ、つまり楽しみながら実際にやる、行動に結びつけるといったところを考えながらお仕事させていただいております。

本日はオンライン開催ということでですね、慣れない環境の中で、朝から大変素晴らしい試合を見させていただき、たくさん教わることがございました。大変勉強になりました。ありがとうございます。今年度におきましては、今年度というのは去年の 4

本ワークショップの進め方②

3 全体での交流時間 約10分

- ・最後に全体での交流の時間を持ちたいと思います。
- ・今、交流して考えたことや、みんなと一緒に考えてみたいこと、今日の試合の感想などについて、チャットに書き込んでみてください。3分間ほど時間をとります。
- ・みんなで考えてみたい意見について、司会の江間から発言をしてもらうことがあります。

4 エネルギーの専門家から、最後に一言 約10分

宇羽野氏、千葉氏、奥村氏

ワークショップ用各チームの提案一覧（高校生の部） ※順不同・校名は略称表示

高等学校名	政策提案の概要
秋田西高等学校	あつまれ!! 生活のゴミ 政策
秋田高等学校	ゴミ発電でまるとエコシティ
八戸聖ウルスラ学院高校	みんなで『かえる』クリーンハウス政策
盛岡第三高等学校	(第一試合) 洗濯機のススメ (第二試合) 分散型エネルギーが変える未来
古川学園高等学校	農家と個人・企業との仲介サービス — 農作地増進と緑地化
山形東高等学校	デイクアウト用プラスチック容器の型を全てのデイクアウト店で統一
平工業高等学校	電気の自給自足の確立を目指す社会
福島西高等学校	ZEHを超えるPEHの推進

ワークショップ用各チームの提案一覧（中学生の部） ※順不同・校名は略称表示

中学校名	政策提案の概要
青森山田中学校 A チーム	ウィズコロナで選ぶホントにカッコいいエシカルファッション政策
青森山田中学校 B チーム	家庭でできるウィズコロナでのエコライフ
八戸工大第二高等学校附属中学校	T P G ~家庭内および公共の場における省エネ~
盛岡中央高等学校附属中学校	とても使いやすい能率的なキックボード really useful efficient kickboard 略称: RUEK
秋田大教育文化学部附属中学校	感染症対策におけるエネルギーロス削減システムの導入
古川学園中学校	3つのFREE~FREEライフスタイルでムダFREE&ストレスFREE~
東北学院中学校	エネルギーの地産地消
ふたば未来学園中学校	竹木容器の導入による、容器削減と森林資源の有効利用

月からですね、コロナ渦の中でスタートしたわけなんです、私、真っ先に考えたのが、自宅事務所で過ごしておったんですが、依頼されてた仕事のほかに、コロナ禍の冷暖房それから換気のあり方、きっと冷暖房のエネルギーの消費増えるんだらうな、そんなことで私ができることは何かということを考えてみました。特にそういったところでは、冷暖房のあり方というのをですね、その後お仕事の中でもお伝えしてきた、というところがございます。今ではCO₂濃度計を購入しまして、見える化、安心して、換気が大丈夫かなと安心できるように見える化といったものにチャレンジしております。そのような中でですね、今日皆様のディベートをお聞かせいただきました。全部は聞けなかったんですが、見た試合の中より三つほどですね、お話しさせていただきたい、印象に残ったところをお話したいと思います。

まず、中学校の方の第1試合、秋田大教育文化学部附属中学校さんは、その中で先ほど申し上げたところの同じような内容でですね、「感染症対策におけるエネルギーロス削減システムの導入」といったタイトルで、私と同じようなこと考えていらっしゃるなといったところございました。テーマが、換気によってエネルギーが増えるんじゃないかということで、実際に実験をして、対策をして実験をして、実際にやってみるといったところが大変素晴らしかったと思います。実験の中では、室内環境であったりCO₂濃度、2000ppmがいいかどうかというのはまた別の話ですが、実際そのようなものも確認しながら行ったということです。大変素晴らしいと思います。質疑、ディベートの中でですね、電気のアエアコンがあるじゃないかと、灯油ファンヒーターの話だったんですが、電気のアエアコンに対してはどうなんだとか、そのような質問もございましたが、いろんなパターンが考えられると、私もそう思います。ですから今後はエネルギー全体ですね、灯油、電気、トータルでどうなのかといった視点で考えていただくとよりよろしいのかなと思います。これから先ですね、学校のほうでより前に進めていただけるとよろしいかと思います。

で、もう一点は高校の第1試合で、盛岡第三高等学校さんと平工業高等学校さんの試合。これもちょっと途中までですが見させていただきまして、平工業高等学校さんの中で、ソーラーパネルの話をされてたんですが、より安く購入するために補助金を活用されてはいかがですかと、そういったやり取りでですね、非常に、その辺の価格の心配までされて提示してくれた、というのが印象に残っております。一方でマンションではどうなのかといった話もありましたが、色々住んでる環境によって考える必要もあるのかなというところも感じております。

最後三つ目でございますが、これは決勝戦、中学校の決勝戦ですが、青森山田中学校Aチームさんとふたば未来学園中学校さんですね。青森山田中学校Aチーム、「本当にカッコいい」といった言葉がタイトルに入っています。タイトルは「ウィズコロナで選ぶホントにカッコいいエシカルファッション政策」ということで、「本当にカッコいい」と、このタイトルですね、直感にちょっと響きました、というのと、それからご提案の中身が非常に選択肢が多かったということで、いろんな地域性、それから好み、そういったものに多様に対応できるような提案をされてたといったところが大変印象に残っております。簡単ですが、以上でございます。

江間実行委員長

はい、ありがとうございました。それでは続けて千葉様よろしく申し上げます。

千葉氏

はい、千葉と申します。私は家庭の省エネに取り組んでおりまして、私の日頃の取り組みを皆さんにお伝えし

ながら、身近にできる省エネをご紹介します。

本日の皆さんのディベートを観戦させていただいて、とても素晴らしい戦いをされて驚きっぱなしでした。相手の提案をよく聞き、さらに引き出すような質問や提案をしており、中学生も高校生に遜色のない素晴らしいやりとりをされていることに私自身とても刺激を受けました。その中でいくつか感じたことをお話してみたいと思います。

現在はコロナで、かつてないスピードで私たちのライフスタイルが変わっており、特にテレワークで人々の働き方やライフスタイルが大きく変化しています。産業、事業それから運輸部門は減少していますが、家庭部門の電気関係におきましては消費がとても増加しているという実情です。そういう中で皆さんの提案がとても身近なもので、私自身、家庭の省エネに取り組む者として、とても関心を持って聞かせていただきました。その中で、ゴミ、そしてエネルギーといったものを提案してくださって、私たち、家庭で暮らす中でどうしていいのかというところで、このコロナ禍で模索してるところを、中高生の皆さんがいち早くそれを調べて提案してくださっていることにとても心強く感じました。

秋田高等学校さんと八戸聖ウルスラ学院高等学校さんの決勝戦を観戦させていただきました。ゴミ政策に対して、既存の焼却施設にプラスした提案をしておりました。新規のゴミ焼却施設というのは各自治体に対して大きな負担のかかるものですが、追加策はとても取り組みやすいと思いました。それから「みんなで『かえる』クリーンハウス政策」。こちらもより具体的に提案してくださっているのも、私自身、家庭の中でどのようにこの寒い冬を乗り越えていったらいいかな、というところでとても参考になるお話をいただいたように思います。

それから福島西高等学校さんのゼロエネルギーハウスについてです、家庭の省エネエキスパートの私としては、家の断熱はとても重要視しておりまして、大きな関心をもって聞かせていただきました。ゼロエネルギーハウスよりもさらに進んだプラスエネルギーハウスを目指すという提案をしてくださっていること、そしてさすが高校の科学部！部活動で研究されていることをここで活かしてくださってるんだなっていうことに心強く感じました。

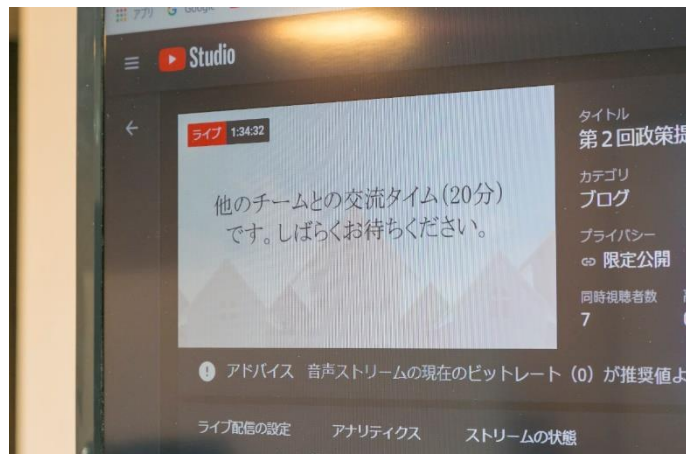
中学生の部についてですが、本当に中学生かなと思うほどに、素晴らしいやりとりをしてお互いのいいところをどんどん引き出していく展開に、私自身引き込まれて聞かせていただきました。その中で東北学院中学校さんの「エネルギーの地産地消」は日ごろから必要性を感じて興味深く聞かせていただきました。地球温暖化問題というのは、災禍っていうのが本当にセットでして災害時には私たちの暮らしを脅かします。私の勤務先の宮城県本吉郡南三陸町は、東日本大震災の津波で大きな影響を受けました。そのときに、私たちの命を脅かしたのが、このエネルギー問題だったんですね。ひとたび電力が途絶えてしまうと、命の危機に直面します。その時の反省から私たちの命をどのようにつないでいくかを考え、小規模発電という取り組みを南三陸町は取組始めました。このエネルギーの地産地消というのは、適応策にもなりますので、こういったことに着眼点を持って取り組んでるところに心強いなと思いました。

青森山田中学校 A チームさんの「ウィズコロナで選ぶホントにカッコいいエシカルファッション政策」。おしゃれとか楽しいという我慢ではない省エネというのは、私たち女性たちも心惹かれます。省エネに取り組む、進めるにあたっては、我慢ではなくて暮らしの質を落とさない暮らしを提案していくのは大きな鍵になるのではないかなと思います。以上で私の感想を終わらせていただきます。

江間実行委員長

ありがとうございます。それでは、これより他のチームとの交流タイムに移りたいと思います。

(交流タイム)



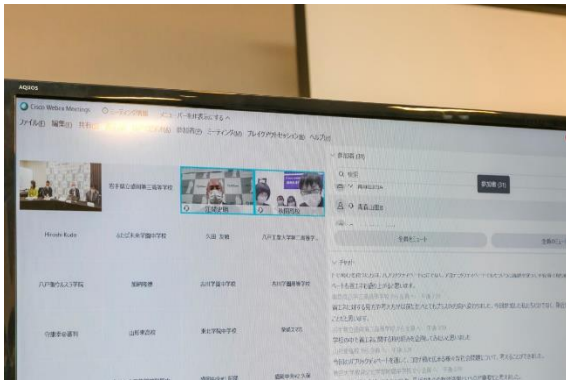
江間実行委員長

交流タイムお疲れ様でした。それではこれからは、全体での交流の時間としたいと思います。最初に申し上げましたが、オンラインですので、それぞれのところで今考えていること、交流して考えていること、それからみんなと共有して考えてみたいことなどについて、その画面パソコンで結構ですので、チャットの方にどなたか書き込んでいただけますか。3分ほど時間をとりたいと思いますので、チャットの方に記入をお願いします。それではお願いします。

(チャット記入時間)

八戸聖ウルスラ学院	今回のディベートを経験したことで省エネへの意識は高まりましたか？また、省エネを同世代にどのように広めていきたいと考えているか、みなさんの意見を伺いたいです。
ふたば未来学園中学校	たくさんの方の多様な意見、視点を知ることができ、大変勉強になりました
八戸工業大学第二高等学校附属中学校	非常に高まりました！同じ学校の生徒に伝えていきたいです。
古川学園高等学校	今まで考えたことがありませんでしたが、意識することができました。
福島西高等学校	とても高まりました。
古川学園高等学校	広めるなら、若者の目につくもので呼びかけるのがいいと思います。
NMさん(盛岡中央高等学校附属中)	自分たちが動いてもなにも変わらないと思っている友達も多いので、私たちにできることを伝えていけたらと思います。
福島県立平工業高等学校	やはり、様々な地域からたくさん的高校生が集まると、新しい発見をすることができ、自分自身大きな刺激になりました。考えが膨らんで、大きな提案に広がるんだと感じました。

盛岡中央高校附属中 S Rさん	省エネは我慢してやるものではなく、楽しみながらできるものということを今回のディベートに参加していない人にも伝えたい。
古川学園中学校	今回の大会を通して、省エネの様々な考え方を知り、意識を高めることができました。持続可能な社会の実現は省エネを広めるボランティア活動や SNS をうまく活用した広報活動を通して同世代に広く知ってほしいです。
青森山田 B	省エネについてとても関心が高まりました
八戸工業大学第二高等学校附属中学校	コロナ禍で我慢が求められる中、我慢せずに省エネを目指すという観点にすごく惹かれました。
秋田高校	まずは自分の周りの友人たちに、広めていこうと思います
青森山田 A	意識が高まりました これからの生活に生かしていきたいと思います
東北学院中学校	今大会の試合や交流会を通じて、省エネについて、自分にもできることが意外に多いのだなと改めて思いました。今後の生活に生かしていきたいと思っています。
盛岡中央 Kさん	省エネと一口にいてもいろんなやり方があるということが分かりました。
古川学園高等学校	たとえば、省エネについて発信するために東北経済局が SNS 等の運用を行い、具体的な省エネ方法を発信してみるの、はどうでしょうか？また、今回ディベートで関心を持った方は、パブリックディベートだけでなく、アカデミックディベートでもそういった課題を使って学校等で取り組むなどを、検討していただければ、ディベートも省エネも盛り上がると思います。
福島県立平工業高等学校	省エネに対する見方や考え方が以前に比べてとてもプラスの方向へ変わりました。今回参加した私たちだけでなく、身近なところから広げていくことが私たちにできることだと思います。
岩手県立盛岡第三高等学校	学校の中で省エネに関する取り組みを企画してみたいと思いました
山形東高校	今回のパブリックディベートを通して、コロナ禍で広まる様々な社会問題について、考えることができました。
秋田大学教育文化学部 附属中学校	多くの人に関心を持ってもらうことや、身近なものの有効活用という点が重要だと考えました。



江間実行委員長

それでは、チャットのほう反応ありがとうございました。司会の方から二人ほど、発言をお願いしたいと思いました。二つの学校からどなたからでもいいです。一つは、自分の周りの世代にどういうふうに働きかけるかという話だったんですけど、秋田高校さんから書き込まれた方、ミュートはずしてビデオをオンにしてもう少しこの中身を膨らませて発言してもらえますか。大丈夫ですか、お願いしても。はいありがとうございます。それじゃあミュート外して発言してください。

秋田高校生徒

音声聞こえますでしょうか？

江間実行委員長

はい聞こえます。じゃ、お願いします。

秋田高校生徒

自分たちの話し合いの場を設けることで、自分たちの環境問題などについて調べたところ、自分たちの視点だけではなくて、他の学校の方々からの別の視点を取り入れながら、今回の環境について考えることができたので、とても有意義な活動となりました。また、自分たちの考え、政策を磨き上げるために、秋田の環境審議会の方に訪問したり様々なデータ収集をしたり、より自分たちの環境に対する関心を高めることができたと思います。

江間実行委員長

はい、ありがとうございました。それではもうおひとかた、中学校のほうから、八戸工業大学第二高等学校附属中学校の方の書き込みもおもしろかったので、今考えていることについて、ミュートを外して少し発言していただけますでしょうか。八戸工大の中学校の方、よろしくお願いします。

八戸工業大学第二高等学校附属中学校生徒

私たちは、「TPG ～家庭内および公共の場における省エネ～」という政策を考えました。

江間実行委員長

交流して今考えていることを話してください。

八戸工業大学第二高等学校附属中学校生徒

私たちが考えたことが実現することができるといいな、と思いました。国民全体に省エネの意識が広がって、日本としても環境の変化とかに対応できる国になるんじゃないかと思いました。

江間実行委員長

はい、ありがとうございました。僕のパソコンの関係で、事務局との調整不足でお聞き苦しい部分あって申し

訳ございませんでした。チャットのほうに本当にたくさんのご意見をありがとうございました。こちらのほうでも交流できたのかなと思います。オンラインで制約はありましたが、自分のやったことをこれから考えていく機会にしていいただければと思います。それでは全体の交流はここまでの時間にさせていただいて、それでは最後にエネルギー専門家の方から一言ずつお願いして、このワークショップを閉じさせていただきたいと思います。

それでは、宇羽野様からよろしくお願いいたします

宇羽野氏

宇羽野です。どうも今日はありがとうございました。本日、皆様のユニークな政策提案ですね、聞かせていただきまして、目から鱗が落ちたような状態で大変勉強になりました。本当にありがとうございました。またディベートの方ですね、私、ちょっとディベートは初体験だったんですが、互いに提案を高めあうと、非常に素晴らしい会でしたんで、ぜひ今後とも皆さんのこの輪を広げていただけるとよろしいのかなと思いました。それで、実は最後に申し上げたかったのは、エネルギーと環境問題ですね。こちらについては私たち自身の問題なんですね。地球のためにどうのこうのって言う方もいらっしゃいますけど、私たち自身が加害者であり被害者であるといったことを自覚してですね、一人ひとりが本日のように、関心を持って自分の問題と捉えてですね、この関心が、今度行動に移っていただくということが非常に重要になるかと思います。ですから、今日、知っているという状態になったかもしれませんが、今度は是非、自分でやっているよといったところを、ぜひ取り組むと省エネって楽しいなっていうふうに感じていただけるのかなと思っております。本日はですね、オンラインという形でちょっと、なかなかうまくいかなかった点もあったんですが、皆さんのコミュニケーションをはかれた方々、これからこの輪を大きく広げて、是非私たちにできること、これからの行動に結びつけていただければ、一緒に結びつけていきたいと思いますということで最後の言葉とさせていただきます。以上でございます。どうもありがとうございます。

江間実行委員長

ありがとうございました。それでは千葉様よろしくお願いいたします。

千葉氏

本日は大変ありがとうございました。先ほど交流をさせていただきまして、一様にみなさん、今回のパブリック・ディベートコンテスト、とても楽しみながら取り組みましたということで、皆さんと調べて、そしてまとめあげて、そして戦っていく中の、その交流自体を楽しみながらされていたということにとっても私も嬉しく思いました。そのようにですね、調べたことそして考えたこと、それだけではなくて自分に落とし込んで、これから一人ひとりがどのように取捨選択をして低炭素社会を築いていけるかっていうことですね。それ、本当に一人ひとりの行動にかかっているんで、是非自分の行動をこれから責任をもって歩んでいただき、そして本日のような政策提案をしていけるような、そういう人たちになっていただきたいな、と思います。今日は本当にありがとうございました。

江間実行委員長

はい、ありがとうございました。それでは最後に奥村様からよろしくお願いいたします。

奥村部長

はい。私から、政策のことでちょっとお話ししようかなと思ってるんですけども。今日皆さん、政策を提案いただいて、その理念、本当にどれも納得感のあるいい提案だったと思います。ちゃんと現状分析されてました

し、いろいろ、どこか訪問されてたというお話も今あったけど、いろいろなところにヒアリングに行ったり、またデータを調べたり、本当に裏付けのある具体的なデータも持ってきて、そういった提案で、本当に良かったと思います。

政策を実際にやるっていう時には、やっぱり費用対効果っていうのが一番大事な話になります。少ない費用で大きい効果を出すというのが一番、原則なんですけども、そこはでもやっぱり難しい話があって、すぐに効果が出るものと、後から効果が出るものがありますし、最初お金がかかるけどちょっと動き出せば後は自然に動くもの、お金は少ないけどずっと長いこと出していかないといけないもの、分野も産業の分野であったり、家庭の分野であったり、また発電する段階のところ、使用の段階のところ、本当にいろんな対象に対していろんなやり方があるって、全体で見て組み合わせをどう効果的にやるのかというところが大事になってきます。いつも我々そんなところ考えてるんですけども、本当に省エネをやるっていうときに、一つのことだけだとできないことで、みんな今日、16の提案ありましたけれども、どれもどこかのピースにはまるような、本当に組み合わせ次第でちゃんと実行できるような、成果のあるようなそんな提案だったと思います。コストのところもきちんと考えて提案されてたところもありましたし、政策のやり方なんか学校で習ってないと思うんですけども、そういった原則がちゃんと押さえられて、凄い良い提案だったと思います。

今年はカーボンニュートラル元年ということで、日本全体が2050年カーボンニュートラルという新しい目標に向かって進んでいきます。TVニュースではあまり報道されていないですけど、新聞では毎日一つ二つ関連記事が出ています。どんな企業がどんな技術開発をしたとか、どんな企業がどんな脱炭素対策に取り組んでいるとか、そういう企業の株価は上がっているとか、経済面も含めていろいろなことが分かってきます。これを機会に省エネ、環境、エネルギーの問題について注目していただきたいと思います。一昔前は省エネはめんどくさいことだという、今でもそんなことを思っている人はいっぱいいるんですけど、皆さんがやると、省エネはカッコいいものだと思われ、世の中が変わっていきます。是非皆さんも省エネを牽引してくれるよう、どうぞよろしくお願いします。

江間実行委員長

それでは講師の皆様、それから出場チームの皆様、ご視聴いただいている皆様、どうもありがとうございました。それでは以上をもちまして省エネワークショップのほうを閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。

●中学生の部決勝戦解説、結果発表 15：50～



全国教室ディベート連盟

神永 誠

大会も残すところいよいよ決勝の講評のみ、私の口から中学の部の結果をお伝えすることになりますが、先ほどの交流会も踏まえて多くの意見があったかと思います。又、いろんな意見を踏まえてこんなこともあったのだから気づくことも多かったと思います。実際のところ選手の皆さんは、試合を通じて、実感することが多かったのではないかなと、選手の皆さんが、その感じたことで変わること、そういった試合の中身が多かったのではないかと思います。中学の決勝も、実際にその通りだったと思います。青森山田中学高等学校 A チームが出した議論、先攻で出した議論というのはファストファッション業界、ここに焦点を当てて省エネ化を取り入れていこうという話でした。一方で後攻のふたば未来学園中学校が出したのは容器プラスチック、この容器プラスチックを減らして変えていこう、これをつなげて行こうという話でした。どちらも服であったりお弁当の容器であったりということで、身近なものから省エネにいかにつなげるかといった視点がとっても素晴らしかったと思います。その身近なものであるがゆえ、説明することが難しいのですが両チーム、ファストファッション業界でどのようなことが起きているのか、容器プラスチックがどのような意味を持っているのか、またこのコロナ蔓延下でこういったものがどう変化している、だからこそ手を入れるべきなのかと、とても中学生とは思えないような政策の提案がなされていました。ご覧になった方も多いかと思います。投票した 37 名の方の、ご協力に感謝申し上げます。

試合の中身がどうだったかということを簡単にご説明したいと思います。青森山田中学高等学校が出した話は、CO₂の排出という問題はとても重要なんだと、ファストファッション業界っていうのは、大量生産、大量消費、しかも大量廃棄がされていて無駄が多い。この無駄をなくすように動いていくこと、あまり中学生の口から聞いたことないんですがエシカルファッションがかっこいいんだっていうことをどんどん押し出してこうという政策を打っていこうという話でした。このエシカルファッションがどうかっこいいのか、政策がどのように伝わるべきかと言ったところには多分お話を聞いてた人の中の受け取り方で変わってしまうかもしれません。なぜかという政策提案の中でこのファストファッション普及に使用する予算というもの、エシカルファッションの良さというものを、国民に伝えて、国民がどう変わるか、企業がどう変わるか、そういった具体的な話が入っていると、このように変わるんだっていうことが具体的にイメージすることが出来るのかと思います。政策提案というのは実際の現場でも行われてるんですが、予測であったり、仮説であったり、そういったものを立てなが

ら検討されていると思うのですが、今行われてないことだから、どうしても予測が不十分であったりという内容になってしまいますので、人に提案して行動に移してもらうためには、より具体的なイメージ、これを想起させること、そのイメージから行ってもいいかなという共感を得ること、ここまで結びつけば思ってる通りに相手に伝わってその行動が伴う、この政策によって世界は変わるんだっていうところまで来ると思います。

4分という限られた時間の中でその部分をいかに伝えるのが難しいかということを実感したと思います。ただ、この大会、面白いのが相手からの質疑応答を踏まえて再提案することができるんです。相手からの質疑は批判に見えるのですが、実はこの議論をもっと良くするスパイスであったり、ヒントであったり、そういったものが隠れています。相手のアドバイスと言われるような内容に沿って再提案することによってより良い議論が最後に再提案という形で実際にも試合で出されていたかと思います。皆さんも見ていて中学生とはここまで話せるのかと感じたでしょう。お金の話、倫理観の話そういったことまでまとめて話をしていたのが先攻の青森山田中学校の話かと思います。関連業界の話も出ておりました。しかもこのファストファッションで残る業界に対して続けなくなるようなモチベーションも持たせるような話も出ていました。世界がこの後どう変わるのか、提案で今回は止まってしまっているところもありますが、提案した結果、世界がどう変わるんだということをお話しいただいてイメージできると、もっともっとより多くの人の共感を得ることができると思います。提案というのはただの言葉ではありません。人を動かすこと、これが提案です。このことができなかったら法律も無駄になってしまいますし、提案もその場で置き去りになってしまいます。だからこそこのファストファッションを変えなきゃいけないということで、どれだけ多くの人が変わるかどうかなということを伝えてください。これをどうすればもっと伝えられるかっていうことをもっともっと是非青森山田中学高等学校の皆さんも、対戦した皆さんも、見ていた皆さんも考えてほしいと思います。一方で、容器プラスチックの話を出したふたば未来学園中学校の話。これも大変面白い話です。コロナによって持ち帰りが増えたんだと、その結果プラスチック容器をたくさん使うことになってそれを捨ててる。これ勿体無いよね、じゃあ今あまってる資源に置き換えられないかなという話でした。減らすだけじゃなくて今ある資源を大切にしようということで森林竹林の再利用の話。日本にはそういったものも余ってる、そういった物を大切にできるんだという話もしてくれました。中学生がそこまで調べて話をしてくれたことは驚きでしかありません。一方で話をイメージした時、代替となる容器として寿司桶のようなものを私たちは想像しました。木桶でなにかするのとか。木や竹に置き換えるときに、具体的に、なにがどのように入れ替わるのか、置き換わるのかということも補足してくれると、もっともっと他の人のイメージが強くていいのではないかと考えています。提案も面白かったです。容器それぞれにマイクロチップを入れて回収して、回収するとポイントがつき、人を動かすモチベーションになるような話まで入れてくれました。人の行動に結びつくような提案ってやっぱりすごいなと思っています。では、これによって物事が大きくどう変わるのかっていうところの質疑をふまえて、再提案されていました。じゃあ今とどれだけ変わるの、この省エネってどういう意味があるの、というところまで具体的にまとめてお話をしてくださると相手の質疑や提案によってさらに良い再提案ができたということを示せたのではないかと、ジャッジの中でコメントがありました。お伝えした通りですが提案というのは人を動かすことです。動かさない提案は提案ではないのかもしれませんが。だからこそ皆さんは「私」の議論を作った時に、仲間で「私たち」の議論でまとめると思います。今回は試合で対戦相手にブラッシュアップさせてもらってるから、対戦相手もふくめて「私たち」なんです。そういった議論が「みんな」の議論になって、社会の議論になって、そうやって議論の形成というものがあって、社会の中でいろいろなものが決まってい

きます。「私たち」の議論を大切にするために、より多くの人の意見を聞いてより多くの提案ができるように良い提案ができるように、これからもっともっと頑張っていただければと思っております。とても決勝に相応しい試合だったと思います。

私からの最後のコメントになります。この決勝の結果をお伝えさせていただきたいと思います。先攻が青森山田中学高等学校 A チーム、後攻が福島県立ふたば未来学園中学校です。今回オーディエンスポート 37 名の方に投票いただきました。この 37 票のうち 25 票が、先行の青森山田中学高等学校 A チームに投票され、12 票がふたば未来学園中学校に投票されました。試合点は平均点として 4.6 点。結果として優勝は青森山田中学高等学校 A チームです。優勝した青森山田中学高等学校 A チーム、準優勝のふたば未来学園中学校の皆さん、おめでとうございます。

本当にいい試合をありがとうございました。

●高校生の部決勝戦解説



大会実行副委員長
全国教室ディベート連盟
本田 紘信

ただいま紹介に預かりました実行副委員長の本田でございます。

先ほど神永審判の方からもありましたが、決勝戦は大変レベルが高く、みなさん学生さんなのによくここまで日本の未来について考えて議論しているということがよく分かる決勝戦だったかと思います。

さて、大会趣意に話に移りますが、皆様に考えていただきました「政策を求める問い」を簡単に読み上げますと「with コロナのための「新しい生活様式」を実践し、命と健康を守りながら持続可能な社会を目指すためには、どのような省エネ政策が効果的か」というような問いを投げかけております。まさに、with コロナの中でコミュニケーションをどうするかとなると、こういったオンラインの試合や大会になったりします。では、その with コロナのなかで省エネについて考えた皆さんの提案は、大変ユニークなものが多かったかと思います。

まず試合の評価点を話したいと思います。この試合は、37 人の投票者がいまして、5 点満点中平均 4.1 点となっており、とても素晴らしく、コミュニケーションがよく取れていてわかりやすい議論を展開されていたとオーディエンスの方が感じております。その要因を審判団で協議したところ、主に理由としては二つあると考えております。まず一つ目は、皆さま初めてであろうオンラインでの試合のなかで、とても素晴らしい間の取り方や、聞きやすいスピードでお話しされていたことです。往々にして、オンライン上でのコミュニケーションは間が取りづらいことや、相手が話している時にかさなり、コミュニケーションがうまく成立しないことが多いのですが、皆さんとても聴きやすいスピーチをしていたため、高い試合評価点となりました。また二つ目は、決勝戦にかぎったことではないですが、相手の意見を受け止めようとする姿勢がとても感じ取れたことです。先攻チームの秋田県立秋田高等学校さん、後攻チームの八戸聖ウルスラ学院高等学校さん、両校、対戦相手校からの意見や質疑応答に対して、一度、自分達で解釈をして、自分たちの言葉で質疑に答える、または受け止めて再提案をする、ということがしっかりとなされていたのではないかと思います。コミュニケーションは、話すことよりも聞くことや理解することの方が難しいです。そこがよくできていたのでとても高い試合評価点となったのだと思います。

それでは個々の議論に移っていききたいと思います。まず秋田県立秋田高等学校さんは、「ゴミ発電でまるごとエコシティ」という提案で、今ゴミを処理しているところで、ゴミが現状増えてきてしまっている。それはコロナのステイホームが原因だ、在宅が原因だということを分析されていまして、その増えたゴミを処理する中でエネルギーを生めるのではないかと、それをうまく使うことで省エネになるのではないかとという提案でした。対して

後攻側のウルスラ学院高校さんは、考え方の入り口は先攻側と一緒にございまして、ステイホームに着目していらっしゃる。ステイホームで家庭でのエネルギー使用量が増えているというところに着目し、電気の使用量にリミットをつけることで省エネをしていこうと提案でした。これは韻を踏んでいて面白かったのですが、「みんなで『かえる』クリーンハウス政策」。私も漢字を書き取るのになかなか苦労しましたが、すごくユニークでキャッチーな政策でございました。

中身としましては、先攻側さんはゴミを燃やして、燃やすところに発電設備を付帯しまして、熱と電気を住宅に送る、電気を融雪システムに送る、ビニールハウスに熱と CO₂を送る、全部無駄なく使ってしまおうというようなシステム形成をされておりました。対して、後攻側さんは、まず家庭に電気の使用制限を設け、例えば毎月 150kwh を使っていたら 100kWh ぐらいまでを制限にして、50kWh 削減すればポイントが貰える、というシステムでございました。それでそのもらったポイントはフリーマーケットで使えるということでした。さらに、ポイントで太陽光パネルも設置でき、自然にかえることができる。そして、素敵な家に帰ることができるというような政策でございました。

ここで皆さんに着目していただきたいのは、先攻側さんも後攻側さんも入口は一緒ということです。在宅に着目していて、在宅の時に無駄に捨ててしまうエネルギーを活用するのが先攻側さんです。そして、在宅の時に出てしまうエネルギーを、ご家庭のモチベーションで減らしていこう、そういうところに省エネを見出そうというのが後攻側さんの意見でございます。

実は出発点は一緒に着地点が違うだけで同じところに問題意識を持っているということです。ここで、最終的な評価の分かれ目になったのはどこなのかと言うと、中学校と同じような格好になっております。つまり、人を動かすためにはイメージさせること、人を動かすためには共感を得て、イメージをさせなければいけないのですが、どちらがより未来をイメージさせることができたかと言うところにかかっておりました。先攻側さんは、どういった人に効果があるのかという時に、社会システム全体を変えてしまうので、勝手にみんなが享受するようになる、そういうようなスタンスでロジックを形成されておりました。後攻側さんはですね、興味を持った人からどんどん変化していきます、そして、最終的に広くあまねく省エネ活動が展開できますというスタンスでございました。そして、我々はどちらをよりイメージできたかというところで聴衆の方の意見が割れておまして、中学校よりも僅差になってしまいました。おそらく先攻さんに入れた方の投票理由は、先攻側が言ったゴミ処理をするところでエネルギーを無駄なく使おうという未来が鮮明に描けた人です。後攻側に入れた方は後攻側の言っている興味を持った人から電気を使わないようになっていってポイントもうまく使えて、太陽光も設置できるというような、無駄のないリサイクルする社会システムが形成されるということが身近なイメージを持って、共感ができた人かと思えます。結果として、割れてはおりますが、これをより自分たちの提案に審判の投票を寄せるためにはどういったテクニックが必要だったのかというと、先ほど申し上げたように、より共感を呼べるようなイメージを言葉で説明することです。ディベートって言葉で説明する競技ですので、皆さん大変そこには苦労されたかと思えます。言葉で説明する難しさと楽しさを、今回持ち帰っていただければ、よかったなと思います。

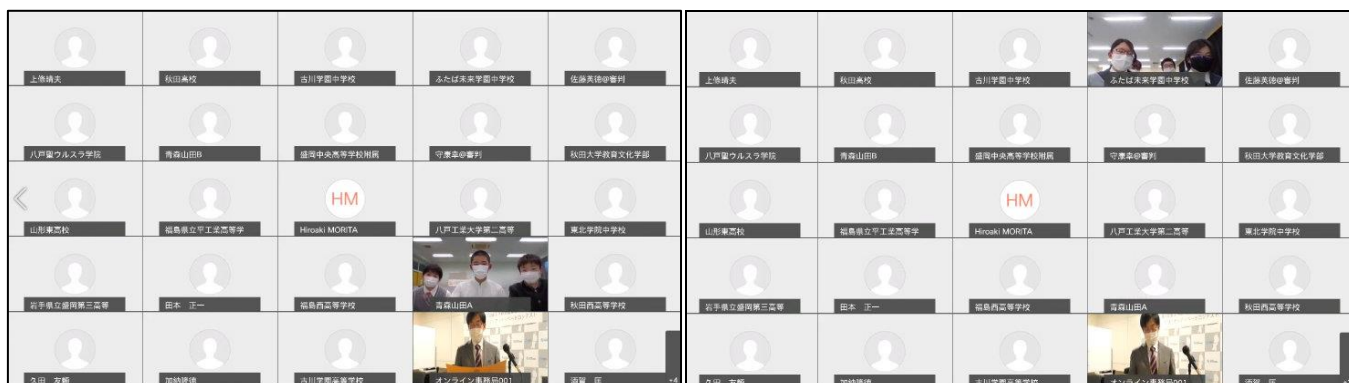
では、結果を発表したいと思います。よりうまく省エネの未来を審判、聴衆の方に共感してもらえたのは、後攻の八戸聖ウルスラ学院高等学校さんで 21 票を獲得しております。先攻の秋田県立秋田高等学校さんは 16 票の共感を得ております。

以上をもちまして発表となります。優勝は八戸聖ウルスラ学院高等学校さんです。おめでとうございます。



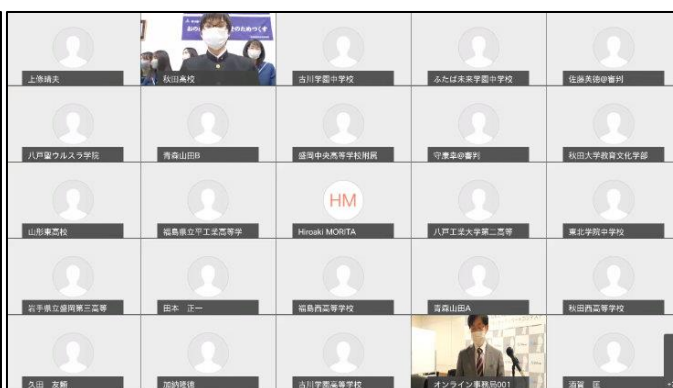
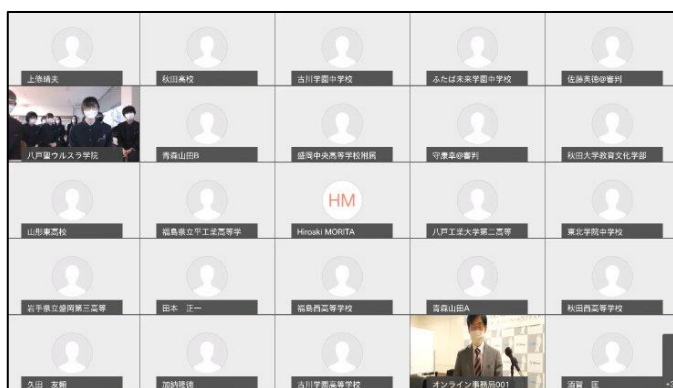
表彰式

●表彰式



青森山田中学高等学校 A チーム

福島県立ふたば未来学園中学校



八戸聖ウルスラ学院高等学校

秋田県立秋田高等学校



第2回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト

表彰・記念撮影

おめでとうございます！



東北経済産業局長
渡邊 政嘉



優れた政策提案でした！



大会実行委員長
江間 史明

中学生の部 優勝
青森山田中学高等学校 Aチーム

令和三年一月十日

第2回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト

表彰・記念撮影

おめでとうございます！



東北経済産業局長
渡邊 政嘉



優れた政策提案でした！



大会実行委員長
江間 史明

中学生の部 準優勝
福島県立ふたば未来学園中学校

令和三年一月十日

第2回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト

表彰・記念撮影

おめでとうございます！



東北経済産業局長
渡邊 政嘉



優れた政策提案でした！



大会実行委員長
江間 史明

高校生の部 優勝
八戸聖ウルスラ学院高等学校

令和三年一月十日

第2回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト

表彰・記念撮影

おめでとうございます！



東北経済産業局長
渡邊 政嘉



優れた政策提案でした！



大会実行委員長
江間 史明

高校生の部 準優勝
秋田県立秋田高等学校

令和三年一月十日

閉会挨拶



大会実行委員長
山形大学大学院 教育実践研究科
教授 江間 史明

一日朝からどうもお疲れ様でした。最後に、本大会の成果と課題を一点ずつ述べて閉会の挨拶とさせていただきます。

成果は、何よりも本日のディベートを通して、皆さんが自分たちの政策提案を磨き上げるという経験ができたことだろうと思います。

政策提案というのは、自分で考えた時にはほぼもう完璧だと考えていると思います。しかし、それに対して相手チームから質疑を受けたり意見を言われたりして初めて気がつくことがある、そうした経験を今日の大会でできたのではないかと思います。私たちの社会がなぜ議論をするのか、なぜディベートをするのか。それは、自分の視野に入っていない意見を視野に入れることができるからです。自分が考えていないことや、都合の悪い意見を自分の視野に入れた時に、自分たちの考えをさらに発展させることができます。そうした経験の場としてこの大会がさらに充実していくことを期待したいと考えています。

課題は、先ほど中学・高校の決勝戦の解説で述べられていました。政策提案について質疑を受けたこと、そこから更に応答を踏まえ政策を改善し、より磨き上げていく。そのパブリック・ディベートの後半のステージをさらに充実させていくことを、これからさらに考えていただければと思います。自分たちの政策を取り入れた私たちの社会や暮らしが、今よりどのくらい良くなるのか。それをイメージ豊かに描き、相手チームの政策を取り入れた社会と比較して、より重要であることを審判に伝えることを考えてみてください。

最後になりますが、本大会の開催にあたりまして、それぞれの試合を審判していただいた皆さんがいます。審判の皆さんも大変勉強になったというコメントを、先ほど控え室で聞きました。そうした審判の皆さんのお力添えやさらにこの大会、オンライン大会でしたが、様々に初めての試みの中で多くのスタッフの皆さんにご協力をいただきました。そうした多くの皆さんのご協力に感謝しながら、この大会を無事に終えることができたことに安堵しておりますし、さらに発展させなければならないとも考えております。

本日は一日どうもありがとうございました。

以上をもって閉会の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

アンケートの集計結果

出場チームのアンケート集計結果①

出場チームアンケート結果とりまとめ【選択肢編】

構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

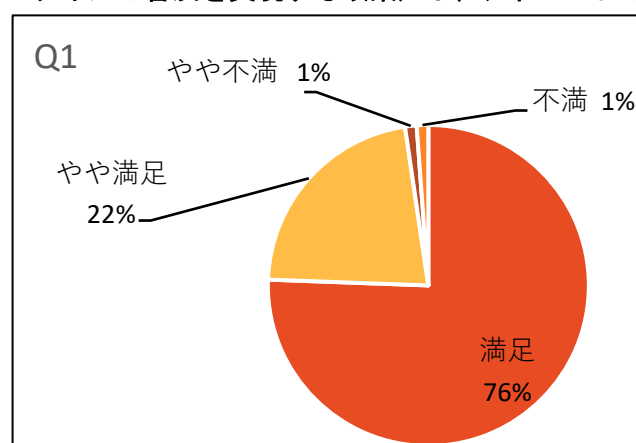
	人数	回答数	回答率	
生徒	99	72	73	%
引率者	17	14	82	%
合計	116	86	74	%

*生徒：登録メンバー93＋その他生徒6名

【出場校募集～大会前日までに係るご質問】

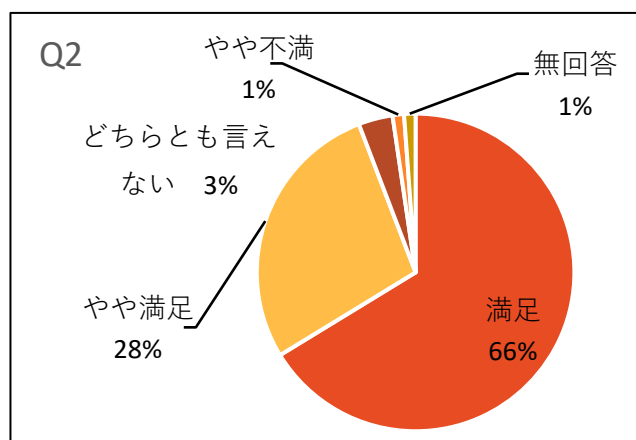
1. 大会趣意（省エネルギーと豊かな生活を両立するライフスタイルの普及を実現する政策）は、ディベートのテーマとしていかがでしたか。

選択項目	回答数	%	(前回)
満足	65	76%	70%
やや満足	19	22%	25%
どちらとも言えない	0	0%	5%
やや不満	1	1%	0%
不満	1	1%	0%



2. 政策提案型パブリック・ディベートのルールの内容はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%	(前回)
満足	57	66%	39%
やや満足	24	28%	32%
どちらとも言えない	3	3%	18%
やや不満	1	1%	11%
不満	0	0%	0%
無回答	1	1%	0%

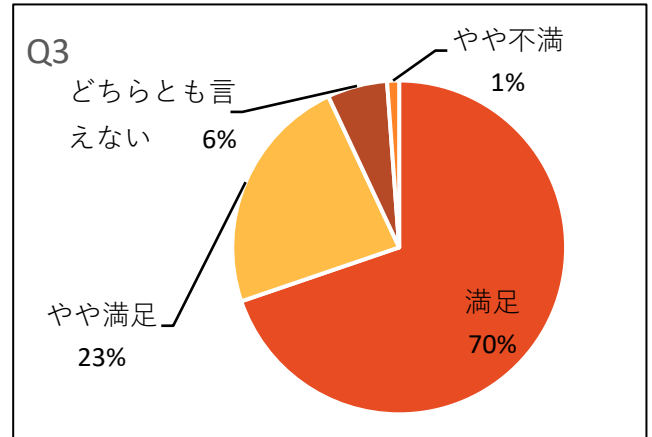


出場チームのアンケート集計結果②

【出場校募集～大会前日までに係るご質問】

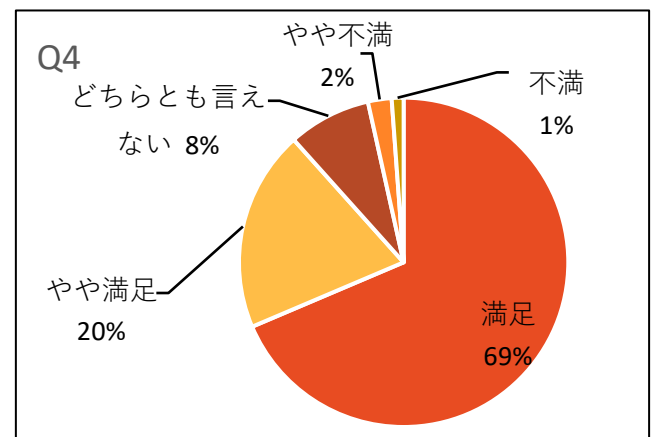
3. 政策提案型パブリック・ディベートのガイドラインの内容はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%	(前回)
満足	60	70%	41%
やや満足	20	23%	52%
どちらとも言えない	5	6%	5%
やや不満	1	1%	2%
不満	0	0%	0%



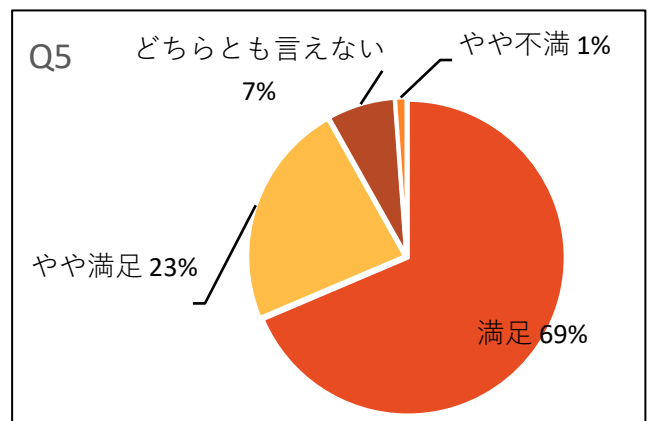
4. 政策提案型パブリック・ディベートのワークシートの内容はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%	(前回)
満足	59	69%	59%
やや満足	17	20%	25%
どちらとも言えない	7	8%	11%
やや不満	2	2%	5%
不満	1	1%	0%



5. 事前の学習資料（ディベートを始めるための参考資料、エネルギー関連資料等）の内容はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%	(前回)
満足	59	69%	57%
やや満足	20	23%	25%
どちらとも言えない	6	7%	16%
やや不満	1	1%	2%
不満	0	0%	0%



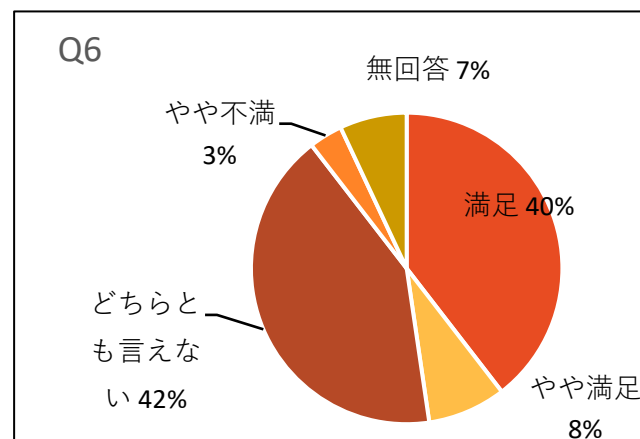
出場チームのアンケート集計結果③

【出場校募集～大会前日までに係るご質問】

6. 省エネ無料講座の内容はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%	(前回)
満足	34	40%	27%
やや満足	7	8%	9%
どちらとも言えない	36	42%	2%
やや不満	3	3%	2%
不満	0	0%	0%
無回答	6	7%	59%

*前回：利用していない 57%, 回答無し 2%

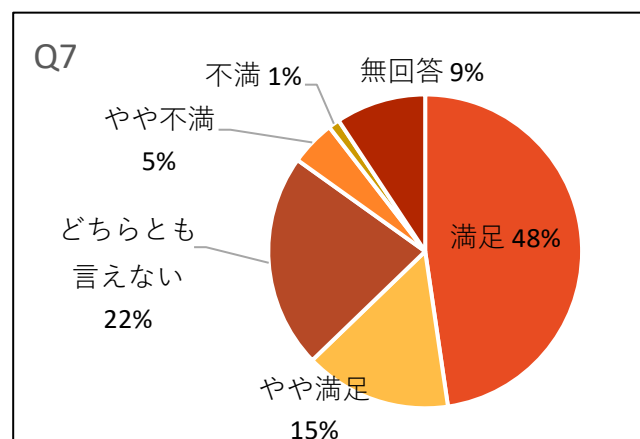


7. 模擬試合（12月13日開催）に参加または視聴していかがでしたか。

選択項目	回答数	%	(前回) *
満足	41	48%	50%
やや満足	13	15%	14%
どちらとも言えない	19	22%	7%
やや不満	4	5%	5%
不満	1	1%	0%
無回答	8	9%	25%

*前回：モデル試合について質問。

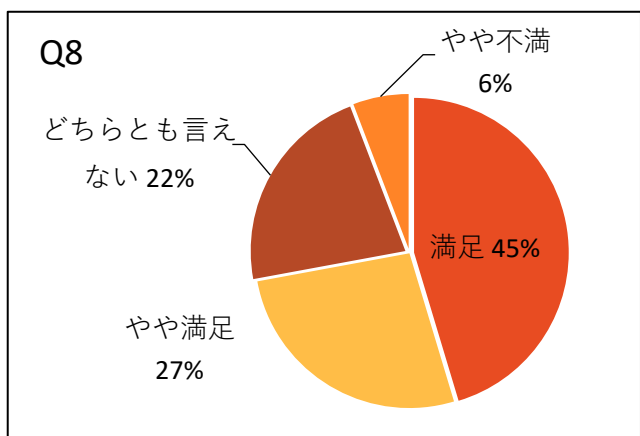
無回答は視聴していない 23%含む



【大会当日に係るご質問】

8. 大会のスケジュール（プログラム内容や時間配分等）はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%	(前回)
満足	39	45%	25%
やや満足	23	27%	36%
どちらとも言えない	19	22%	14%
やや不満	5	6%	20%
不満	0	0%	2%
回答無し			2%

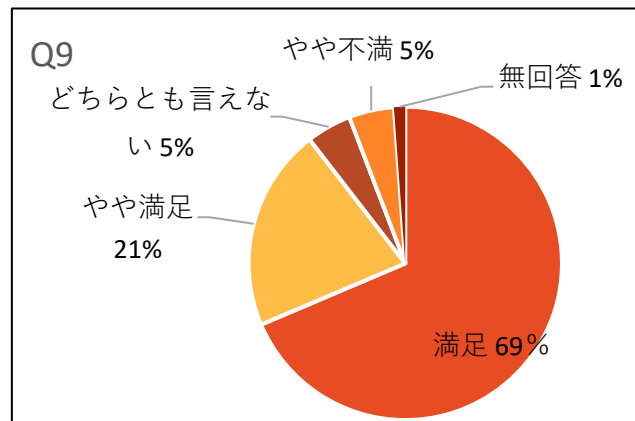


出場チームのアンケート集計結果④

【大会当日に係るご質問】

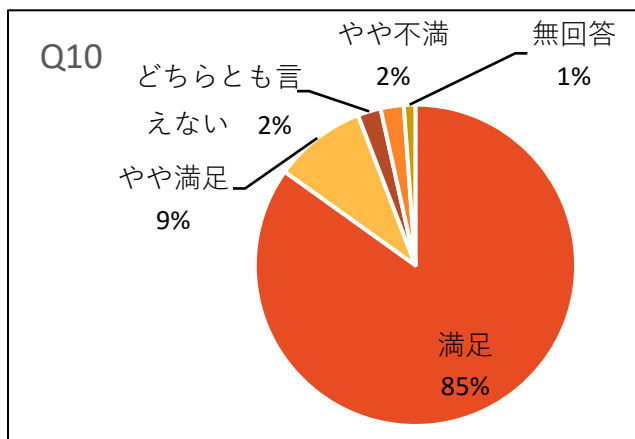
9. 審判（進行、講評、判定等）はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%	(前回)
満足	59	69%	64%
やや満足	18	21%	18%
どちらとも言えない	4	5%	11%
やや不満	4	5%	0%
不満	0	0%	5%
無回答	1	1%	2%



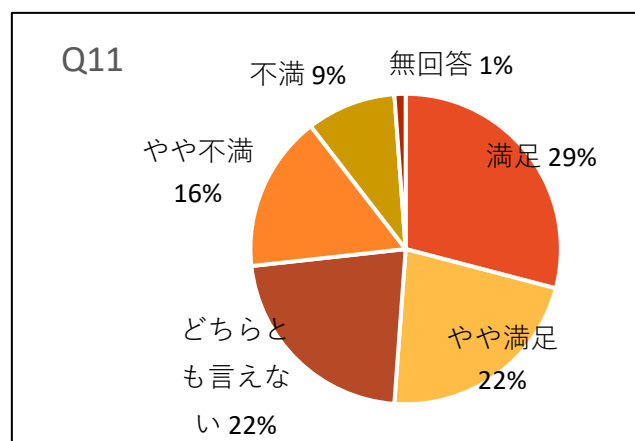
10. 決勝戦はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%	(前回)
満足	73	85%	57%
やや満足	8	9%	32%
どちらとも言えない	2	2%	9%
やや不満	2	2%	0%
不満	0	0%	0%
無回答	1	1%	2%



11. 省エネワークショップはいかがでしたか。

選択項目	回答数	%	(前回)
満足	25	29%	57%
やや満足	19	22%	25%
どちらとも言えない	19	22%	14%
やや不満	14	16%	2%
不満	8	9%	0%
無回答	1	1%	2%

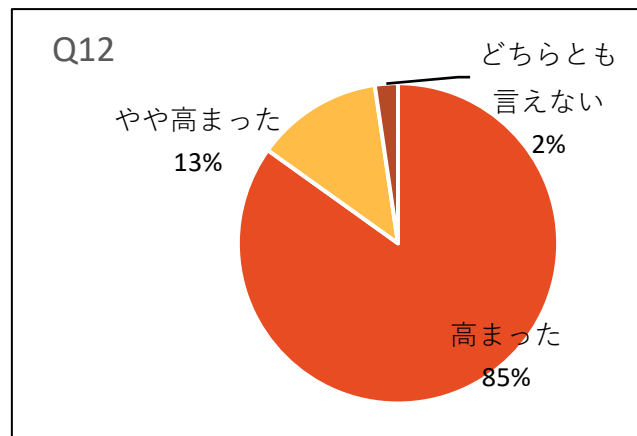


出場チームのアンケート集計結果⑤

【次回の大会に向けたご質問】

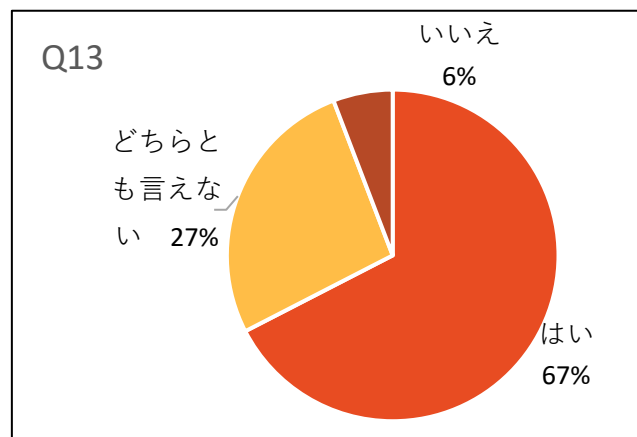
12. 本大会を通してエネルギーや省エネへの関心は高まりましたか。

選択項目	回答数	%	(前回)
高まった	73	85%	75%
やや高まった	11	13%	18%
どちらとも言えない	2	2%	5%
高まらなかった	0	0%	2%



13. 次回大会にも参加したいと考えていますか。

選択項目	回答数	%	(前回)
はい	58	67%	68%
どちらとも言えない	23	27%	30%
いいえ	5	6%	2%



審判員のアンケート集計結果①

審判員アンケート結果とりまとめ【選択肢編】

構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

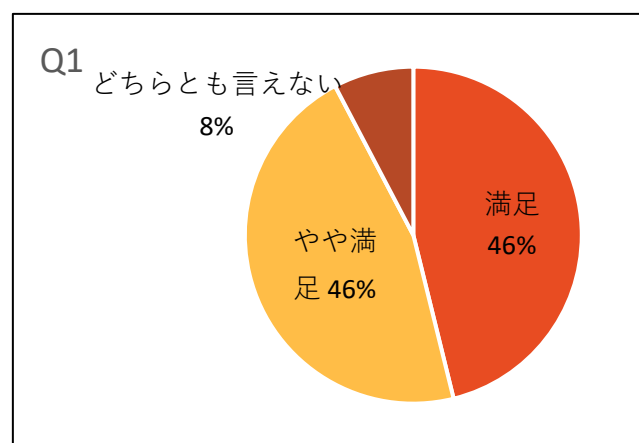
	人数	回答数	回答率
審判員*	22	13	59%

*審判 22 名（全 26 名から実行委員 3 名、局 1 名除く）

【出場校募集～大会前日までに係るご質問】

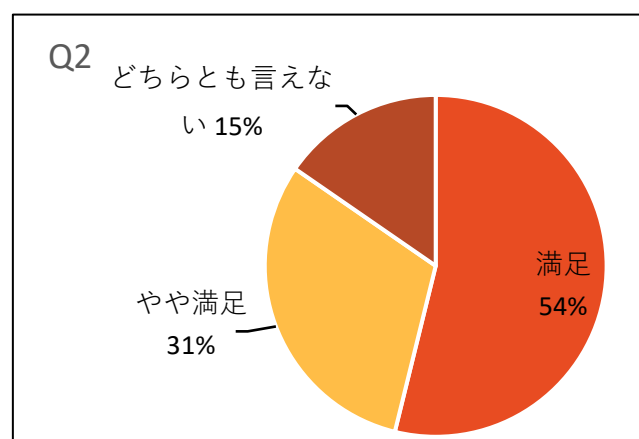
1. 大会趣意（省エネルギーと豊かな生活を両立するライフスタイルの普及を実現する政策）は、ディベートテーマとしていかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	6	46%
やや満足	6	46%
どちらとも言えない	1	8%
やや不満	0	0%
不満	0	0%



2. 政策提案型パブリック・ディベートのルールの内容はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	7	54%
やや満足	4	31%
どちらとも言えない	2	15%
やや不満	0	0%
不満	0	0%

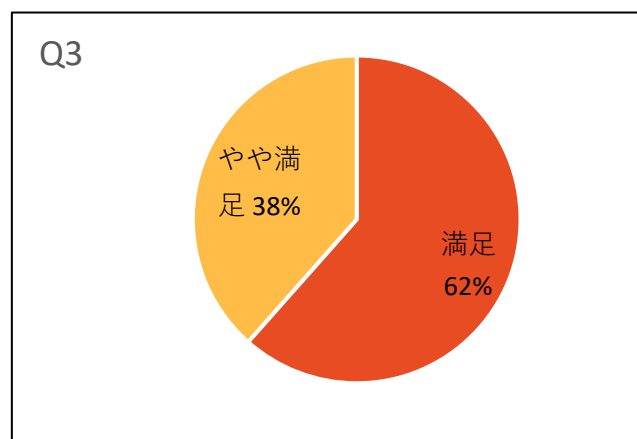


審判員のアンケート集計結果②

【出場校募集～大会前日までに係るご質問】

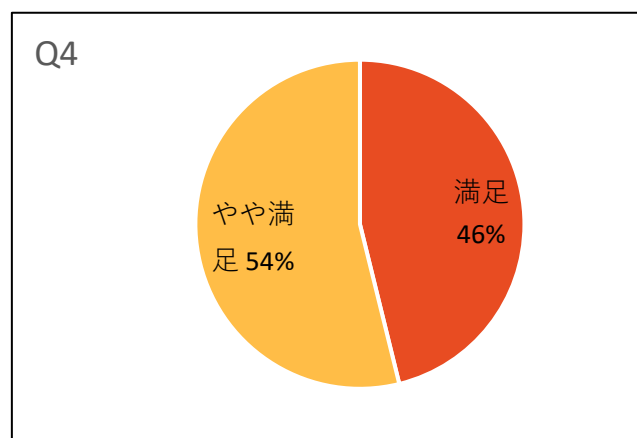
3. 政策提案型パブリック・ディベートのガイドラインの内容はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	8	62%
やや満足	5	38%
どちらとも言えない	0	0%
やや不満	0	0%
不満	0	0%



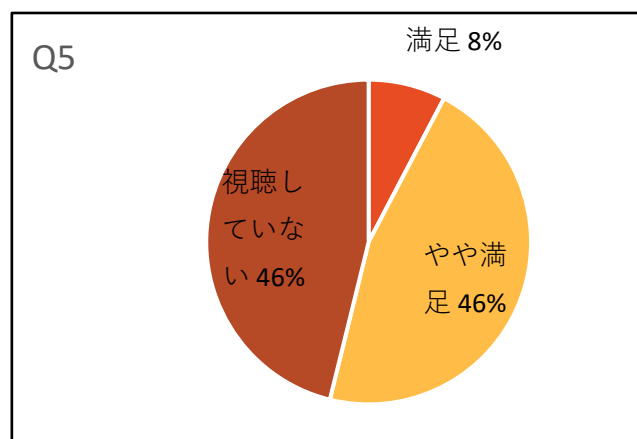
4. 政策提案型パブリック・ディベートのワークシートの内容はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	6	46%
やや満足	7	54%
どちらとも言えない	0	0%
やや不満	0	0%
不満	0	0%



5. 模擬試合（12月13日開催）に参加または視聴してはいかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	1	8%
やや満足	6	46%
どちらとも言えない	0	0%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
視聴していない	6	46%

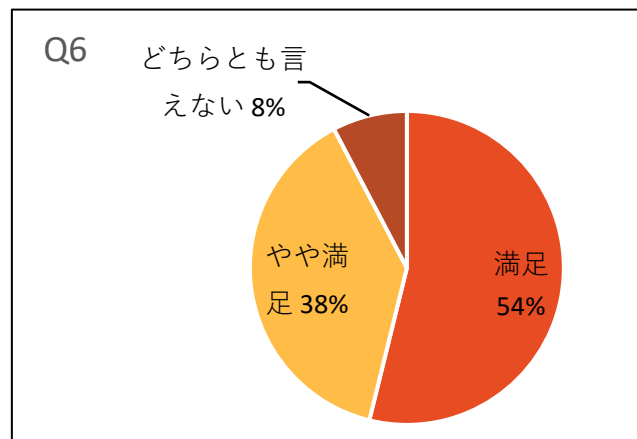


審判員のアンケート集計結果③

【大会当日に係るご質問】

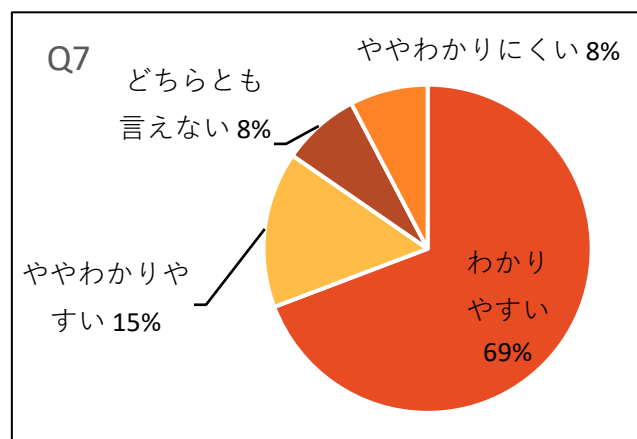
6. 大会のスケジュール（プログラム内容や時間配分等）はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	7	54%
やや満足	5	38%
どちらとも言えない	1	8%
やや不満	0	0%



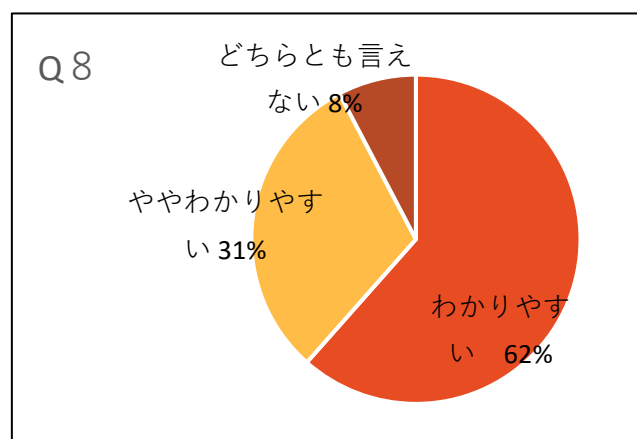
7. 大会のシステム（オンライン接続のオペレーション等）はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%
わかりやすい	9	69%
ややわかりやすい	2	15%
どちらとも言えない	1	8%
ややわかりにくい	1	8%
わかりにくい	0	0%



8. 各チームのスピーチは、聞き手を意識したわかりやすいものでしたか。

選択項目	回答数	%
わかりやすい	8	62%
ややわかりやすい	4	31%
どちらとも言えない	1	8%
ややわかりにくい	0	0%
わかりにくい	0	0%

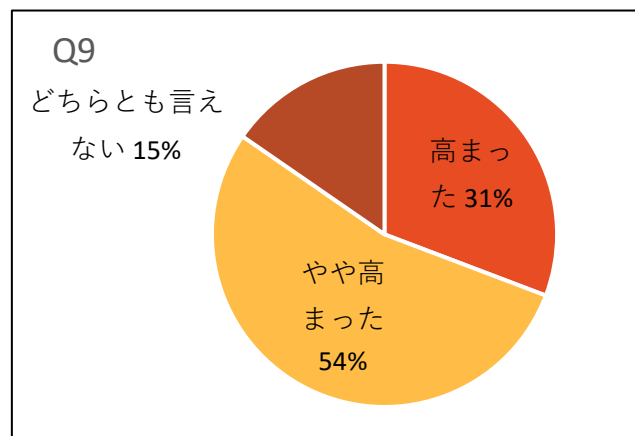


審判員のアンケート集計結果④

【次回の大会に向けたご質問】

9. 本大会を通してエネルギーや省エネへの関心は高まりましたか。

選択項目	回答数	%
高まった	4	31%
やや高まった	7	54%
どちらとも言えない	2	15%
高まらなかった	0	0%



事前登録者のアンケート集計結果

事前登録者アンケート結果とりまとめ

	人数	回答数	回答率
事前登録者	3	1	33%

質問と回答

質問	回答者の選択
1.パブリック・ディベートの試合はいかがでしたか？	満足
2.各チームのスピーチは、聞き手を意識したわかりやすいものでしたか。	わかりやすい
3.「エネルギーの専門家との省エネワークショップ」はいかがでしたか。	満足
4.本大会を通してエネルギーや省エネへの関心は高まりましたか。	高まった
5.次回も本大会を観戦したいですか。	はい

報道

東北「省エネ討論コンテスト」

山田中、聖ウルスラ高V

経済産業省東北経済産業局は15日までに、東北の中高生を対象とした「省エネ政策提案型パブリック・デベートコンテスト」を開

催した。新型コロナウイルス感染症予防のため、オンライン形式で実施。中学生の部は青森山田中学校Aチーム、高校生の部は八戸聖ウ

ルスラ学院高校が優勝した。

今回は「ウィズコロナのための『新しい生活様式』を実践し、命と健康を守りながら持続可能な社会を目指すためには、どのような省エネルギー政策が効果的か」をテーマに討論した。中学生の部は7校8チーム

が出場。青森山田中Aチームは「ウィズコロナで選ぶホントにカッコいいエシカルファッション政策」を提案した。高校生の部は8校8チームが出場し、八戸聖ウルスラ学院高が「みんなで『かえる』クリーンハウス政策」と題して討論した。
(市川香葉子)

令和3年1月14日 福島民報 14面
取材記事が掲載されました。

東奥日報 令和3年1月16日 23面掲載

コロナ禍 省エネ政策提案 ふたば未来中 準優勝



省エネ対策を発表するふたば未来学園中の生徒

東北地方の中学、高校生を対象にした第2回省エネ政策提案型パブリック・デバートコンテストは10日、オンラインで開かれ、竹木容器を使った省エネ対策を提案した、ふたば未来学園中（広野町）が中学の

部で準優勝に輝いた。

コンテストは東北経済産業局と実行委員会の主催。

新型コロナウイルスに対応する「新しい生活様式」を

実践しながらできる省エネ

対策をテーマに開かれた。

東北各地の中学校7校と高

校8校が参加し、県内からはふたば未来学園中と福島西高、平土高の生徒が発表した。

ふたば未来学園中は、竹木容器の導入による容器包装プラスチックの削減と森林資源の有効活用方法について発表。コロナ禍で利用が増えたデスクアウトやデリバリーで使用する容器包装プラスチックを、竹木で作った容器に変えることで、省エネや林業活性化につなげることを提案した。

福島民友 令和3年1月17日 4面掲載

つたえる地域 つながる地域

省エネ政策提案 ディベートコン東北大会



賞状と盾を手にして笑顔の出場生徒

賞状と盾を手にして笑顔の出場生徒

コンテスト当日は3試合を戦ったが、同校はチームをアドバンスし、毎試合で充実した討論を展開した。英語科2年の松原由美さん（17）は「試合を重ねるたびにみんなの成長が感じられ、楽しかった」と笑顔。今回の経験から「相手に伝わるような意見の発表ができるようになった」と話していた。

「全員が協力して戦えた」

同部門は東北6県から8チームが出場した。トーナメント形式のコンテストは、ウイというテーマで、出場校が提案した省エネ政策と、省エネ時代に命と健康を失い、勝敗は、政策の

ハル 八戸聖ウルスラ学院高（里村智彦）部で優勝した。初参加での栄冠に、普通科SACコース2年の木崎奈さん（17）は「全員が協力して戦えた結果と喜んだ。」（金澤千優希）

ウルスラ 高校生の部V

デーリー東北 令和3年2月3日 14面掲載

**第2回省エネ政策提案型
パブリック・ディベートコンテスト
資料集**

政策提案型パブリック・ディベート・ルール①

2015年12月8日・日本パブリック・ディベート協会制定
2017年11月7日 省エネ政策提案型ディベート・コンテスト実行委員会制定
2018年11月28日 パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定
2019年7月21日 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定
2020年8月22日 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定

政策提案型パブリック・ディベート・ルール

1 目的

政策提案型パブリック・ディベートとは、一般市民にも聴き取りやすく、理解が容易なスピーチを展開し、社会の問題を解決するための政策について討論するゲームである。

伝統的なディベートのスタイルから自由になって、このようなディベートを行うことによって、市民として資源・エネルギー・環境問題等の社会問題について考察を深め、関心を広げる場とすることを目的とする。

2 参加者と運営

- (1) チームで対戦することとし、1チームはディベーター2～10名で構成し、各ディベーターは1つの大会の予選試合において1試合は出場しなければならない。1つの試合において出場するメンバーは、スピーチ（質疑応答も含め）を最低1回は行うものとする。
- (2) 試合は司会者が進行し、計時係が計時する。試合は複数の審判が評価と判定を行い、審判の代表者は、試合終了後に講評を述べる。

3 政策提案と討論

(1) 社会的問題と政策提案

資源・エネルギー・環境問題等の社会的問題を取り上げ、議論する。そこでは、各チームは政策を求める問いに応じて、日本政府や地方自治体等が採用すべき公共のための政策を提案し、互いに政策の質を高め合うように議論する。

(2) 討論の形式と時間

ディベートは、以下の形式及び時間によって展開する。

- | | | |
|-------|--------------------------|-----|
| ステージ1 | 先攻チームによる政策提案 | 4分間 |
| | 後攻チームのための準備時間 | 2分間 |
| ステージ2 | 先攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換 | 5分間 |
| ステージ3 | 後攻チームによる政策提案 | 4分間 |
| | 先攻チームのための準備時間 | 2分間 |
| ステージ4 | 後攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換 | 5分間 |
| | 準備時間 | 5分間 |
| ステージ5 | 後攻チームによる論点明示と政策の再提案 | 4分間 |
| ステージ6 | 先攻チームによる論点明示と政策の再提案 | 4分間 |

4 勝敗の判定と順位の決定

- (1) ディベート経験者だけでなく、未経験者も審判として参加し、評価及び勝敗の判定を行う。
- (2) 評価は、第1に試合全体を評価する試合評価、第2に試合の質を高めるための貢献度の評価ともなるチーム評価を行う。また、2つの評価による評点を合計して、その試合におけるチームの成績得点とし、その点数が高いチームの勝利とする。
- ① 試合評価は、両チームによる討論の全体を対象に、5段階で評価を行う。平均的な場合を評点3とし、優れている場合は評点4、非常に優れている場合を評点5とする。一方、劣っている場合は評点2、評点1へと減じていく。この評点を決定する観点は、以下の3つである。
- ア 全体的にスピーチは聞き取りやすく、相手と対立しながらも協調して考察を深めようとする
 - イ 両チームの議論は重要な論点に集中し、内容に広がりや深まりが認められること
 - ウ 両チームの議論はいずれも、具体的な根拠に支えられた結論を主張していること
- 試合評価の評点は、複数の審判が協議して決定する。
- ② チーム評価では、以下の3つの観点によって、政策提案を比較する。審判は、優位だと思えるチームに投票する。複数(奇数)の審判が投票し、1票を評点1として、その合計点数を当該チームの評点とする。
- ア 政策提案では、社会の現状を分析して解決すべき問題を取り出し、理念や価値観(理想的な社会像)を明確にした上で、問題解決に資する実行可能な政策を具体的に提案していること
 - イ 積極的に質疑と意見交換を行い、重要な論点を指摘していること
 - ウ 論点の重要性に応じて自らの政策に改善を加えて再提案し、その政策が相手チームの政策よりも重要であることを述べていること。

(3) 順位の決定

- ① 中学の部、高校の部に分かれて、対戦する。
- ② 決勝進出チームの選抜などのために順位を決定する場合は、第1に成績得点の合計数、第2に勝利数を基準とする。それでも同順位のチームがある場合は、抽選による。
- ③ 決勝戦を行う場合は、会場の観戦者の投票数により、優勝・準優勝を決める。同数の場合は、予選の成績を基準とする。それでも同じ成績である場合は、抽選による。

5 反則

本ルールに反する行為は反則とし、その程度に応じて該当チームにペナルティーを課す。

政策提案型パブリック・ディベート・ガイドライン①

2015年12月8日・日本パブリック・ディベート協会制定
2017年11月7日 省エネ政策提案型ディベート・コンテスト実行委員会制定
2018年11月28日 パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定
2019年7月21日 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定
2020年8月22日 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定

政策提案型パブリック・ディベート・ガイドライン

1 目的について

これまでのディベートは、論証を重視するため、根拠を専門的文献から引用し、スピーチの量が多くなりがちであった。結果として時間内にスピーチをおさめるために早口にならざるをえない面があった。こうしたディベートは、ディベートの知識や経験のない者にとっては、聴き取ることや理解することが難しいものであった。

そこで、一般市民にも聴き取りも、理解も容易なディベートに転換したい。専門家を真似るのではなく、市民として必要な議論を行うようにしたい。専門的文献からの引用ばかりでなく、具体的な根拠（先進事例や体験事例等）を重視する。そうすることで詳細に記録しなくても、記憶に残るスピーチになると考えられる。

専門家であっても、社会を形成する一員としての市民の立場から、理想的な社会像を描くとともに現実の状況を考慮して日本政府や地方自治体等が採用すべき新たな公共のための政策を考え、議論すべきである。そうすることが、民主的な社会における市民的な実践の1つとなるからである。したがって、わたしたちも可能な範囲で具体的に政策を提案し、多様な可能性を楽しみ、未来の社会の建設に向けて積極的な議論を行うことが責務であろう。

このような市民の議論としてのパブリック・ディベート理念を共有してほしい。そうすることによって、ディベート大会を超えて、現実的な社会的議論への積極的な参加へと向かってほしい。

2 各ステージのスピーチについて

（1）政策提案について

次のような構成が考えられる。

- ① ロードマップ……何をいくつ、どのような順序で述べるかという構成を知らせること
- ② 問題の現状分析……政策を求める問いを受けて取り上げる社会的問題の現状を分析すること
- ③ 基本的な立場……提案する政策を支える理念や価値観（理想的な社会像）を明確に述べること
- ④ 主張……具体的な根拠を示して、日本政府や地方自治体等が採用すべき公共のための政策とその導入理由や効果を述べること
- ⑤ 内容の確認……政策提案を振り返り、重要な内容を強調すること

（2）質疑と意見交換について

次の①～③の順序で1つのまとまりとし、複数回の質疑と意見交換を行うことが考えられる。

- ① 質疑……相手チームの提案する政策について、その政策を必要とする具体的根拠や政策効果が確実に発生するか等について質問を行い、回答を得ること

- ② 意見……質問したチームが相手チームの回答に即して、建設的な改善意見を述べること
- ③ 応答……質問したチームが述べた改善意見に応じて、相手チームが応答すること。その際、相手チームは、試合全体の議論を高めるために、相手チームの意見を受け入れるか、部分的に受け入れるか、意見を受け入れないか、の3つのいずれかを選択し、その理由を述べること。
- ④ 内容の確認……質疑及び意見交換を振り返り、重要な内容を強調すること

(3) 論点明示と政策の再提案について

次のような構成が考えられる。

- ① 意見交換の確認……両チームの政策についての意見交換の概要を示すこと
- ② 論点明示……①において明らかになった意見の違いや対立点を論点として明確に示すこと
- ③ 政策の再提案……論点の重要性に応じて、当初の政策を改善して再び提案すること
- ④ 政策の重要度の明示……両チームの現状分析に立ち戻り、再提案した政策が相手チームの政策より重要であることの理由を示すこと。
- ⑤ 相手チーム及び審判、聴衆に対する謝辞

3 議論と論点について

政策提案、意見交換、政策再提案のスピーチはいずれも議論でなければならない。議論とは、何らかの根拠に基づいて結論を主張することである。根拠があってはじめて審判や聴衆は同意することができる。根拠には具体的事実（先進事例や体験事例等）や、専門家の見解、統計データ等がある。また、抽象的で論理的なルールや原理も根拠となりうる。

政策提案の場合は、自ら提案する政策を採用すべきことが結論であり、その正当化を明らかにする具体的事実や専門家の見解、統計データ、あるいは抽象的で論理的なルールや原理が根拠となる。意見交換の場合は、相手チームの政策には改善が必要であることを結論に、その正当化のための根拠を述べるのである。

論点とは、相互に提案した政策について意見交換を行うことによって、明らかになった意見の違いや対立の中心となる問題である。それは、その試合の議論の焦点となるべき重要な問題であり、自らが提案する政策を改善する指針となるものでもある。試合でとりあげた論点が不明確であったり、あるいはそれほど重要でなかったりした場合は、政策の改善は小さくなる。このような場合を避けるように、的確に論点を取り出すように努めてほしい。

4 評価と判定について

予選順位を決定する成績得点は、試合評価の評点とチーム評価の評点とを合計して得られる。たとえば、ある試合では試合評価は2点、勝利チームのチーム評価が3点で、成績得点は5点だった。一方、別の試合では試合評価が5点、敗戦チームのチーム評価が1点で、成績得点は6点となる。すると、試合評価が低い勝利チームは試合に勝っても、試合評価の高い敗戦チームよりも成績得点は低くなる。

したがって、試合評価は、対戦する両チームによって成立する試合の質的向上を強く求める。そもそも議論は、対戦する両チームの間に成立するのである。単一の議論であっても、対戦するチームの一方によってだけ成立するものではない。たとえば、相手チームによる政策提案があればこそ意見交換ができるし、政策の改善は相手チームの意見を含み込んで可能となるのである。そのため、両チームが互いに力を引き出し、望ましい議論を展開するように、試合の質を高めるべきである。

何よりも、社会の問題を解決する政策には正解などはないことを強く自覚してほしい。どのような政策であっても、程度の違いはあるが、問題解決の効果と新たな別の問題を生むからである。すなわち、一定水準以上の複数の政策を比べるとき、いずれか1つの政策が正しいなどとは断定できない。そのため、問題解決の困難と曖昧な状況に耐えながら、議論を継続することが求められるのである。

これまで述べてきたことからすれば、各チームは2つの戦略を持って試合に臨むことを期待する。第1に試合の質を高める戦略、第2に勝利を得るための戦略である。

5 表現と態度について

(1) 声の大きさや速さについて

ディベート未経験者にも好感を与えるように、聞き手（相手チーム、審判、聴衆）を強く意識しなければならない。適切な声の大きさや発音を配慮し、聞き手に向かって、目や表情でも語りかけるようにしてほしい。また、スピーチのスピードは、1分間に300～400字程度とすることが望ましい。ゆっくり話せるには、内容を絞り込み、構造の明確なスピーチを準備するのが前提である。

(2) 政策提案の際の掲示物について

政策提案をする時に、模造紙1枚までの大きさを用いて、イラストや図を審判や聴衆に示して説明することができる。

(3) ナンバリングとラベリングについて

内容をよりよく伝えるために、ナンバリング、ラベリングを行うようにする。前者は、スピーチの内容をいくつかに分け、その順序や数量を伝えることである。また、後者はいくつかに分けたスピーチの内容に、それぞれ見出しの言葉を付すことである。いくつかの内容があり、何番目の何についてスピーチをしているのかを明らかにし、審判や聴衆に内容を正確に受け止めてもらえるようにしたい。

(4) 質問と意見の対応関係の明示と引用について

質疑と意見交換を行う場合は、相手チームの政策のどの部分に対する質問、意見であるのかを聞き手に知らせて述べなければならない。また、相手チームの発言を部分的に引用して、質問、意見を述べるべきである。すなわち、それらの対応関係が明確であれば、質問及び意見の内容を正確に聴き取り、理解することを相手チームと審判、及び聴衆に対して期待できるのである。

また、互いの政策をすぐれたものに改善することが求められる。そのため、一方的に質問し、意見を述べるのではなく、相手チームにも十分な応答の機会を与えなければならない。

(5) マナーについて

審判はもちろんのこと、相手チーム及び聴衆を尊重し、マナーよく接するように心がけてほしい。なぜなら、ディベートは自分一人では、あるいは自分たちのチームだけでは、できないことだからである。審判、相手チーム、聴衆等の他者を欠いては、ディベート等は成り立たないのである。

(6) 対立と協調について

そもそも、「勝利至上主義」には意味がない。たとえば、伝統的なディベートには、早口で多数の

政策提案型パブリック・ディベート・ガイドライン④

議論を述べて相手チームが時間内に反論できないようにし、勝利を得ようとする戦術が認められる場合がある。相手チームからの反論がないという事実を根拠に、自らの議論を正当化するのである。そこでは、自らの議論を検証する機会を失い、それは粗雑なものにとどまる。

一方、政策提案型パブリック・ディベートでは、相互に提案する政策をすぐれたものにするため、建設的な意見交換を行うことになっている。そのため、相手チームには十分な検証の機会を与えるべきである。相手チームによる厳しい検証に耐えてこそ、誰もが認め得る議論へと成長していく。だから、数少ない重要な議論をわかりやすく述べて、相手チームにとって検証が容易になるようにしたい。

また、相手チームの議論が不十分であれば、その不足を補うように、支援する意見を述べるようにしたい。なぜなら、互いの政策提案を高めることを目的とし、この目的の達成によりよく貢献することが望ましいからである。相手チームの立場を十分に尊重し、相手チームにとっても有益な意見交換を展開するべきである。

政策提案型パブリック・ディベート・ワークシート

1 政策提案

ロードマップ	(先攻チーム・後攻チーム)として、政策提案を行います。よろしくお願いします。 第1に、政策を求める問いを受けて取り上げる社会的問題の現状分析を述べます。 第2に、その問題を解決するための政策を支える理念や価値観(理想的な社会像)を述べます。 第3に、政策とその理由を具体的に主張します。 第4に、その政策を実行することで生まれる効果について述べます。
問題の現状分析	第1に、政策を求める問いを受けて取り上げる社会的問題の現状分析を述べます。
基本的な立場	第2に、その問題を解決する政策を支える理念や価値観(理想的な社会像)を述べます。
政策	第3に、具体的に政策を主張します。その政策を名付けていうならば、()です。繰り返しますが、政策は()です。では、その内容と理由を具体的に説明します。
政策の効果	第4に、その政策を実行することで生まれる効果について述べます。
おわりの言葉	以上、問題の現状分析、基本的な立場、政策の具体と効果について述べました。これらの内容について、ご質問、ご意見をお願いします。

*実際のスピーチでは、審判と聴衆により伝わるように、このワークシートのフォーマットをアレンジしてください。たとえば、第1と第2を一緒に述べたり、議論する順番を変えたりできます。(以下同じ)

政策提案型パブリック・ディベート・ワークシート②

2 相手チームの政策提案についての質疑と意見交換

ロードマップ	(先攻チーム・後攻チーム)として、相手チーム(先攻チーム・後攻チーム)による政策提案に対して質疑と意見交換を行います。よろしくお願いします。 第1に、政策を必要とする社会的問題の現状分析について質問し、意見を交換します。 第2に、政策提案を行う基本的な立場について質問し、意見を交換します。 第3に、政策の内容について、質問し、意見を交換します。 第4に、政策の効果について、質問し、意見を交換します。
問題の現状分析についての質疑と意見交換	第1に、政策提案を必要とする社会的問題の現状分析について質問し、意見を交換します。先ほどの政策提案においては、 のように述べていますね。 このことについて、質問しますので、お答え下さい。 (応答を得た後)では、意見を述べます。 わたしたちの意見に対する応答をお願いします。どうぞ述べて下さい。 (応答を得て意見交換の後)
基本的な立場についての質疑と意見交換	第2に、政策提案を行う基本的な立場について質問し、意見を交換します。先ほどの政策提案においては のように述べていますね。 このことについて、質問しますので、お答え下さい。 (応答を得た後)では、意見を述べます。 わたしたちの意見に対する応答をお願いします。どうぞ述べて下さい。 (応答を得て意見交換の後)

政策提案型パブリック・ディベート・ワークシート③

政策についての 質疑と意見 交換	第3に、提案された政策の内容について質問し、意見を交換します。 先ほどの政策提案においては、 のように述べられていますね。 このことについて、質問しますので、お答え下さい。 (応答を得た後) では、意見を述べます。
政策の効果	わたしたちの意見に対する応答をお願いします。どうぞ述べて下さい。 (応答を得て意見交換の後) 第4に、提案された政策の効果について質問し、意見を交換します。 先ほどの政策提案においては、 のように述べられていますね。 このことについて、質問しますので、お答え下さい。 (応答を得た後) では、意見を述べます。
おわりの言葉	わたしたちの意見に対する応答をお願いします。どうぞ述べて下さい。 (応答を得て意見交換の後) 以上、問題の現状分析、基本的な立場、政策の内容、政策の効果について質疑と意見交換を行いました。これらの内容について、確認します。 以上で、政策提案に対する質疑と意見交換を終わります。

*質疑と意見交換は、現状分析、基本的立場、政策と効果の全てに必ず行う必要はない。どの項目に対して、いくつの質疑と意見交換を行うかは、内容に応じて判断する。

政策提案型パブリック・ディベート・ワークシート④

3 論点明示と政策の再提案

ロードマップ	(先攻チーム・後攻チーム)として、相手チーム(先攻チーム・後攻チーム)との質疑と意見交換を生かして、重要な論点の明示と政策の再提案を行います。よろしくお願いします。 第1に、先ほどの政策提案についての質疑と意見交換について振り返ります。 第2に、それに基づいて、重要な論点を明らかにします。 第3に、述べた重要な論点に応じて、当初提案した政策を見直し、再提案します。 第4に、再提案した政策が相手チームの政策より重要であることの理由を述べます。
質疑と意見交換の振り返り	第1に、質疑と意見交換について振り返ります。先ほどの政策提案についての質疑と意見交換は、次のような内容でした。特に、対立や異論に注目して述べます。
論点の明示	第2に、重要な論点について明らかにします。政策提案についての質疑と意見交換における内容からすれば、次のような対立や異論を克服することが論点になっています。
政策の再提案	第3に、重要な論点に応じて、当初提案した政策を見直し、再提案します。
政策の重要度の明示	第4に、両チームの現状分析にもどり、再提案した政策が相手チームの政策より重要であることの理由を述べます。
おわりの言葉	最後に、対戦相手のチームのみなさん、審判、聴衆の方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

よくあるご質問への回答①

《20201127版》

◎よくあるご質問への回答(政策提案型パブリック・ディベートコンテスト)

番号	質問	回答
1	中学生・高校生の混合チームで出場することは可能ですか。	可能です。ただし、その場合出場できるのは高校の部ののみとなります。
2	8人チームで出場し、第1試合で4人、第2試合で残りの4人がスピーチをしようと考えていますが、第1試合(又は第2試合)でスピーチをしない選手も、準備時間中の話合いに参加させたいため、第1試合(又は第2試合)の選手席に座ることは可能ですか。	可能です。 大会前日正午までに「出場及び登録メンバー届」 試合の始まる前に出場者リスト(選手席に座るメンバーとそのうち各ステージのスピーチ担当者等を記載した名簿)を メール で提出してもらうので、そのリストに記載がある者は選手席に座ることが可能です。 なお、ルール2(1)に記載のとおり、 参加選手名簿に記載されている者は 、予選試合において、最低1回はスピーチ(質疑応答含む)を行わなければなりません。 2020年11月27日変更
3	対戦チームが似た内容の政策提案をした場合でも試合は成立しますか。	政策提案型パブリック・ディベートは、ルール4(2)②チーム評価の観点に記載のとおり、「ア政策提案」の他に「イ質疑・意見交換」や「ウ再提案する政策の重要度」もチーム評価の対象としています。よって政策提案以外のステージにおける討論によって評価に差が出ることから、似た内容の政策提案だとしても、試合は成立します。 また相手との細かな違いを見つけ出し、質疑・意見を交わすことで、より質の高い討論になると考えています。
4	試合毎に政策の提案内容を変えることは可能ですか。	可能です。もちろん全試合同じ提案内容でも構いません。
5	ガイドライン5(2)で政策提案時の掲示物は、「模造紙1枚まで」の大きさがありますが、どのくらいのサイズになるのでしょうか。	「模造紙1枚まで」とは「一人で持てるサイズの模造紙1枚まで」になります。 第2回大会はオンライン開催のため「A4版～A3版くらいの紙1枚」をカメラの前にかざしてください。 2020年11月27日変更
6	スピーチの際に、パワーポイント(PC)でを活用することは可能でしょうか。	パワーポイント(PC)の活用は認められません。ただし、パワーポイントのスライドを紙に印刷して掲示物 (A4版～A3版くらいの紙＝一人で持てるサイズの模造紙1枚) としてスピーチの際に活用することは可能です。 2020年11月27日変更
7	スピーチの際に、持ち込んではいけないものがありますか。	携帯電話(スマートフォン含む)・スマートウォッチ・パソコン等の通信機能があるものは、持ち込んではいけません。 オンライン開催に必要なパソコンは使用してください。それ以外の携帯電話(スマートフォン含む)・スマートウォッチ等は試合に持ち込んではいけません。 2020年11月27日変更

よくあるご質問への回答②

番号	質問	回答
8	政策提案型パブリック・ディベート・ワークシートについては事前提出が必要ですか？	事前提出は不要です。各学校の事前準備の際に御活用下さい。
9	1つの学校から2チームのエントリーも可能ですか。	2チームのエントリーも可能です。
10	大会申込み後に参加できなくなったり、新たに参加を希望する生徒がいた場合、出場選手のエントリー変更は可能ですか。	出場選手のエントリー変更は可能です。 出場選手に変更がある場合は、大会前日正午までに「変更後の参加選手名簿」を事務局あてメールで提出してください。なお、再度変更が必要な場合は、事務局に電話をしてから、大会当日の午前9時までにメールで提出してください。出場選手の最終確認は、大会当日の受付で行いますので、出場選手に変更(追加や欠席等)があった場合には受付の際にお知らせ下さい。 2020年11月27日変更
11	選手がスピーチをしている時に、そのステージを担当する選手以外の方が、スピーチをしている選手に対し、口頭でアドバイスを送っても良いでしょうか。	そのステージを担当する選手以外の方が、選手がスピーチをしているときに、口頭でアドバイスを送ることはできません。各ステージは、それを担当する生徒1～2名に任せられます。ただし、アドバイスの内容を紙に書いて選手に渡すことについては、禁止されてはいません。しかし、スピーチしている最中にアドバイスの紙を見ると、選手が、かえってスピーチに混乱する場合もあることに留意してください。
12	政策の提案や再提案をするときに、ワークシートの通りに話さなくてははいけませんか？ ルール の 時間内におさまりきりません。	ワークシートは、ルールやガイドラインにそった政策の提案や再提案のスピーチを考えるときに、参考になる資料として作成したものです。参考にさせていただきたいものであって、このワークシートの通りに話さなくてはならないということではありません。ワークシートを参考に、審判や聴衆に伝わるような構成を工夫してください。
13	出場校募集要項に「状況によっては、オンライン開催への変更も検討します」と記載されていますが、どちらで開催されるのでしょうか？	募集開始後の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、オンライン開催への変更に向けて検討しています。 正式に決定した場合は東北経済産業局HPでお知らせいたします。 オンライン開催に変更して開催します。 2020年10月30日変更

出場校募集要項・大会趣意①

令和2年度

第2回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）

出場校募集要項

中学生・高校生を対象とする標記コンテストを下記のとおり開催します。このコンテストは、2チームのディベーターが、互いの政策提案を磨き合うことを通して、省エネを促進させたこれからの社会の在り方を審判や聴衆とともに考えるものです。ついては、出場校を募集しますので、御案内を申し上げます。多数の御参加をお待ちしております。

記

テーマ 大会趣意に明示（裏面参照）

主催 東北経済産業局 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会

協力 全国教室ディベート連盟東北支部 一般財団法人省エネルギーセンター東北支部

後援（予定） 青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・仙台市 各教育委員会

日時 令和3（2021）年1月10日（日）10:00～16:30 （※9:30 受付開始）

会場 東北大学川内北キャンパス マルチメディアホール、C棟（仙台市青葉区川内41）

日程 10:00 開会（挨拶・試合組合抽選・諸注意）

10:45 予選第1試合（試合は政策提案型パブリック・ディベート・ルールによる）

11:50 昼食・準備

12:45 予選第2試合

14:00 予選成績発表

14:20 決勝戦（中学生の部、高校生の部）

15:15 エネルギーの専門家との省エネトークセッション

16:00 決勝戦結果発表・表彰式

16:30 閉会（挨拶）

出場校 東北6県の中学校と高等学校、各8チームを上限とします。

（申し込み多数の場合、先着順を基本に、地域バランスを考慮して出場校を決定します。）

交通費補助 1校あたり3万円（上限）又は実費相当分（消費税込）のいずれか低い金額を補助します。

新型コロナウイルスへの対応

生徒の皆さん・引率者・観戦者・スタッフを含む全ての関係者の安全確保を最優先に、国や利用施設のガイドラインに沿った感染予防対策を実施いたします。

状況によっては、オンライン開催への変更も検討します。

申し込みについて

引率教師と生徒2～10名でチームを編成し、参加申込書（※）に必要事項を記入の上、下記申込先にEメール又はFAXで10月21日（水）までにお申し込み下さい。なお、メールでお申し込みの場合には、件名を「省エネディベート参加申し込み」と必ず記して下さい。

【申込先】

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）事務局 担当：和田

E-mail：wada@p2company.co.jp 電話：03-3473-7871 FAX：03-3473-7870

※参加申込書や第1回大会の高校決勝戦映像など、コンテストの情報は、東北経済産業局HPで、お知らせしていきます。https://www.tohoku.meti.go.jp/s_shigen_ene/public_debate.html

大会趣意

with コロナで省エネルギー提案！！

～持続可能な社会を目指すための省エネ政策～

2020 年春、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため学校が休校となつてからのステイホーム、そして緊急事態宣言。今まで当たり前だと思っていたことが当たり前でない時代になりました。

日本は、1970 年代の石油危機以降、省エネルギーを推進し、1973 年から 2018 年までに GDP は 2.6 倍に伸ばしましたが、エネルギー消費は 1.2 倍の増加に留めています。また、東日本大震災が発生した 2011 年以降は節電意識の高まりなどで全体のエネルギー消費の減少が更に進みました。

一方、家庭部門においては、快適・利便性を求めるライフスタイルの変化等により、1973 年から 2018 年までにエネルギー消費は 1.9 倍に増加しており、省エネルギーの推進が喫緊の課題となっています。2015 年 7 月に策定された「長期エネルギー需給見通し(エネルギーミックス)」では、徹底した省エネルギー対策により、2030 年度までに、2013 年度の最終エネルギー消費(原油換算 3.6 億 kl)から原油換算 5,030 万 kl 程度(13%程度)ものエネルギーを削減することとしています。

2030 年度に向けて省エネしていこう、そんなときに起きたのが、今回の新型コロナウイルス感染症の世界的大流行でした。日本では、4 月から 5 月まで緊急事態宣言が発令され、外出や営業の自粛の要請なども行われました。交通量が激減し、工場の稼働が停止・縮小されました。その結果、大気汚染などは一時的に劇的に改善された地域もあります。

しかし、このように強制的に我慢してエネルギー消費を少なくすることは、「省エネルギー」ではありません。省エネルギーとは、「エネルギーを効率よく使うこと」なのです。

このステイホームの期間に、新しい生活様式が提案され、企業の在宅勤務が進んだり、持ち帰り食品用のプラスチック容器の利用が増えたりしました。日本全体のエネルギー消費は減少したものの家庭部門は増加した、という調査結果などを耳にしたこともあるのではないのでしょうか。3 月から 5 月の都市ガス消費をみると、日本全体では前年同期比 7.3%減少しましたが、家庭部門では前年同期比 4.6%増加しました。ステイホームした皆さんも電気やガスなどのエネルギーをいつもより多く使っていたのかもしれない。

with コロナの時代、限りある資源を効率よく使い、省エネルギーを進めることで、持続可能な社会の実現に一步近づくことができるのです。

政策を求める問い

そこで、今回は、with コロナのための「新しい生活様式」を実践し、命と健康を守りながら持続可能な社会を目指すためには、どのような省エネ政策が効果的か、と問います。ステイホームしたときの自分自身の行動や社会の状況を振り返り、第一に、新しい生活様式を実践しながら持続可能な社会の実現につながる、省エネな「ありたいライフスタイル」を自由に想像・提案し、第二に、その「ライフスタイル」の普及を応援するために日本政府や地方自治体等が採用すべき「ユニークな政策」を提案してください。

みなさん、with コロナの社会の今後を、根拠をもって見通しつつ、新しい生活様式に対応した省エネを一層促進するために効果的な政策について、ディベートで検討しましょう。

参加申込書①

第2回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）参加申込書

_____年 ____月 ____日

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）事務局 宛て

以下の通り、省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（中学生の部・高校生の部）に参加を申し込みます。

1. 学校情報

名称（正式なもの）		中学校 高等学校
立		
所在地（〒 _____ ）		
電話番号 _____ - _____	Fax _____ - _____	
過去の参加 ☐ あり ☐ なし		

2. 選手 ※裏面（参加選手名簿）に記載すること

3. 引率者

氏名（フリガナ）		担当教科
緊急連絡先電話番号 _____ - _____	電子メール _____ @ _____	
引率者が教員ではない ☐	→	チームとの関係 保護者 ・ OB/OG ・ その他（ _____ ）

↓ 引率者が教員でない場合のみ記入・押印

上記の引率者を承認し、学校代表であることを証明します。

学校名
代表者氏名

印

参加申込書②

参加選手名簿

1	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
2	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
3	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
4	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
5	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
6	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
7	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
8	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
9	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
10	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女

4. 個人情報と肖像権の取り扱いについて

本大会の申込書を通じて取得した選手名は大会会場で読み上げられるほか、本大会の実施報告書に掲載される可能性があります。また、主催者や、主催者が認めた報道機関などの団体により、大会会場内の動画または写真が中継、録画、インターネットによる動画配信、新聞記事、そのほかの媒体で紹介されることがあります。詳細については、別添資料「省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）における個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて」をご参照ください。

※同意いただける場合は、以下チェックボックスにチェックの上お申し込みください。同意いただけない場合は、別途ご相談ください。

☐ 別添資料「省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）における個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて」に同意します。

個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）に参加される
先生、生徒および保護者の皆様へ

令和2年8月22日

東北経済産業局

東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会

第2回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）における個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて

この度は、本大会にご参加をいただきまして、まことにありがとうございます。

第2回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）への参加、ならびに参加申込書等を通じて取得する個人情報（氏名、学校名、学年、性別、担当教科、引率者の連絡先）および肖像権に関し、以下の通り対処させていただきます。ご理解とご協力のほど、お願い申し上げます。

1. 参加申込書に記載された個人情報の取り扱い

- (1) 大会運営のために必要な連絡先管理、表彰状作成のデータ処理に利用します
- (2) 大会プログラム冊子に掲載されます
- (3) 会場内でのアナウンス等により紹介されることがあります
- (4) 表彰対象者は競技会場内でのプロジェクター告知、掲示板・印刷物等に掲載されます
- (5) 大会関連の Web サイト（ホームページ、Facebook 等）に掲載されることがあります

2. 競技結果（記録）等の取り扱い

- (1) 主催者が設置する大会本部を通じて公開されます
- (2) 主催者に認められた報道機関等により、新聞・雑誌および関連 Web サイトなどで公開されることがあります

3. 競技風景の撮影・録画等の取り扱い

- (1) 主催者に認められた報道機関などの各団体により、競技風景の映像や写真が、中継・録画放映・インターネット配信、その他の媒体などで紹介されることがあります
- (2) 主催者によって大会終了後に映像資料として編集し、DVD などで関係者に配布されることや Web サイト（ホームページ、Facebook 等）に掲載されることがあります
- (3) 主催者に認められた大会参加選手の関係者や一般来場者が、競技の様態を撮影することがあります

4. 大会本部としての対応

- (1) 取得した個人情報は、本人の承諾なく上記利用目的以外に使用することはありません
- (2) 参加申込書の提出により、上記取扱いに関するご承諾をいただいたものとして対応させていただきます
もし、個人の映像および画像の利用をご承諾いただけない場合は、下記連絡先までご連絡ください
- (3) 会場にいられた保護者を含む一般来場の皆様につきましては、上記取扱いに関するご承諾をいただいたものとして対応させていただきますので、あらかじめご理解のほど、お願い申し上げます
- (4) 個人情報、肖像の掲載または公開に関するご質問は、下記の事務局までご連絡下さい

5. 連絡先・問い合わせ先

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事務局（担当：和田）
E-mail：wada@p2company.co.jp 電話：03-3473-7871 F A X：03-3473-7870

以上

令和 2 年 月 日

第 2 回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）
事前学習資料について

皆様のより良い政策立案のために、下記の資料をお届けします。
皆様の御健闘をお祈りいたします。最善を尽くして、準備して下さい。

主催者一同

記

I パブリック・ディベート実践資料（HP の大会ルール等の欄に掲載）

1. 政策提案型パブリック・ディベート・ルール
2. 政策提案型パブリック・ディベート・ガイドライン
3. 政策提案型パブリック・ディベート・ワークシート
4. よくあるご質問への回答《20200831版》

II 事前学習資料（HP の事前学習資料の欄に掲載）

1. エネルギー関連サイト一覧
2. 日本のエネルギー 2019 （資源エネルギー庁）
3. スマートライフおすすめ BOOK （一般財団法人家電製品協会）

III 省エネ説明会（無料講座）

省エネ説明会の講師を学校に無料で派遣します。省エネルギーに関する事前学習の一環として、御活用をお薦めします。御活用を希望の場合は、別添の「無料講師派遣申込書」に必要事項を記入の上、事務局までメール又は F A X で御連絡願います。

○講演時間：1 時間程度 （30 分以上であれば対応可能。ご相談ください）

○講演内容：家庭での省エネ実践のための基本講座

【申込先】

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）事務局 担当：和田

E-mail：wada@p2company.co.jp 電話：03-3473-7871 F A X：03-3473-7870

IV パブリック・ディベートの内容やルールに関する問い合わせ先

【パブリック・ディベートコンテスト実行委員会】

実行委員長 江間 史明（山形大学大学院教育実践研究科教授）

E-mail：ema@e.yamagata-u.ac.jp 電話・F A X：023-628-4390

エネルギー関連サイト一覧

エネルギー関連サイト一覧

【日本のエネルギー事情について学ぶ】

■令和元年度エネルギーに関する年次報告(エネルギー白書 2020)

<https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/#main>

■エネルギー基本計画

https://www.enecho.meti.go.jp/category/others/basic_plan/

■長期エネルギー需給見通しについて

https://www.enecho.meti.go.jp/category/others/basic_plan/past.html#energy_mix

■エネルギーに関する統計・各種データ(電力調査統計やガス事業生産動態統計調査など)

・トップページ: <https://www.enecho.meti.go.jp/statistics/>

・電力調査統計: https://www.enecho.meti.go.jp/statistics/electric_power/ep002/index.html

・ガス事業生産動態統計調査: <https://www.enecho.meti.go.jp/statistics/gas/ga001/>

【省エネルギーについて学ぶ】

■省エネポータルサイト(家庭向け、事業者向け、政策関連情報)

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/index.html

■資源エネルギー庁スペシャルコンテンツ「地球温暖化・省エネルギー」

<https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyo/ondankashoene/>

■省エネ法(エネルギーの使用の合理化等に関する法律)

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/enterprise/overview/

■総合資源エネルギー調査会 省エネルギー小委員会(経済産業省の審議会)

2020年8月7日の第29回省エネルギー小委員会では、「資料1-1」3. 今後の論点により

「コロナ禍を契機としたエネルギー需要への影響」(53頁)を扱っています。

https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shoene/shinene/sho_energy/index.html

【その他】

■JAPAN SDGs Action Platform

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/>

■地球温暖化対策(環境省)

<https://www.env.go.jp/seisaku/list/ondanka.html>

■新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大及びその防止に伴う家庭のエネルギー消費への影響分析 (株式会社住環境計画研究所)

第一報: <http://www.jyuri.co.jp/3206/>

第二報: <http://www.jyuri.co.jp/3283/>

Public Debate Contest

テーマ

**withコロナで
省エネルギー提案!!**

～持続可能な社会を目指すための省エネ政策～

中学生・高校生による

第2回

**省エネ政策提案型
パブリック・ディベートコンテスト**

**決勝戦
ONLINE
ライブ配信**

開催日時 2021年1月10日(日) 9:00～16:30

会場 オンライン開催

大会本部：TKPガーデンシティPREMIUM仙台西口 7C・7D
(仙台市青葉区花京院1-2-15 ソラプラザ)

配信 決勝戦ONLINEライブ配信 13:40～16:30

メール申込み info-debate@p2company.co.jp 申込締切 2021年1月8日(金) 昼12時

**事前登録
視聴無料**

出場校

中学生の部

- 青森 八戸工業大学第二高等学校附属中学校
- 青森 学校法人青森山田学園 青森山田中学高等学校Aチーム
- 青森 学校法人青森山田学園 青森山田中学高等学校Bチーム
- 岩手 学校法人龍澤学園 盛岡中央高等学校附属中学校
- 宮城 東北学院中学校
- 宮城 学校法人古川学園 古川学園中学校
- 秋田 秋田大学教育文化学部附属中学校
- 福島 福島県立ふたば未来学園中学校

高校生の部

- 青森 八戸聖ウルスラ学院高等学校
- 岩手 岩手県立盛岡第三高等学校
- 宮城 学校法人古川学園 古川学園高等学校
- 秋田 秋田県立秋田西高等学校
- 秋田 秋田県立秋田高等学校
- 山形 山形県立山形東高等学校
- 福島 福島県立福島西高等学校
- 福島 福島県立平工業高等学校

主催 : 東北経済産業局、東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会

協力 : 特定非営利活動法人全国教室ディベート連盟東北支部、一般財団法人省エネルギーセンター東北支部

後援 : 青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・仙台市 各教育委員会、
河北新報社、朝日新聞仙台支局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、
日本経済新聞社仙台支局、産経新聞社東北総局、東奥日報社、デーリー東北新聞社、
岩手日報社、秋田魁新報社、山形新聞・山形放送、福島民報社、福島民友新聞社、
日刊工業新聞社東北・北海道総局、
NHK仙台放送局、hbc東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB東日本放送

お問い合わせ

省エネ政策提案型
パブリック・ディベートコンテスト東北事務局

株式会社ピーツーカンパニー(担当:和田)

10:30～17:00 月～金(祝日を除く)

TEL:03-3473-7871

E-mail: info-debate@p2company.co.jp

※いただいた個人情報はお本人の許諾なく本コンテストの実施目的以外には使用いたしません。

令和2年度 省エネルギー促進に向けた広報事業

中学生・高校生による

21

省エネ政策提案型 パブリック・ディベートコンテスト

決勝戦
ONLINE
ライブ配信

事前登録
視聴無料

東北経済産業局では、エネルギー問題への理解促進や省エネルギーの更なる普及啓発のため、次世代を担う中学生・高校生を対象に、エネルギーをテーマにした「省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト」を開催します。

2チームのディベーターが、互いの政策提案を磨き合うことを通して、省エネを促進させたこれからの社会のあり方をともに考えるものです。

今回のテーマは、「withコロナのための「新しい生活様式」を実現し、命と健康を守りながら持続可能な社会を目指すためには、どのような省エネ政策が効果的か」です。ステイホームしたときの自分自身の行動や社会の状況を振り返り、第一に、新しい生活様式を実現しながら持続可能な社会の実現につながる、省エネを「ありたいライフスタイル」を自由に想像・構築し、第二に、その「ライフスタイル」の普及を促進するために日本政府や地方自治体等が採用すべき「ユニークな政策」を出し合って、討論を行います。

詳細はこちらから（東北経済産業局HP） https://www.tohoku-metl.go.jp/s_shigen_ene/public_debate.html
f Facebookでも情報発信中です！ <https://www.facebook.com/public.debate.tohoku/>

大会の詳しい内容は
こちらをクリック



PROGRAM (予定)

9:00 開会

10:05 第1試合

12:10 第2試合

13:40 決勝戦（中学生の部・高校生の部）
オンライン投票 ※決勝進出校の関係者はオンライン投票をご遠慮いただきます

14:50 エネルギーの専門家との省エネワークショップ

15:50 決勝戦解説・結果発表・表彰式

16:30 閉会

（決勝戦～閉会までYouTubeライブで配信）

オンライン開催

決勝戦を
観て
オンライン投票に
参加できるんだ



エネルギーの専門家との省エネワークショップ (予定)

省エネワークショップでは、全ての出場校の皆さんとエネルギーの専門家と一緒にディベートの振り返りを行います。

司会進行	講師	司会進行
 江間 史明 氏 専門は、教育学・社会科教育。 NPO法人全国学生ディベート連盟東北支部長として中学生・高校生のディベート教育に携わる。	 中野 浩 氏 エネルギー管理士（熱、電気）、企業・自治体等のエネルギー管理をサポート。平成19年度省エネコンテスト最優秀賞（省エネ家電普及促進プログラム）、平成22年度エネルギー近未来（東北経済産業局主催）受賞。	 千葉 智恵 氏 地域の省エネエキスパート 地球温暖化防止コミュニケーション 実践型地球温暖化防止推進員 宮城県環境教育リーダー
		 奥村 浩信 氏 東北経済産業局 省エネエネルギー推進部長

■トップページ



経済産業省
東北経済産業局

省エネ政策提案型 パブリック ディベートコンテスト

*PUBLIC DEBATE
CONTEST*



経済産業省
東北経済産業局

**省エネ政策提案型パブリック・
ディベートコンテスト東北事務局**

@public.debate.tohoku・公共・行政サービス

メッセージを送信



省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事務局

2020年8月31日・🌐

【出場校募集開始】第2回大会！

第2回大会出場校の募集を開始しました！！

===== 第2回 =====

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト

=====

日時：2021年1月10日（日曜日）

会場：東北大学川内北キャンパス（仙台市青葉区川内41）
マルチメディア教育研究棟 2階 マルチメディアホール
講義棟 C棟

テーマ：
withコロナのための「新しい生活様式」を实践し、命と健康を守りながら持続可能な社会を目指すためには、どのような省エネ政策が効果的か。

新型コロナウイルスへの対応：
生徒の皆さん・引率者・観戦者・スタッフを含む全ての関係者の安全確保を最優先に、国や利用施設のガイドラインに沿った感染予防対策を実施いたします。

状況によっては、オンライン開催への変更も検討します。

※出場校募集要項などコンテストの詳細は、東北経済産業局HPをご覧ください。
https://www.tohoku.meti.go.jp/s_shigen.../public_debate.html



省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事務局

2020年10月30日・🌐

※コンテストの詳細は、東北経済産業局HPをご覧ください。
https://www.tohoku.meti.go.jp/s_shigen.../public_debate.html

いいね！ コメントする シェア



省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事務局

2020年10月30日・🌐

【出場校決定】第2回パブリック・ディベートコンテストの出場校を決定しました。

※オンライン開催に変更して開催します。-

出場校

○高校生の部

青森	八戸聖ウルスラ学院高等学校
岩手	岩手県立盛岡第三高等学校
宮城	学校法人古川学園 古川学園高等学校
秋田	秋田県立秋田西高等学校
秋田	秋田県立秋田高等学校
山形	山形県立山形東高等学校
福島	福島県立福島西高等学校
福島	福島県立平工業高等学校

○中学生の部

青森	八戸工業大学第二高等学校附属中学校
青森	学校法人青森山田学園 青森山田中学高等学校 Aチーム
青森	学校法人青森山田学園 青森山田中学高等学校 Bチーム
岩手	学校法人龍澤学園 盛岡中央高等学校附属中学校
宮城	東北学院中学校
宮城	学校法人古川学園 古川学園中学校
秋田	秋田大学教育文化学部附属中学校
福島	福島県立ふたば未来学園中学校

1 シェア1件

いいね！ コメントする シェア

公式 Facebook ページ②


省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事務局

2020年11月27日

よくあるご質問への回答を「20201127版」に更新しました。
https://www.tohoku.meti.go.jp/.../publi.../pdf/2020_8_qa.pdf

TOHOKU.METI.GO.JP
www.tohoku.meti.go.jp

いいね! コメントする シェア


省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事務局

2020年12月29日

第2回大会まで2週間を切りました。皆さま、体調に気をつけてお過ごしくださいませ。

1

いいね! コメントする シェア

コメントする...
Enterキーで投稿します。


省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事務局

2020年12月16日

接続テストにご参加いただいた皆様におかれましては
大変ありがとうございました！

いいね! コメントする シェア


省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事務局

1月10日 19:09

皆様、本大会にご参加いただき、誠にありがとうございます！
本日、本大会が無事終了を迎える事が出来ましたのも、参加いただいた皆様やご関係者の方々のおかげです。
厚く御礼申し上げます！
そして、第2回大会の栄冠は、
高校生の部 《優勝》 八戸聖ウルスラ学院高等学校
《準優勝》 秋田県立秋田高等学校
中学生の部 《優勝》 学校法人青森山田学園 青森山田中学高等学校Aチーム
《準優勝》 福島県立ふたば未来学園中学校
以上の4校の皆様が手にされました。
おめでとうございます！
初めてのオンライン大会となり不慣れな中、本日まで多くの時間を練習に充てて、いろいろと政策提案を練られてきたことと思います。
本当にありがとうございました。
私たち事務局も、本大会を機に、より多くの学生の皆様に、省エネについて考えていただければ幸いです。
今回ご参加が叶わなかった学校の皆様も、ぜひまたの機会にお会いできますよう願っております。
改めまして、本日はありがとうございました。

6 シェア3件

いいね! コメントする シェア

コメントする...
Enterキーで投稿します。

第 2 回

省エネ政策提案型

パブリック・ディベートコンテスト

大会のしおり

<目次>

1. 大会について	1
2. 事前提出書類	1
3. 大会スケジュールについて	1
4. 受付方法について	2
5. 試合組合せ抽選	3
6. 試合の進め方について	4
7. 昼食について	5
8. 決勝戦について	5
9. YouTube ライブについて	6
10. エネルギーの専門家との省エネワークショップの進め方について	6
11. 結果発表・表彰式について	7
12. 大会アンケートについて	7
13. Facebook で情報配信中	7
14. よくあるご質問への回答	7
(別添1) 参加者名簿(様式)	8
(別添2) 出場及び登録メンバー届(様式)	9
(別添3) よくあるご質問への回答(2020年11月27日版)	10
お問い合わせ先	12

1. 大会について

- 日時 : 令和3(2021)年1月10日(日) 9:00～16:30(※8:30受付開始)
- 大会本部 : TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口(仙台市青葉区花京院1-2-15 ソラプラザ)
- 使用ソフト : Cisco Webex Meetings
- 自校からオンライン接続(PC1台1回線で接続)
 - ・事務局から貸与したノートPCとWi-Fiルーター、または自校で準備したPCと通信環境から接続してください。Wi-Fiルーターは窓のそばに置いてください。
 - ・審判や相手チームに聞きやすくするために、外部マイクをPCに接続することを推奨します。
 - ・通信が安定しない場合はPCに学校の通信環境から有線で接続することをご検討ください。
※接続環境を変更された場合には必ず事務局にご連絡ください
 - ・Cisco Webex Meetings マニュアル(出場校向け)を参照して、Webex Meetings のインストール、接続を行ってください。

2. 事前提出書類

- 参加選手名簿(別添1): 大会申し込み時点より変更がある場合、大会前日の1月9日12時(正午)までに事務局(wada@p2company.co.jp)あてにメールでご提出ください。
 - ・締切後に不測の事態等で再度の変更が必要な場合は事務局に電話(070-4808-1974)で連絡したのち、大会当日の午前9時までにメールで再提出してください。併せて変更後の「出場及び登録メンバー届」も提出ください。
- 出場及び登録メンバー届(別添2): 大会前日の1月9日12時(正午)までに事務局(wada@p2company.co.jp)あてにメールでご提出ください。
 - ・第1試合と第2試合に出場する選手の届出を提出してください。
 - ・締切後に不測の事態等で変更が必要な場合は事務局に電話(070-4808-1974)で連絡したのち、大会当日の午前9時までにメールで再提出してください。

3. 大会スケジュールについて

- 大会当日の一日のスケジュールは、以下のとおり予定しています。
- 通信トラブル等が生じた場合は、それへの対処のため大会進行が遅れることがあります。
- 大会進行上の変更が生じた場合は、オンラインイベント会場の「遅延・障害等大会運営状況」でお知らせします。

08:30～09:00	受付開始
09:00～09:50	開会(挨拶・試合組合せ抽選・諸注意)【50分】
09:50～10:05	第1試合接続時間【15分】
10:05～10:15	準備時間【10分】
<u>10:15～11:15</u>	<u>第1試合【60分】</u>
※試合結果: 随時オンラインイベント会場の「トーナメント表(中学・高校共通)」を更新します	
11:15～12:05	昼食【50分】
12:05～12:10	第2試合接続時間【5分】
12:10～12:20	準備時間【10分】
<u>12:20～13:20</u>	<u>第2試合【60分】</u>
13:35	決勝進出チーム決定(トーナメント表(中学・高校共通)にて)
13:35～13:40	決勝進出チームは決勝戦接続時間【5分】
	その他はYouTubeライブに接続
13:40～13:50	準備時間【10分】
<u>13:50～14:30</u>	<u>決勝戦(中学生の部・高校生の部)【40分】</u>
14:30～14:40	投票【10分】
14:40～14:50	省エネワークショップ接続時間【10分】
<u>14:50～15:50</u>	<u>エネルギーの専門家との省エネワークショップ【60分】</u>
15:50～16:20	決勝戦解説・結果発表・表彰式【30分】
16:30	閉会

4. 受付方法について

- 受付は、8時30分～9時00分の間で行います。
- オンラインイベント会場のトップページを開く。
 - ・貸与したPCの場合はデスクトップに置いてある「第2回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト オンラインイベント会場」のショートカットアイコン、それ以外の方は <https://tohoku-debate.saloon.jp/> からオンラインイベント会場の「トップページ」を開きます。
 - ・トップページから「受付・開会式会場」に接続し、Cisco Webex Meetings を起動して会場に入室してください。
- 参加者の確認は事務局が行いますので、そのまま開会式までお待ちください。

オンラインイベント会場の「トップページ」



5. 試合組合せ抽選

○全8チームによるトーナメント形式で実施します。

第1試合の敗者は、第2試合で交流試合を行います。

○優勝チーム、準優勝チームを表彰します。

○第1試合での同校同県対決を回避する形で試合組合せ抽選を行います。

※実際のくじ（カード）は大会本部に用意します。

各チームは事務局の指示に従い、提示されたカードを選び、事務局に伝えてください。

【中学生の部】

①青森山田のAチームとBチームがカードを引く

・Aグループ（1,2,3,4）から1枚、Bグループ（5,6,7,8）から1枚引く。

②宮城県2校が申込み順にカードを引く。（東北学院中、古川学園中の順）

・東北学院中がカード（A,B）から1枚引く。

・東北学院中は選んだグループ側のカード（数字）から1枚、古川学園中はもう一方のグループ側からカード（数字）を1枚引く。

③残り4枚のカード（数字）をシャッフル →八戸工大第二高校附属中が1枚引く。

※青森山田チームと対戦になったら、再度引く（その場合、前に引いたカードはよけておく）。

④残り3枚（数字）をシャッフル →岩手、秋田、福島の各校が申込み順に1枚引く。

（盛岡中央高附属中、ふたば未来学園中、秋田大附属中の順）

【高校生の部】

①秋田県2校が申込み順にカードを引く。（秋田西高校、秋田高の順）

・Aグループ（1,2,3,4）から1枚、Bグループ（5,6,7,8）から1枚引く。

②福島県2校が申込み順にカードを引く。（福島西高、平工業高の順）

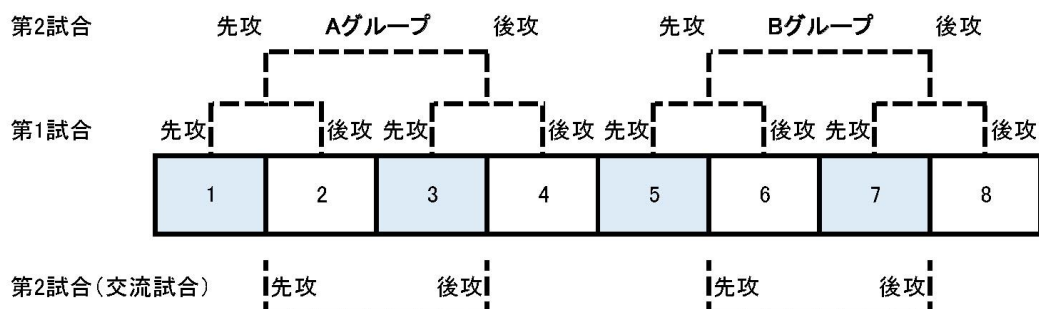
・福島西高がカード（A,B）から1枚引く。

・福島西高は選んだグループ側のカード（数字）から1枚、平工業高はもう一方のグループ側からカード（数字）を1枚引く。

③残り4枚（数字）をシャッフル →青森、岩手、宮城、山形の各校が申込み順に1枚引く。

（山形東高、古川学園高、八戸聖ウルスラ高、盛岡三高の順）

※左側が先攻、右側が後攻



6. 試合の進め方について

○接続時間（第1試合15分、第2試合5分、決勝戦5分）

- ・オンラインイベント会場のトップページから各校の試合会場となる「ルーム1～8」に接続してください。

○注意事項

- ・ディベーターの手元の紙がこすれる音などで相手チームや審判などがスピーチを聞き取りにくくなります。マイク付近で紙を動かすときは注意してください。
- ・マイクは、基本的に、ミュートにしておいてください。スピーチするステージでミュートを解除して、話すようにしてください。
- ・質疑と意見交換のステージでは、一人ずつ話をするようにしてください。
- ・試合の録画は、参加選手の肖像権等の保護の点から控えてください。ICレコーダー等での録音は、必要があれば行っていただいてもかまいません。

○出場及び登録メンバー以外からの助言について

- ・試合中は出場及び登録したメンバーのみで試合に臨んでください。
試合と試合の間に登録メンバー以外の人から助言いただくことは問題ありません。

○試合運営について

- ①通信トラブルで相手チームのスピーチが聞こえなくなった場合
 - ・担当教員がミュートを解除して『聞こえません』と声をかけて試合を止めて下さい。生徒はカメラに向かって手をクロスさせ×点（バッテン）を示してください。
計時担当は計時を停止。聞こえなくなったところから再開します。
- ②ノイズが入る場合
 - ・主審の判断で「映像を切断」し、音声のみで試合を継続する場合があります。
- ③通信トラブルが改善しない場合
 - ・大会運営に支障が生じる場合は、状況を踏まえて大会本部で協議の上、抽選等により勝敗を決定する場合があります。

○ガイドライン5表現と態度について（2）政策提案の際の掲示物について

- ・「政策提案をする時に、模造紙1枚までの大きさを用いて、イラストや図を審判や聴衆に示して説明することができる。」について、試合に使用するPCへの負担を考慮し、「政策提案をする時に、A4版～A3版程度の紙1枚をカメラの前にかざして、イラストや図を審判や相手チームなどに示して説明することができる。画面共有機能は使用しない。」として運用いたします。
- ・試合中は均等割画面で実施することから、6分割画面（2チーム、審判3名、大会本部）となります。模擬試合を参考に審判や相手チームからどのように見えるのか確認していただき、どのようにしたら最も審判や相手チームに伝わるか、生徒の皆さんで考えてお使いください。

○試合前の準備時間

- ・審判員から注意事項などをお話しします。
- ・スピーチをする選手は、氏名と担当するステージを発表いただきます。

大会のしおり⑥

○試合中

- ・政策提案型パブリック・ディベート・ルール及びガイドラインに基づき行います。

ステージ 1	先攻チームによる政策提案	4 分間
	後攻チームのための準備時間	2 分間
ステージ 2	先攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換	5 分間
ステージ 3	後攻チームによる政策提案	4 分間
	先攻チームのための準備時間	2 分間
ステージ 4	後攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換	5 分間
	準備時間	5 分間
ステージ 5	後攻チームによる論点明示と政策の再提案	4 分間
ステージ 6	先攻チームによる論点明示と政策の再提案	4 分間

- ・各ステージの発言者は、審判の合図に従ってスピーチを開始してください。
- ・質疑と意見交換を行うステージ 2 と 4 では、1 チームのディベーターは 1 ～ 2 名ですが、話をする時は一人ずつ話をしてください。

○各ステージについては、ルールおよびガイドラインを確認してください。

- ・「質疑と意見交換」では、相手チームの政策についての質疑にとどまらず、質疑の回答に即して建設的な改善意見を述べてください。(参照 ガイドライン 2 (2) ①②③)
- ・「論点明示と政策の再提案」では、政策の再提案に加えて、再提案した政策が相手チームの政策より重要であることを述べてください。(参照 ガイドライン 2 (3) ④)

○試合終了後

- ・1 ～ 6 全てのステージ終了後、審判が別ルームで判定協議 (10 分間) を行いますので、相手チームと交流しながらお待ちください。
- ・判定協議終了後、審判より講評と判定 (10 分間) をお伝えします。
- 各試合の結果は、トップページから「トーナメント表 (中学・高校共通)」に接続してご確認ください。

7. 昼食について

- 11 時 15 分～12 時 5 分まで昼休憩となります。
- ・各自昼食を取ってください。
- ・12 時 5 分になったら、次の試合のための会場に接続してください。

8. 決勝戦について

- 決勝戦は、中学生の部・高校生の部で行います。
- 決勝戦の勝敗は、YouTube ライブ視聴者に審判になっていただき、判定 (勝利チーム及び試合評価) を投票いただき集計の上決定します。
- 決勝戦進出校の関係者は、決勝戦のオンライン投票をご遠慮ください。
- 決勝戦の観戦及び投票について
 - ・決勝戦に出場しない生徒の皆さんは、トップページから「決勝戦視聴 (中学生の部)」または「決勝戦視聴 (高校生の部)」に接続して YouTube ライブで視聴してください。
 - ・中学生は中学生の部、高校生は高校生の部の決勝戦を視聴した上で、投票してください。
 - ・投票は google フォームにより実施します。
 - ・トップページから「決勝戦投票」に接続して投票してください。

9.YouTube ライブについて

- 出場校関係者（保護者含む）、出場できない申込校、大会関係者には事前登録により決勝戦（中学生の部・高校生の部）（13：40）から閉会式（16：30）まで、YouTube ライブで配信します。
- なお、ワークショップの【他のチームとの交流タイム】は配信されません。

10. エネルギーの専門家との省エネワークショップの進め方について

- 省エネワークショップは、全ての出場校の皆さんとエネルギーの専門家が一緒にディベートの振り返りを行う時間になります。言いたいこと、聞きたいこと、知りたいことなど、この時間を有効に使って、情報交換、交流していただければと思います。

○ワークショップの実施方法

- ・皆さんは、それぞれの端末（スマホ・タブレット・PC）でオンラインイベント会場のトップページからログインしてください。なお【他のチームとの交流タイム】以外は貸与 PC でご参加していただいても結構です。
- ・担当教員の方へ：
 - ※チームのメンバーにそれぞれ端末があることを確認してください。必要に応じてタブレット、PC のご準備をお願いします。
 - ※通信環境をご確認をお願いします。貸与 Wi-Fi ルーターは試合用 PC を含めて 10 台までしか接続できませんので、ご注意ください。ご不明な点があれば事務局までお問合せください。
 - ※生徒の皆さんに距離をとってもらうなどハウリング対策をお願いします。
- ・スマホを使用する場合はあらかじめ Cisco Webex Meetings アプリをインストールし、<https://tohoku-debate.saloon.jp/> あるいは右にある QR コードからオンラインイベント会場の「トップページ」を開き、「ワークショップ会場」に接続してください。（Cisco Webex meetings マニュアル（出場校向け）17 頁参照）



○ワークショップの進め方

ワークショップの進め方は、以下の通りを予定しています。

- ①講師紹介
 - ②講師の感想
 - ③【他のチームとの交流タイム】（約 20 分）
 - ・大会に出場している中高 16 チームは、2 チームずつ 8 つのルームに分かれてもらいます。
 - ・各チームの誰か一人は割り当てられたルームに居るようにしてください。ルームにいる人は交代してもかまいません。ルームの割り当ては、オンラインイベント会場の「ワークショップ用 チームの部屋割りスプレッドシート」に掲示します。
 - ・案内の後、退出ボタンを押してワークショップ会場から退出し、トップページから各「ルーム（1～8）」に接続してください。
 - ・他の皆さんは自由に他のルームに入って質問したり意見を聞いたり、自由に交流してください。各チームの提案は、オンラインイベント会場の「ワークショップ用 各チームの提案スプレッドシート」に掲示します。どのルームに入るかの参考にしてください。
 - ・時間になったら各ルームから退出ボタンを押して退室し、トップページから「ワークショップ会場」に接続してください。
 - ④【全体交流タイム】
 - 全体会場（ワークショップ会場）でみんなと一緒に考えてみたいこと、今日考えたことを発言して下さい。
 - ⑤最後に、講師からコメントがあります。
- ※①②④⑤は、ライブ配信されます。
- ③他のチームとの交流タイムはライブ配信しません！ 自由に交流してください！！

大会のしおり⑧

ワークショップ③交流タイムイメージ

 各チームの「移動しない人」
(交代可)

 自由に移動できる



11. 結果発表・表彰式について

- 高校生の部、中学生の部それぞれの優勝チーム、準優勝チームを表彰します。
- 優勝チーム、準優勝チームは、大会終了後に、チーム全員と担当の先生で集合写真を撮影し、写真データを事務局にメールで送信してください。各チームの写真を加工してメールで返送します。
- 参加申込時に登録いただいた引率者のメールアドレスあてに、大会当日 17 時を目途に賞状（押印無し pdf 版）を送付いたします。全校集会などで御活用ください。

12. 大会アンケートについて

- 次回の大会運営の参考とさせていただくため、大会アンケートを実施します。トップページから「WEB アンケート」に接続して各自アンケートにご回答ください。ご協力をお願いします。

13. Facebook で情報配信中

- 本大会の Facebook のページを立ち上げています。大会情報の発信を行うほか、出場校の選手同士における意見交換の場等としてご活用ください。

URL : <https://www.facebook.com/public.debate.tohoku/>

14. よくあるご質問への回答（2020 年 11 月 27 日版）

- よくあるご質問への回答（別添 3 参照）をまとめましたので、ご覧下さい。（東北経済産業局 HP にも掲載しています。）

大会のしおり⑨

別添 1

第2回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）参加者名簿

申し込み時点から参加選手の変更がある場合には、参加者名簿の再提出をお願いします。
（2021年1月9日12時（正午）まで）

年 月 日

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）事務局 宛 (wada@p2company.co.jp)

学校名 _____

1	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
2	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
3	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
4	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
5	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
6	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
7	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
8	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
9	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
10	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女

別添 2

出場 及び 登録 メンバー届

() 試合 学校名 ()

主張したい政策内容

()

☐ ←政策提案で掲示物を使用する場合はチェックしてください。

※第1試合及び第2試合用を、1月9日(土)12時(正午)までに、
事務局(wada@p2company.co.jp)あてメールで提出してください。
(必要な欄だけ用いて記入ください)

ステージ	ふりがな 氏 名	ふりがな 氏 名
政 策 提 案		
質疑と意見交換 (相手への質問と 意見交換)		
質疑と意見交換 (相手からの質問への 応答と意見交換)		
政 策 再 提 案		
登 録 選 手 (その試合で スピーチはしない)		

- ・1チームは2～10名で構成し、各ディベーターは、大会の予選試合において1試合は出場しなければならない。
- ・1つの試合において出場するメンバーは、スピーチ(質疑応答を含め)を最低1回は行うものとし、各ステージの担当は、1名ないし2名とする。

大会のしおり⑪

別添 3

《20201127版》

◎よくあるご質問への回答(政策提案型パブリック・ディベートコンテスト)

番号	質問	回答
1	中学生・高校生の混合チームで出場することは可能ですか。	可能です。ただし、その場合出場できるのは高校の部のみとなります。
2	8人チームで出場し、第1試合で4人、第2試合で残りの4人がスピーチをしようと考えていますが、第1試合(又は第2試合)でスピーチをしない選手も、準備時間中の話合いに参加させたいため、第1試合(又は第2試合)の選手席に座ることは可能ですか。	可能です。 大会前日正午までに「出場及び登録メンバー届」 試合の始まる前に出場者リスト(選手席に座るメンバーとそのうち各ステージのスピーチ担当者等を記載した名簿)を メール で提出してもらうので、そのリストに記載がある者は選手席に座ることが可能です。 なお、ルール2(1)に記載のとおり、 参加選手名簿に記載されている者は 、予選試合において、最低1回はスピーチ(質疑応答含む)を行わなければなりません。 2020年11月27日変更
3	対戦チームが似た内容の政策提案をした場合でも試合は成立しますか。	政策提案型パブリック・ディベートは、ルール4(2)②チーム評価の観点に記載のとおり、「ア政策提案」の他に「イ質疑・意見交換」や「ウ再提案する政策の重要度」もチーム評価の対象としています。よって政策提案以外のステージにおける討論によって評価に差が出ることから、似た内容の政策提案だとしても、試合は成立します。 また相手との細かな違いを見つけ出し、質疑・意見を交わすことで、より質の高い討論になると考えています。
4	試合毎に政策の提案内容を変えることは可能ですか。	可能です。もちろん全試合同じ提案内容でも構いません。
5	ガイドライン5(2)で政策提案時の掲示物は、「模造紙1枚まで」の大きさがありますが、どのくらいのサイズになるのでしょうか。	「模造紙1枚まで」とは「一人で持てるサイズの模造紙1枚まで」になります。 第2回大会はオンライン開催のため「A4版～A3版くらいの紙1枚」をカメラの前にかざしてください。 2020年11月27日変更
6	スピーチの際に、パワーポイント(PC)でを活用することは可能でしょうか。	パワーポイント(PC)の活用は認められません。ただし、パワーポイントのスライドを紙に印刷して掲示物 (A4版～A3版くらいの紙＝一人で持てるサイズの模造紙1枚) としてスピーチの際に活用することは可能です。 2020年11月27日変更
7	スピーチの際に、持ち込んではいけないものはありますか。	携帯電話(スマートフォン含む)・スマートウォッチ・パソコン等の通信機能があるものは、持ち込んではいけません。 オンライン開催に必要なパソコンは使用してください。それ以外の携帯電話(スマートフォン含む)・スマートウォッチ等は試合に持ち込んではいけません。 2020年11月27日変更

大会のしおり⑫

番号	質問	回答
8	政策提案型パブリック・ディベート・ワークシートについては事前提出が必要ですか？	事前提出は不要です。各学校の事前準備の際に御活用下さい。
9	1つの学校から2チームのエントリーも可能ですか。	2チームのエントリーも可能です。
10	大会申込み後に参加できなくなったり、新たに参加を希望する生徒がいた場合、出場選手のエントリー変更は可能ですか。	出場選手のエントリー変更は可能です。出場選手に変更がある場合は、大会前日正午までに「変更後の参加選手名簿」を事務局あてメールで提出してください。なお、再度変更が必要な場合は、事務局に電話をしてから、大会当日の午前9時までにメールで提出してください。出場選手の最終確認は、大会当日の受付で行いますので、出場選手に変更(追加や欠席等)があった場合には受付の際にお知らせ下さい。 2020年11月27日変更
11	選手がスピーチをしている時に、そのステージを担当する選手以外の人が、スピーチをしている選手に対し、口頭でアドバイスを送っても良いでしょうか。	そのステージを担当する選手以外の人が、選手がスピーチをしているときに、口頭でアドバイスを送ることはできません。各ステージは、それを担当する生徒1～2名に任せられます。ただし、アドバイスの内容を紙に書いて選手に渡すことについては、禁止されてはいません。しかし、スピーチしている最中にアドバイスの紙を見ると、選手が、かえってスピーチに混乱する場合もあることに留意してください。
12	政策の提案や再提案をするときに、ワークシートの通りに話さなくては行けませんか？ ルール の 時間内におさまりますか。	ワークシートは、ルールやガイドラインにそった政策の提案や再提案のスピーチを考えるときに、参考になる資料として作成したものです。参考にしていただきたいものであって、このワークシートの通りに話さなくてはならないということではありません。ワークシートを参考に、審判や聴衆に伝わるような構成を工夫してください。
13	出場校募集要項に「状況によっては、オンライン開催への変更も検討します」と記載されていますが、どちらで開催されるのでしょうか？	募集開始後の新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、オンライン開催への変更に向けて検討しています。 正式に決定した場合は東北経済産業局HPでお知らせいたします。 オンライン開催に変更して開催します。 2020年10月30日変更

【お問い合わせ先】

①大会の内容に関するお問い合わせ

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事務局 担当：和田

E-mail： ken@ken-japan.com 電話：03-3473-7871 FAX：03-3473-7870

②本事業に関するお問い合わせ

東北経済産業局 総合エネルギー広報室 担当：高橋、柴崎

E-mail： ken@ken-japan.com 電話：022-221-4927（直通）FAX：022-213-0757

③パブリック・ディベートの内容やルールに関するお問い合わせ

パブリック・ディベートコンテスト実行委員会

実行委員長 江間史明（山形大学大学院教育実践研究科教授）

E-mail： ken@ken-japan.com 電話・FAX：023-628-4390

④大会前日当日の緊急連絡先

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事務局 担当：大聖（だいしょう）

携帯： [090-4555-1111](tel:090-4555-1111)

大会プログラム①

PROGRAM

Public Debate Contest

テーマ

**withコロナで
省エネルギー提案!!**

～持続可能な社会を目指すための省エネ政策～

中学生・高校生による

第2回

省エネ政策提案型
パブリック・ディベートコンテスト



**決勝戦
ONLINE
ライブ配信**

開催日時 2021年1月10日(日) 9:00～16:30

会 場 オンライン開催

大会本部：TKPガーデンシティPREMIUM仙台西口 7C・7D
(仙台市青葉区花京院1-2-15 ソラプラザ)

配 信 決勝戦ONLINEライブ配信 13:40～16:30

PROGRAM

9:00 開会
10:05 第1試合
12:10 第2試合
13:40 決勝戦(中学生の部・高校生の部) オンライン投票
14:50 エネルギーの専門家との省エネワークショップ
15:50 決勝戦解説・結果発表・表彰式
16:30 閉会
(決勝戦～閉会までYouTubeライブで配信)

オンライン開催

出場校生徒・担当教員・視聴参加の皆様へ

◎ 決勝戦の勝敗は、参加者全員に審判になっていただき、判定(勝利チーム及び試合評価)を投票いただき集計の上決定します。

※決勝戦進出校の関係者はオンライン投票をご遠慮いただきます。



決勝戦、省エネワークショップ、閉会式はYouTubeライブで配信します。

令和2年度 省エネルギー促進に向けた広報事業

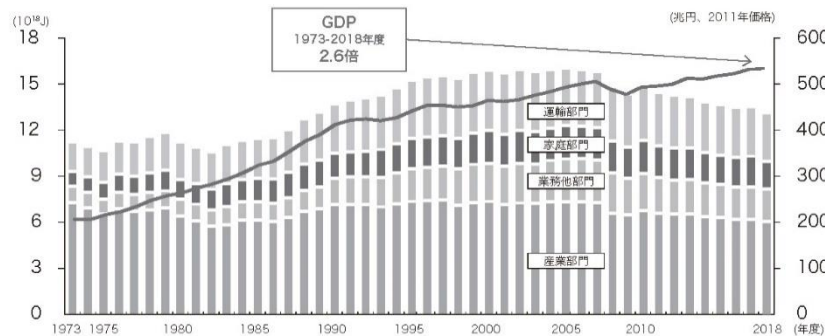
表 1

大会趣意

withコロナで
省エネルギー提案!!

～持続可能な社会を目指すための省エネ政策～

■ わが国の最終エネルギー消費と実質GDPの推移



出所：資源エネルギー庁「令和元年度エネルギーに関する年次報告」（エネルギー白書2020）

2020 年春、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため学校が休校となってからのステイホーム、そして緊急事態宣言。今まで当たり前だと思っていたことが当たり前でない時代になりました。

日本は、1970 年代の石油危機以降、省エネルギーを推進し、1973 年から 2018 年までに GDP は 2.6 倍に伸ばしましたが、エネルギー消費は 1.2 倍の増加に留めています。また、東日本大震災が発生した 2011 年以降は節電意識の高まりなどで全体のエネルギー消費の減少が進みました。

一方、家庭部門においては、快適・利便性を求めるライフスタイルの変化等により、1973 年から 2018 年までにエネルギー消費は 1.9 倍に増加しており、省エネルギーの推進が喫緊の課題となっています。2015 年 7 月に策定された「長期エネルギー需給見通し（エネルギーミックス）」では、徹底した省エネルギー対策により、2030 年度までに、2013 年度の最終エネルギー消費（原油換算 3.6 億 kl）から原油換算 5,030 万 kl 程度（13%程度）ものエネルギーを削減することとしています。

2020 年度に向けて省エネしていこう、そんなときに起きたのが、今回の新型コロナウイルス感染症の世界的大流行でした。日本では、4 月から 5 月まで緊急事態宣言が発令され、外出や営業の自粛の要請なども行われました。交通量が激減し、工場の稼働が停止・縮小されました。その結果、大気汚染などは一時的に劇的に改善された地域もあります。

しかし、このように強制的に我慢してエネルギー消費を少なくすることは、「省エネルギー」ではありません。

省エネルギーとは、「エネルギーを効率よく使うこと」なのです。

このステイホームの期間に、新しい生活様式が提案され、企業の在宅勤務が進んだり、持ち帰り食品用のプラスチック容器の利用が増えたりしました。日本全体のエネルギー消費は減少したものの家庭部門は増加した、という調査結果などを耳にしたこともあるのではないのでしょうか。3 月から 5 月の都市ガス消費をみると、日本全体では前年同期比 7.3%減少しましたが、家庭部門では前年同期比 4.6%増加しました。ステイホームした皆さんも電気やガスなどのエネルギーをいつもより多く使っていたのかもしれない。

with コロナの時代、限りある資源を効率よく使い、省エネルギーを進めることで、持続可能な社会の実現に一歩近づくことができるのです。

政策を求める問い

そこで、今回は、with コロナのための「新しい生活様式」を実践し、命と健康を守りながら持続可能な社会を目指すためには、どのような省エネ政策が効果的か、と問います。ステイホームしたときの自分自身の行動や社会の状況を振り返り、第一に、新しい生活様式を実践しながら持続可能な社会の実現につながる、省エネな「ありたいライフスタイル」を自由に想像・提案し、第二にその「ライフスタイル」の普及を応援するために日本政府や地方自治体等が採用すべき「ユニークな政策」を提案してください。

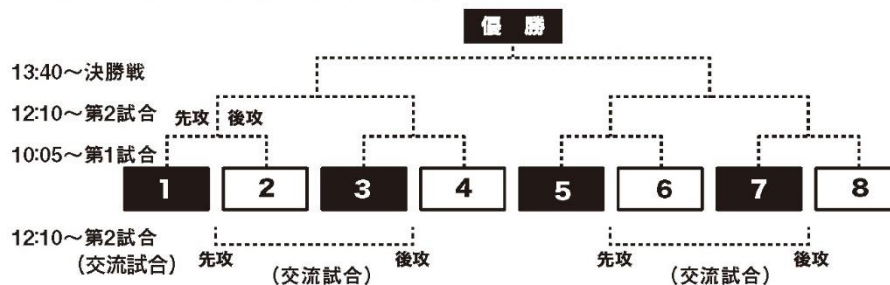
みなさん、with コロナの社会の今後を、根拠をもって見通しつつ、新しい生活様式に対応した省エネを一層促進するために効果的な政策について、ディベートで検討しましょう。

試合の進行について

◎ 試合は、「中学生の部」と「高校生の部」に分かれて行われます。

◎ 全8チームによるトーナメント形式で実施します。

決勝戦を除き、トーナメント表の左側のチームが先攻となります。



◎ 1試合は、35分間、2つのチームが「先攻」「後攻」に分かれて行われます。

試合の構成は「政策の提案」→「提案に対する質疑と意見交換」→「政策の再提案」という流れで進みます。

【準備時間】		◎ 審判から注意事項などをお話しします。
		◎ スピーチをする選手より氏名と担当するステージを発表いただきます。
35分間	ステージ1	先攻チームによる政策提案 4分間
		後攻チームのための準備時間 2分間
	ステージ2	先攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換 5分間
	ステージ3	後攻チームによる政策提案 4分間
		先攻チームのための準備時間 2分間
	ステージ4	後攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換 5分間
	準備時間	5分間
	ステージ5	後攻チームによる論点明示と政策の再提案 4分間
	ステージ6	先攻チームによる論点明示と政策の再提案 4分間
	試合終了後、判定協議（10分間）、講評・判定（10分間）を予定しています。	

出場校

中学生の部

青森	八戸工業大学第二高等学校附属中学校
青森	学校法人青森山田学園 青森山田中学高等学校Aチーム
青森	学校法人青森山田学園 青森山田中学高等学校Bチーム
岩手	学校法人龍澤学園 盛岡中央高等学校附属中学校
宮城	東北学院中学校
宮城	学校法人古川学園 古川学園中学校
秋田	秋田大学教育文化学部附属中学校
福島	福島県立ふたば未来学園中学校

高校生の部

青森	八戸聖ウルスラ学院高等学校
岩手	岩手県立盛岡第三高等学校
宮城	学校法人古川学園 古川学園高等学校
秋田	秋田県立秋田西高等学校
秋田	秋田県立秋田高等学校
山形	山形県立山形東高等学校
福島	福島県立福島西高等学校
福島	福島県立平工業高等学校

大会プログラム④

◎ の中にチーム名を記入して視聴観戦してください。

中学生の部

トーナメント表

優勝

13:40～決勝戦

12:10～第2試合

10:05～第1試合

12:10～第2試合
(交流試合)

(交流試合)

(交流試合)

高校生の部

トーナメント表

優勝

13:40～決勝戦

12:10～第2試合

10:05～第1試合

12:10～第2試合
(交流試合)

(交流試合)

(交流試合)

【お知らせ】

- 通信トラブル等が発生した場合は、その対処のため大会進行が遅れることがあります。



主催 : 東北経済産業局、東北ハブリック・ディベートコンテスト実行委員会
 協力 : 特定非営利活動法人全国教室ディベート連盟東北支部、一般財団法人省エネルギーセンター東北支部
 後援 : 青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・仙台市 各教育委員会、
 河北新報社、朝日新聞仙台総局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、
 日本経済新聞社仙台支局、産経新聞社東北総局、東奥日報社、デーリー東北新聞社、
 岩手日報社、秋田魁新報社、山形新聞・山形放送、福島民報社、福島民友新聞社、
 日刊工業新聞社東北・北海道総局、
 NHK仙台放送局、tbc東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB東日本放送

表 4



第2回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（決勝戦投票フォーム）

本大会のディベートは政策提案型パブリック・ディベートと呼びます。この投票フォームで、試合生放送で行われた2つのチームの議論を比較して優位な方に投票ください。自分の好みや意見に近い方に投票するということではありません。

***必須**

あなたは、どちらの決勝戦を観戦しましたか？ *

- ☐ 中学生の部
- ☐ 高校生の部

あなたは、どちらですか？ *

- ☐ 決勝戦視聴事前登録者
- ☐ 出場校の選手と引率の先生
- ☐ 審判

次へ



第2回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（決勝戦投票フォーム）

*必須

決勝戦投票フォーム 事前登録者

決勝戦視聴を申し込みした際のメールアドレスをご記入ください。*

メールアドレスが重複した際は後のメールアドレスの回答を採用します。

回答を入力

1.勝利チーム*

審判は、①現状を分析して解決すべき問題を取り出し、理念等を明確にして問題解決の助けになる実行可能な政策か②積極性、重要な論点の指摘③当初の提案からの改善度合い、相手チームの提案より重要か、に注目しています。そうした点も、投票をする際の参考にしてください。

☐ 先行チームの勝利

☐ 後攻チームの勝利

2.試合評価（いずれかを選択してください。）*

決勝戦の試合自体の評価をお願いします。①聞き取りやすくわかりやすかったか、②双方の論点をかみ合わせてないように広がりや深まりがあったか、③結論が具体的な根拠に支えられていたか、に着目して、5段階で評価ください。

選択 ▼

戻る

次へ



第2回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（決勝戦投票フォーム）

省エネ型政策提案型パブリック・ディベートコンテスト アンケート調査

選択肢を選んでください。また、ご意見があればテキストボックスに記述をお願いします。

1.パブリック・ディベートの試合はいかがでしたか？

選択



2.各チームのスピーチは、聞き手を意識したわかりやすいものでしたか。

選択



決勝戦投票事前登録者用アンケートフォーム③

3.「エネルギーの専門家との省エネワークショップ」はいかがでしたか。

選択 ▼

4.本大会を通してエネルギーや省エネへの関心は高まりましたか。

選択 ▼

5.次回も本大会を観戦したいですか。

選択 ▼

その他、全体を通してお気づきの点やご意見、決勝戦はこんなところに注目して評価したなどあればご記入ください。

回答を入力

戻る

送信



第2回省エネ政策提案型パブリック・ ディベートコンテスト 出場チーム生徒 及び 引率者向けアンケートフォーム

選択肢を選択してください。また、次回のより良い大会の実施に向け、お気づきの点や改善
して欲しい点がございましたら、テキストボックスに記述をお願いします。

***必須**

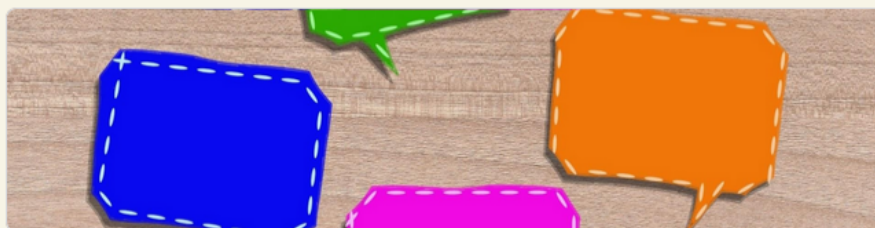
あなたは、以下のどれにあてはまりますか。 *

☐ 中学校生徒・引率者

☐ 高等学校生徒・引率者

次へ

1/6 ページ



第2回省エネ政策提案型パブリック・ ディベートコンテスト 出場チーム生徒 及び引率者向けアンケートフォーム

*必須

1.あなたは、以下のどのチームに所属していますか。 *

- ☐ 盛岡中央高等学校附属中学校
- ☐ 東北学院中学校
- ☐ 福島県立ふたば未来学園中学校
- ☐ 八戸工業大学第二高等学校附属中学校
- ☐ 秋田大学教育文化学部附属中学校
- ☐ 青森山田中学高等学校
- ☐ 古川学園中学校

2.あなたは、以下のどれにあてはまりますか。 *

- ☐ 1年生
- ☐ 2年生
- ☐ 3年生
- ☐ 引率者

戻る

次へ

2/6 ページ



第2回省エネ政策提案型パブリック・ ディベートコンテスト 出場チーム生徒 及び引率者向けアンケートフォーム

1.あなたは、以下のどのチームに所属していますか。

- ☐ 山形県立山形東高等学校
- ☐ 福島県立福島西高等学校
- ☐ 福島県立平工業高等学校
- ☐ 秋田県立秋田西高等学校
- ☐ 秋田県立秋田高等学校
- ☐ 古川学園高等学校
- ☐ 八戸聖ウルスラ学院中学・高等学校
- ☐ 岩手県立盛岡第三高等学校

2.あなたは、以下のどれにあてはまりますか。

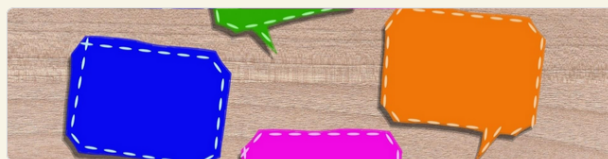
- ☐ 1年生
- ☐ 2年生
- ☐ 3年生
- ☐ 引率者

戻る

次へ

3/6 ページ

出場チーム生徒及び引率者向けアンケートフォーム④



第2回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト 出場チーム生徒及び引率者向けアンケートフォーム

出場校募集～大会前日までに係わるご質問

3.大会趣意は、ディベートのテーマとしていかがでしたか。

- ☐ 満足
- ☐ やや満足
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ やや不満
- ☐ 不満

その理由をお聞かせください。

回答を入力

4.政策提案型パブリック・ディベートのルールの内容はいかがでしたか。

- ☐ 満足
- ☐ やや満足
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ やや不満
- ☐ 不満

その理由をお聞かせください。

回答を入力

5.政策提案型パブリック・ディベートのガイドラインの内容はいかがでしたか。

- ☐ 満足
- ☐ やや満足
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ やや不満
- ☐ 不満

その理由をお聞かせください。

回答を入力

出場チーム生徒及び引率者向けアンケートフォーム⑤

6.政策提案型/パブリック・ディバートのワークシートの内容はいかがでしたか。

- ☐ 満足
- ☐ やや満足
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ やや不満
- ☐ 不満

その理由をお聞かせください。

回答を入力

7.事前の学習資料（ディバートを始めるための参考資料、エネルギー関連資料等）の内容はいかがでしたか。

- ☐ 満足
- ☐ やや満足
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ やや不満
- ☐ 不満

その理由をお聞かせください。

回答を入力

8.省エネ無料講座の内容はいかがでしたか。

- ☐ 満足
- ☐ やや満足
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ やや不満
- ☐ 不満

その理由をお聞かせください。

回答を入力

9.模擬試合（12月13日開催）に参加または視聴していかがでしたか。

- ☐ 満足
- ☐ やや満足
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ やや不満
- ☐ 不満

その理由をお聞かせください。

回答を入力

戻る

次へ

4/6 ページ



第2回省エネ政策提案型パブリック・ ディベートコンテスト 出場チーム生徒 及び引率者向けアンケートフォーム

大会当日に係わるご質問

10.大会のスケジュール（プログラム内容や時間配分等）はいかがでしたか。

- ☐ 満足
- ☐ やや満足
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ やや不満
- ☐ 不満

その理由をお聞かせください。

回答を入力

11.審判（進行、講評、判定等）はいかがでした。

- ☐ 満足
- ☐ やや満足
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ やや不満
- ☐ 不満

その理由をお聞かせください。

回答を入力

出場チーム生徒及び引率者向けアンケートフォーム⑦

12.決勝戦はいかがでしたか。

- ☐ 満足
- ☐ やや満足
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ やや不満
- ☐ 不満

その理由をお聞かせください。

回答を入力

13.省エネワークショップはいかがでした。

- ☐ 満足
- ☐ やや満足
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ やや不満
- ☐ 不満

その理由をお聞かせください。

回答を入力

14.本大会を通してエネルギーや省エネへの関心は高まりましたか。

- ☐ 高まった
- ☐ やや高まった
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ 高まらなかった

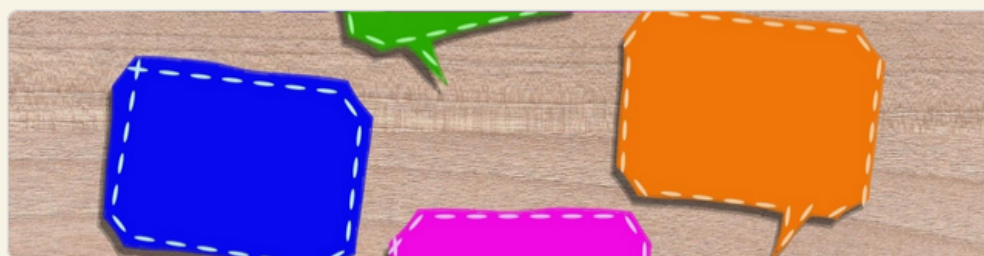
その理由をお聞かせください。

回答を入力

戻る

次へ

5/6 ページ



第2回省エネ政策提案型パブリック・ ディベートコンテスト 出場チーム生徒 及び引率者向けアンケートフォーム

次回の大会に向けた質問

15. 次回大会にも参加したいと考えていますか。

- ☐ はい
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ いいえ
- ☐ その理由をお聞かせください。

その理由をお聞かせください。

回答を入力

16. 大会に出場して感じたことや考えたことを、ご自由にお書きください。

回答を入力

戻る

送信

6/6 ページ

令和 2 年度省エネルギー促進に向けた広報事業
(次世代層向けの省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテストの実施)

**第2回省エネ政策提案型
パブリック・ディベートコンテスト
事業成果報告書**

東北経済産業局資源エネルギー環境部総合エネルギー広報室